

2012年度 授業要覧

文学部 履修ガイド



青山学院大学

教育方針・理念

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人にとり仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学のすべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのおのの立場において、時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

総目次

I. キリスト教教育について	2
II. 大学での学習活動について	3
1 大学での学習とは（カリキュラム／履修）	
2 単位（単位制／単位とは／単位数／既修得単位の認定／協定校・認定校留学による単位認定）	
3 授業科目の種類と配置（授業科目の種類／履修年次／履修順序）	
III. 履修について	6
1 履修計画（履修計画の立案／履修計画上の注意）	
2 履修登録（履修登録の方法／履修登録の確認と修正／履修登録について／履修取消制度について／履修取消申請方法）	
IV. 学部履修要項	11
V. 授業について	194
1 授業（授業時間／授業教室／休講／補講／授業の欠席について）	
2 大学からの伝達	
3 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について	
VI. 試験・レポートについて	197
1 試験の種別（定期試験／平常試験／レポート／追試験）	
2 定期試験の受験（定期試験時間／受験上の注意／不正行為）	
3 追試験（申請資格／申請方法／追試験時間・採点）	
VII. 成績評価について（成績評価／G.P.A.／成績通知／成績調査）	201
VIII. 進級および卒業について（進級／卒業／9月卒業／卒業延期制度）	203
IX. 学籍について	204
（修業年限／在学年限／休学／復学／退学／再入学／二重学籍／除籍／転部・転学部・転学科）	
X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について	206
XI. 大学院について	225
巻末 学務担当窓口について	

I. キリスト教教育について

本学のキリスト教教育

キリスト教の精神のもとに建てられている青山学院は、その「教育方針」にも明記されているように「キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもって すべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」特別な学校です。したがって、その中に設置された青山学院大学においても、キリスト教教育を非常に重視しています。

本学における教育の特徴が他の国公立や私立の大学と異なる最もユニークな点は、このキリスト教による教育方針にあるといえます。

この教育方針をまっとうするために、本学には次の3つの基本的プログラムがあります。

- (1) 大学礼拝 (2) キリスト教概論 (3) 宗教センター活動

(1) 大学礼拝

大学では、キリスト教教育の中心に礼拝を位置づけており、時間を定めて礼拝を行っています（礼拝時間：青山・月～金 10時30分～11時 および 火 19時30分～20時、相模原・月～土 10時30分～11時）。大学礼拝は、キリスト教の信仰を土台とする学院の精神を最も具体的に示す場であるとともに、みなさんにキリスト教による人格教育を行う教育の場でもあります。また大学礼拝は教会における礼拝とは異なり、キリスト教信者だけの礼拝ではありません。礼拝出席は自由ですが、青山学院大学の独特な“スピリット”は礼拝においてよく表わされているので、大学礼拝を体験することなしに本学の教育を受けたとは言えないのです。

(2) キリスト教概論

大学の必修科目の一つとして、「キリスト教概論」があります。この講義は、本学建学の精神であるキリスト教の信仰の内容を学問的に研究し、聖書を通してキリスト教の教義、歴史、神学、実践などの問題を理解するとともに、キリスト教の意義を学ぶことを目的としています。大学礼拝とキリスト教概論とは密接な関係があり、そのため礼拝レポートがキリスト教概論の中に取り入れられています。その他数多くのキリスト教関連科目が青山スタンダード(テーマ別科目)、スーパー・プログラム科目、各学科科目のなかに配置され、みなさんの知的好奇心にチャレンジしています。

(3) 宗教センター活動

青山学院は、プロテスタント・キリスト教信仰の上に創立された学園であり、宗教センターは、特に、メソジスト教会の創始者、ジョンおよびチャールズ・ウェスレー兄弟の信仰的伝統を重んじ、キリスト教活動を行っています。青山キャンパスは間島記念館1階に、相模原キャンパスはC棟(チャペル)1階にそれぞれ宗教センターがあり、学生キリスト教活動の中心になっています。

各宗教センターでは、みなさんのために「聖書に親しむ会」、「キリスト教文化に親しむ会」、青山キリスト教学生会(A.C.F.)、聖歌隊、ハンドベル・クワイア、ゴスペル・クワイアまた、キリスト教図書の閲覧、講演会・コンサートの開催、研修旅行の実施などの活動が行われており、学生生活に色彩とバランスをあたえるために重要な役割を果たしています。さらに、各宗教センターには専任の宗教主任がおり、事務職員と協力して毎日みなさんのために宗教上の指導、アドバイス、教会紹介、カウンセリングなどの責任を負っています。この宗教センター活動は他大学とは異なる本学独特のシステムであり、みなさんの利用を待っています。

Ⅱ．大学での学習活動について

1．大学での学習とは

カリキュラム

大学の授業科目、単位数、履修年次（どの学年で履修するか）を体系的に編成したものを「カリキュラム（教育課程）」といいます。所属する学部・学科のカリキュラムにそって学習を進め、最終的に、定められたカリキュラムの授業内容を修得することが、大学での学習の目的です。

カリキュラムは入学年度別に定められており、卒業まで変更はありません。

各学部・学科のカリキュラムについては、「Ⅳ．学部履修要項」を参照してください。

履 修

各学部・学科のカリキュラムにそって配置された授業科目の受講を大学に申請することを「履修登録」、授業を受け、試験に合格して単位を得ることを「単位を修得する」といいます。この「履修登録」から「単位修得」までの一連の流れを「履修」といいます。

図式化すると以下のようになります。



大学では、カリキュラムで定められた範囲で履修する科目を選択することができますが、卒業に至るまでの過程は自己責任であるということを常に念頭に置いてください。

2. 単 位

単位制

単位制とは、卒業するために、在学年限内に所定の単位を修得しなければならない制度です。これは極めて厳格なもので、たとえ1単位であっても不足すると卒業できません。卒業に必要な単位数は、学部・学科ごとに定められています。詳しくは、「IV. 学部履修要項」の「卒業要件」を参照してください。

単位とは

単位とは、学習の成果を量的に表したものです。授業科目を履修し、出席回数、平常試験・定期試験またはレポート、その他担当教員が必要と認める学習作業の結果などによって、その授業科目に合格したと担当教員が判断したとき、所定の単位が与えられます。

単位数

単位数は、それぞれの授業科目ごとに定められており、授業形態によって算定方法が異なります。

大学設置基準による規定	1単位の標準＝“45時間の学修が必要な内容”
-------------	------------------------

本学での単位算定方法

講義・演習の科目では…	1単位＝授業15～30時間分
実験・実習・実技（スポーツなど）の科目・集中科目では…	1単位＝授業30～45時間分

15時間の講義科目（1単位）を例にとると、“45時間の学修を必要とする内容”で1単位、と規定されており、授業時間外に30時間の自習が前提となっています。

なお、ここでいう“1時間”とは、授業時間45分を表します。本学での1時限の授業は90分で行われているので、単位計算上は、1時限＝“2時間分の授業”となります。

半期の講義科目では、

15週×2時間＝30時間分＝2単位

となります。

実際の単位数

半期科目 (前期のみ、または後期のみの科目)	15週で完結 ・講義科目なら2単位 ・演習科目なら2単位または1単位 ・実験・実習・実技科目なら1単位
通年科目 (一年を通して行われる科目)	30週で完結 ・講義科目なら4単位 ・演習科目なら4単位または2単位 ・実験・実習・実技科目なら2単位

既修得単位の認定

新たに入学した1年生で、本学入学以前に他大学・短期大学ですでに修得した単位があり、修得済み単位として認定を受けたい学生は、指定された期間(入学式翌日～前期授業開始日)に書類を相模原キャンパス学務グループに提出し申請してください。60単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って単位が認定されます(大学学則第42条参照)。この申請は、入学した年度に限って可能であり、次年度以降に申請することはできません。

編入・転部または転学部・転学科した学生の場合は、それまで修得した単位のうち、各学部・学科が適当と認める科目の単位が認定されますので、指定された期間(入学手続時配付書類に記載)に書類を青山キャンパス学務部教務課に提出し申請してください。

協定校・認定校留学による 単位認定

協定校留学・認定校留学の制度によって留学した場合は、帰国後所定の手続きをふむことにより、留学先で修得した単位が60単位を超えない範囲で各学部・学科の基準に従って認定されます。ただし、教職課程における必修科目および選択必修科目は、認定の対象外となり

3. 授業科目の種類と配置

授業科目の種類

ます。

各授業科目は、卒業要件として必ず履修・修得しなければならないか否かによって、以下の3つに区分されます。

授業科目の種類

必修科目	必ず履修し、単位を修得しなければならない科目
選択必修科目	指定されたいくつかの科目の中から選択履修し、各学部・学科所定の単位数を必ず修得しなければならない科目
選択科目	自由に選択履修し、必要単位数を修得する科目

上記の内容でわかるとおり、履修の際には、「必修科目」を優先して卒業要件単位を満たしてゆく必要があります。

また、授業の開講期間によって、1年を通じて実施する「通年科目」、前期あるいは後期で完結する「半期科目」、夏期・冬期休業期間などを利用して実施する「集中講義科目」に分かれます。

履修年次

「履修年次」とは、それぞれの授業科目を履修するのが望ましい学年のことです。履修年次は、4年間の学習を系統的に行えるよう、カリキュラムに基づいて定められています。

履修年次は「IV. 学部履修要項」部分の科目配置表に記載されていますので、それに従って科目を履修してください。

原則として、現在の学年より上級の年次に配置されている授業科目を履修することはできませんが、現在の学年より下級の年次に配置されている授業科目であれば履修することができます。ただし、例外もありますので、「IV. 学部履修要項」で確認してください。

履修順序

各学部・学科には、段階的に学習を進めるために「履修順序」が設けられた授業科目があります。これは、ある授業科目の単位を修得しなければ、その上級科目として設けられている授業科目を履修することができない、というものです。

上級に設けられた授業科目は、初級の授業科目の内容をすでに修得していることを前提とし、その次の段階から授業を始めます。したがって、初級の授業科目と上級の授業科目を同時に履修することはできません。ただし、4年次留年生は、学部・学科によっては履修順序に関係なく履修できる場合もあります。

各学部・学科の履修順序については、「IV. 学部履修要項」に記載されています。ただし『講義内容』に記載されている場合もありますので注意してください。

Ⅲ. 履修について

1. 履修計画

履修計画の立案

大学においては、各学生がカリキュラムにそって履修計画を立て、受講したい科目を選択します。

授業科目には、あらかじめ登録されている「事前登録科目」（必修科目等）があり、学生はそれ以外の時限について履修計画を立てることになります。

履修計画を立てるに当たっては、カリキュラムについてよく理解し、所属学部・学科で定められた必修科目の修得と、進級や卒業に必要な履修規定上の必要条件（進級条件・卒業要件）を満たすことを優先させます。

第一部では、1年間で履修申請できる単位数が決められています。下記の(1)～(4)にそって、履修計画を立ててください。

- (1) 年度初めのオリエンテーション期間中に行われる所属学部・学科のガイダンスに出席する。

ガイダンスでは、履修上の注意や授業科目の説明が行われますので、必ず出席して最新の情報を得てください。

- (2) カリキュラムの内容、特徴、意義について知る。

「IV. 学部履修要項」の卒業要件単位表・科目配置表で、各授業科目がどのような分野に属しているかを確認してください。履修順序についても、ここで確認してください。

- (3) 各授業科目の講義内容を知る。

Web版『講義内容』（「学生ポータル」の「講義内容検索」よりアクセス可能）には、各授業の詳しい授業計画などが記載されています。履修しようと思う科目の内容をよく確認してください。具体的な授業内容を知りたい場合は、履修登録期間中に受講してみる、受講時に担当者に確認するなどの方法でも講義内容を確認できます。（履修登録期間終了後は、履修登録をしていない科目を受講することはできません。）

「IV. 学部履修要項」の「履修年次」は履修が望ましい年次を表しています。また、『講義内容』の「履修年次」は履修可能な年次を表示しています。履修順序などで履修が制限されることがありますので、「IV. 学部履修要項」で必ず確認し、なるべく望ましい年次での履修を心がけてください。

- (4) 卒業に必要な科目と単位数、資格に必要な科目と単位数を知る。

卒業要件単位とは、卒業に必要な最低限の単位です。教員免許状および各種資格を取得するためには、これに加えてそれぞれに必要な所定の単位を修得しなければなりません。「IV. 学部履修要項」、「X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について」および冊子『教職課程履修の手引』を参照し、各自の目標に合った計画を立ててください。

履修計画上の注意

履修計画に際しては、以下のことに注意してください。

- (1) 同一時限に、2科目以上の授業科目を重複して履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (2) 第一部では各学部・学科で1年間の履修登録単位数の限度（最高履修制限単位）が定められており、その単位数を超えて履修することはできません。
教職課程関連科目および教職課程科目については「IV. 学部履修要項」および冊子『教職課程履修の手引』を参照してください。
- (3) 既に単位を修得した科目を、再度履修登録することはできません。（特に許可された科目を除きます。）
- (4) 他キャンパスの授業科目を履修する場合、90分間の移動時間が必要です。この移動時間の間に実施されている授業科目の履修はできません。

- (5) 他学部科目の履修を希望する場合、「IV. 学部履修要項」の「他学部科目一覧表」を参照してください。
- (6) 第一部の学生が第二部開講科目を履修することはできません。また、第二部の学生が第一部開講科目を履修することはできません。
- (7) 履修登録締め切り後、登録に不備や間違いがあったときは、当該科目の登録が無効となります。
- (8) 受講者数が著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果などを考慮して、クラスの分割・抽選などの措置を取ることがあります。

2. 履修登録

履修登録の方法

「履修登録」は、年度初頭に、その年度に履修を希望する授業科目を大学に登録する、大変重要な手続きです。(集中講義科目、後期に開講される科目も年度初頭に履修登録を行います。)

本学の履修登録は、基本的には Web 上のシステム「Web 履修登録システム」(パソコンまたは学内情報端末を使用)で行います。詳細については、冊子『履修登録システム利用案内』を参照してください。

履修登録方法は次のとおりです。それぞれについてよく読み、理解しておいてください。

【登録番号と履修登録方法】

『授業時間割表』の登録番号表示	履修登録方法
数字 5 桁で表示されている	Web 履修登録システムを利用して、自分で登録できます。履修登録期間内であれば、自分で削除することもできます。
+++++	Web で抽選または選考を行う科目です。Web 履修登録システムの「制限科目申請」から応募してください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。曜日時限等に間違いのないよう、注意して応募してください。また、受付期間が科目によって異なりますので、注意してください。 注) 青山スタンダード教養コア科目(人間理解関連科目、社会理解関連科目、自然理解関連科目、歴史理解関連科目)は、学生ポータルに登録・申請メニューにある「青山スタンダード教養コア科目応募登録」から応募してください。
*****	Web 以外で抽選または選考を行う科目です。所定の日時・場所(オリエンテーション期間中や初回授業等)で申請してください。申請方法については、『学年初頭行事』や『講義内容』、学部・学科等の指示に従ってください。抽選・選考の結果、履修登録された科目は、削除することはできません。
#####	事前に登録済または履修登録期間中に大学側で登録を行う科目です。自分で履修登録する必要はありません。
-----	受講が許可された学生のみ登録できます。学部学科等の指示に従ってください。

【ペア科目】

ペア科目とは、同一授業科目で、週 2 回以上授業を行う科目です。『授業時間割表』には「ペア」と記載されています。『授業時間割表』に記載されている登録番号で登録してください。対応するほかの曜日・時限も自動的に登録されます。

履修登録の確認と修正

【「健康・スポーツ演習」・「スポーツ運動実習」】

『学年初頭行事』を参照のうえ、これらの科目に関するガイダンスに出席してください。

履修登録の手続きは重要なものであり、一科目でも登録もれや登録間違いがあってはなりません。『履修登録システム利用案内』をよく読み、各自の責任において、履修登録期間内に履修登録を完了してください。

履修が確定したら、各自履修登録リストを印刷し、誤りがないか必ず確認してください。
印刷した履修登録リストは、年度末まで保管してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

履修登録を行ったつもりで登録されていなかった科目や、誤って登録してしまった科目については、間違えたまま授業に出席し試験を受けても単位を修得することができないばかりでなく、登録していない科目の試験を受けることは不正行為とみなされ、処分の対象となります（『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条参照）ので注意してください。

期日までに履修登録をしない場合は、修学の意志がないものとして、大学学則第34条に基づき除籍処分となります。

なお、履修登録の期間は年度初頭のみに限られていますが、後期に履修変更期間を設けています。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して、各自で履修の変更を行ってください。

履修登録、後期履修変更に関する詳細は、次項「履修登録について」を参照してください。

履修登録について

1. 履修登録

履修登録は、必ず所定の期間内に行ってください。履修登録期間は「学生ポータル」で確認してください。

制限科目の応募締切日時は、個々の科目により異なりますので、注意してください。

後期開講の制限科目も年度初頭に応募・登録を行います。登録した履修内容は必ず「学生ポータル」で確認してください。

履修登録・修正時の注意点（後期履修変更時と同様）

履修登録最終日は、アクセスが多く、登録に時間がかかります。「混みあってアクセスできなかった」という理由は認められませんので、余裕をもって履修登録が完了するようにしてください。

エラーが表示されたら、適切に対処してください。自分で解決できない場合は、各キャンパス窓口で相談してください。

登録や修正を行った後は、必ず「履修登録画面」で履修登録リストを印刷して確認してください。

2. 後期履修変更

後期に履修変更期間を設けます。前期科目の成績を確認したうえで再度履修を見直し、必要がある場合は Web 履修登録システムを使用して各自で履修の変更を行ってください。履修変更期間以降の修正は、一切認めません。後期履修変更期間は、「学生ポータル」で確認してください。

後期の履修変更の際は、次の5点に注意してください。

- (1) 履修制限単位内で、後期科目のみの修正を行うことができます。
- (2) 受講者を制限する科目（抽選・制限カード・受講許可等）に関わる変更はできません。
- (3) 通年科目を削除しなければならない変更はできません。
- (4) 前期に修得できなかった科目と同一名称科目の再履修はできません。
- (5) (2)~(4)の制限にかかわらず、学部学科等から特に指定があった場合は、それに従ってください。

後期履修変更を行った学生は、前期の履修登録と同様、変更の操作を行ったあと、履修変更期間内に履修登録リストを印刷し、修正に誤りがないか各自で確認してください。確認を怠ったために生じた問題について、大学側は一切責任を負いません。

後期履修変更期間中に追加できる単位数は次のとおりです。（第一部学生のみ）

$$\text{後期履修変更期間に追加できる単位数} = \frac{\text{当該年度の最高履修制限単位}}{\text{（後期科目のみ）}} - \left[\begin{array}{l} \text{前期修得単位数} \\ + \\ \text{前期に修得できなかった単位数} \\ + \\ \text{履修取消科目の単位数} \\ + \\ \text{通年科目の単位数} \end{array} \right]$$

履修取消制度について

授業の内容が勉強したいものと異なっていた場合、履修登録（または後期履修変更）期間終了後の一定期間内であれば履修を取りやめることができます。

詳細は以下のとおりです。

- 1) 対象者：全学部生
 - 2) 対象科目：下記①、②を除く全科目
 - ① 事前登録科目（履修登録期間中に大学側が登録する科目を含む）
 - ② 制限科目
- ※ この他に学部・学科で対象外としている科目がある場合は「IV. 学部履修要項」に記載されていますので、参照してください。
- 3) 履修取消科目の扱い：本制度を利用して取り消した前期科目と同一名称の科目を後期に履修することはできません。
 - 4) 履修取消科目の単位の扱い：本制度を利用して取り消した科目の単位数は、当該年度の申請単位数に含まれます。
 - 5) 履修取消科目の成績評価の表示：
 - ① 成績通知書：「W」
 - ② 成績証明書：記載しない。

履修取消申請方法

履修取消の申請は、所定の期間内に所属キャンパスの学務窓口でのみ受け付けます。申請の取り下げは一切認められません。履修取消申請受付期間は、「学生ポータル」で確認してください。

IV. 文学部履修要項

A. 2006年度以降入学者 (教育学科、心理学科…2006～2008年度入学者)	12
B. 2005年度入学者	145
C. 他学部科目一覧表	175

A. 文学部履修要項 (2006年度以降入学者)

教育学科 2006～2008年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 教育学科履修について ……………	45
【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	47
【5】 教育学科学科科目履修方法および配置表 ……………	48
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	56

英米文学科 2010年度以降入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
※2012年度入学者はP.13、2011年度入学者はP.23	
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 英米文学科履修について ……………	57
【4】 英米文学科学科科目履修方法および配置表 ……………	59
【5】 自由選択科目履修方法 ……………	65

英米文学科 2006～2009年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 英米文学科履修について ……………	66
【4】 英米文学科学科科目履修方法および配置表 ……………	68
【5】 自由選択科目履修方法 ……………	72

フランス文学科 2011年度以降入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	23
※2012年度入学者はP.13	
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 フランス文学科履修について ……………	73
【4】 フランス文学科学科科目履修方法および配置表 …	75
【5】 自由選択科目履修方法 ……………	79

フランス文学科 2006～2010年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 フランス文学科履修について ……………	80
【4】 フランス文学科学科科目履修方法および配置表 …	82
【5】 自由選択科目履修方法 ……………	86

日本文学科

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
※2012年度入学者はP.13、2011年度入学者はP.23	
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 日本文学科履修について ……………	87

【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	89
【5】 日本文学科学科科目履修方法および配置表 ……………	90
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	97

史学科 2012年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	13
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 史学科履修について ……………	99
【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	102
【5】 史学科学科科目履修方法および配置表 ……………	103
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	108

史学科 2011年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	23
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 史学科履修について ……………	109
【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	112
【5】 史学科学科科目履修方法および配置表 ……………	113
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	118

史学科 2006～2010年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 史学科履修について ……………	119
【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	122
【5】 史学科学科科目履修方法および配置表 ……………	123
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	128

心理学科 2007～2008年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	33
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 心理学科履修について ……………	129
【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	130
【5】 心理学科学科科目履修方法および配置表 ……………	131
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	136

比較芸術学科 2012年度入学者

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表 …	13
【2】 文学部共通科目履修方法および配置表 ……………	43
【3】 比較芸術学科履修について ……………	137
【4】 外国語科目履修方法および配置表 ……………	138
【5】 比較芸術学科学科科目履修方法および配置表 …	139
【6】 自由選択科目履修方法 ……………	143

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表(2012年度入学者)

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必選の別	必要単位
青 山 ス タ ン ダ ー ド 科 目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語(文学部外国語Ⅰ)	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修	4
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可	選択必修	4
	フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5)で修得した科目は除く)		選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する(フランス文学科を除く)科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページ(英米文学科は英語科目)を参照してください。(英語スキルⅠ-1、Ⅰ-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

・「(第二外国語)Ⅰ(A)」「(第二外国語)Ⅰ(B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」は、「(第二外国語)Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)Ⅲ」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語)Ⅱ」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)会話(Ⅱ)」は、「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考	
		フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	1年生のみ	
		ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ	
		キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ	
教 養 コ ア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1		
		(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		自己理解 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		現代社会の諸問題 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		科学・技術の視点 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		歴史と人間 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		技 能 コ ア 科 目	英語・ 日本語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1
英 語 ス キ ル I - 2	1			1	1年生のみ	
言 葉 の 技 能	第 二 外 国 語		(第二外国語) I (A)-1	1	1	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語) I (A)-2	1	1	
			(第二外国語) I (B)-1	1	1	
			(第二外国語) I (B)-2	1	1	
			英 語 I - 1	1	1	
			英 語 I - 2	1	1	
			英 語 (I A) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I A) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 2	1	1	外国人留学生のみ
日 本 語 I (A)	2		1	外国人留学生のみ		
日 本 語 I (B)	2		1	外国人留学生のみ		
身 体 的 技 能	健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化 政策・社会情報のみ必修		
情 報 的 技 能	情 報 ス キ ル I	2	1			
テ ー マ 別 科 目	関 連 科 目 (領域A) キリスト教理解	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 と 自 然 科 学	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講	
		キ リ ス ト 教 環 境 倫 理	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講	

テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 (領 域 A)	キ リ ス ト 教 音 楽	2	2・3・4	
		キ リ ス ト 教 美 術	2	2・3・4	
		メ ソ ジ ス ト 教 会 史	2	2・3・4	
		世 界 の 諸 宗 教	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		聖書の中の女性たち (旧約)	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		聖書の中の女性たち (新約)	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講
		サー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ I	2	2・3・4	
		サー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ II	2	2・3・4	
		海 外 語 学 ・ キ リ ス ト 教 文 化 研 修	2	2・3・4	
	哲 学 A	2	2・3・4		
	哲 学 B	2	2・3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 A	2	2・3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 B	2	2・3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 C	2	2・3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 D	2	2・3・4		
	論 理 学 A	2	2・3・4		
	論 理 学 B	2	2・3・4		
	論 理 学 の 諸 問 題 A	2	2・3・4		
	論 理 学 の 諸 問 題 B	2	2・3・4		
	倫 理 学 A	2	2・3・4		
	倫 理 学 B	2	2・3・4		
	倫 理 学 の 諸 問 題 A	2	2・3・4		
	倫 理 学 の 諸 問 題 B	2	2・3・4		
	西 洋 倫 理 思 想 史 A	2	2・3・4		
	西 洋 倫 理 思 想 史 B	2	2・3・4		
言 語 学 A	2	2・3・4			
言 語 学 B	2	2・3・4			
日 本 語 学 A	2	2・3・4			
日 本 語 学 B	2	2・3・4			
文 学 A	2	2・3・4			
文 学 B	2	2・3・4			
文 学 史 A	2	2・3・4			
文 学 史 B	2	2・3・4			
美 術 A	2	2・3・4			
美 術 B	2	2・3・4			
美 術 史 A	2	2・3・4			
美 術 史 B	2	2・3・4			
音 楽 A	2	2・3・4			
音 楽 B	2	2・3・4			
音 楽 史 A	2	2・3・4			
音 楽 史 B	2	2・3・4			
文 化 人 類 学 A	2	2・3・4			

テ ー マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	文化人類学 B	2	2・3・4	
		比較文化 A	2	2・3・4	
		比較文化 B	2	2・3・4	
		比較文化の諸問題 A	2	2・3・4	
		比較文化の諸問題 B	2	2・3・4	
		心理学 A	2	2・3・4	心理学除く
		心理学 B	2	2・3・4	心理学除く
		教育学 A	2	2・3・4	
		教育学 B	2	2・3・4	
		平和を考える A	2	2・3・4	
		平和を考える B	2	2・3・4	
		人間関係とコミュニケーションA	2	2・3・4	
		人間関係とコミュニケーションB	2	2・3・4	
		文化とコミュニケーションA	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
	文化とコミュニケーションB	2	2・3・4	国際政治経済学部除く	
	法学 (日本国憲法を含む)	4	2・3・4	法学部除く。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。	
	日本の法と社会 A	2	2・3・4		
	日本の法と社会 B	2	2・3・4		
	国際政治経済学 A	2	2・3・4		
	国際政治経済学 B	2	2・3・4		
	国際関係概論 A	2	2・3・4		
	国際関係概論 B	2	2・3・4		
	社会学 A	2	2・3・4		
	社会学 B	2	2・3・4		
	現代社会と教育人間学 A	2	2・3・4		
	現代社会と教育人間学 B	2	2・3・4		
	経済学 A	2	2・3・4	経済学部除く	
経済学 B	2	2・3・4	経済学部除く		
情報社会科学 A	2	2・3・4			
情報社会科学 B	2	2・3・4			
情報社会論	2	2・3・4			
社会情報論	2	2・3・4			
人口問題 A	2	2・3・4			
人口問題 B	2	2・3・4			
フェミニズム A	2	2・3・4			
フェミニズム B	2	2・3・4			
民族問題 A	2	2・3・4			
民族問題 B	2	2・3・4			
マスメディアと社会	2	2・3・4			
データサイエンス	2	2・3・4			
福祉と人間 A	2	2・3・4			

青山スタンダード (2012年度入学者)

テ ー マ 別 科 目	社会理解関連 科目(領域C)	福祉と人間 B	2	2・3・4			
		グローバリゼーションとWTO	2	2・3・4			
		日本農業とWTO	2	2・3・4			
		環境問題と社会	2	2・3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座		
	自然理解関連科目 (領域D)	技術史 A	2	2・3・4			
		技術史 B	2	2・3・4			
		日常生活の数理	2	2・3・4			
		数理学入門Ⅰ	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く		
		数理学入門Ⅱ	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く		
		数理学の視点	2	2・3・4			
		数理モデル	2	2・3・4			
		自然科学概論 A	2	2・3・4			
		自然科学概論 B	2	2・3・4			
		文化としての科学・技術 A	2	2・3・4			
		文化としての科学・技術 B	2	2・3・4			
		現代物理	2	2・3・4			
		ライフサイエンス	2	2・3・4			
		ゲノム	2	2・3・4			
		生物と地球環境	2	2・3・4			
		地球環境保全	2	2・3・4			
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	2・3・4			
		地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4			
		生命と地球の歴史	2	2・3・4			
		宇宙科学	2	2・3・4			
		野鳥の生態	2	2・3・4			
		鳥類と生物多様性	2	2・3・4			
		植物生態学	2	2・3・4			
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4			
		環境科学 A	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講		
		環境科学 B	2	2・3・4	両キャンパス隔年開講		
		自然地理学 A	2	2・3・4			
	自然地理学 B	2	2・3・4				
	科学史	2	2・3・4				
	生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4				
生命の連続(遺伝)	2	2・3・4					
かたちの科学	2	2・3・4					
自然史	2	2・3・4					
自然観の変遷	2	2・3・4					
歴史理解関連 科目(領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4				
	日本社会史 A	2	2・3・4				
	日本社会史 B	2	2・3・4				
				日本社会史 C	2	2・3・4	

歴史理解関連科目 (領域E)	中国史 A	2	2・3・4	
	中国史 B	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	
	ヨーロッパ史 C	2	2・3・4	
	現代史 A	2	2・3・4	
	現代史 B	2	2・3・4	
	現代史 C	2	2・3・4	
	現代史 D	2	2・3・4	
	考古学 A	2	2・3・4	
	考古学 B	2	2・3・4	
	科学思想史 A	2	2・3・4	
	テ ィ マ 別 科 目 言葉の技能 (領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4
インテンシブ・(第二外国語)(B)		2	2・3・4	
インテンシブ・(第二外国語)(C)		2	2・3・4	
インテンシブ・(第二外国語)(D)		2	2・3・4	
(第二外国語) II (A)		2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
(第二外国語) II (B)		2	2・3・4	
(第二外国語) II (C)		2	2・3・4	
(第二外国語) II (D)		2	2・3・4	
(第二外国語) II (E)		2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
中国語 II (F)		2	2・3・4	
(第二外国語) II		2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
英語 II		2	2・3・4	フランス文学科のみ
英語 (II A)		2	2・3・4	外国人留学生のみ
英語 (II B)		2	2・3・4	外国人留学生のみ、旧称「英語II」
日本語 II		2	2・3・4	外国人留学生のみ
(第二外国語) III		2	3・4	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
フランス語 III (A)		2	3・4	フランス文学科除く
フランス語 III (B)		2	3・4	フランス文学科除く
英語 III		2	3・4	フランス文学科のみ
英語 (III)		2	3・4	外国人留学生のみ
日本語 III	2	3・4	外国人留学生のみ	
(第二外国語) 会話 (I)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語 (フランス文学科のみ) を指します。	
(第二外国語) 会話 (II)	2	3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語を指します。	

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日 本 語 (I) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (I) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (I) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (I) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (I)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (II)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (III)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (IV)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (V)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (VI)	2	3	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		英語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4			
フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4			
フランス語圏の社会と文化C	2	2・3・4			
ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4			
ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4			
ドイツ語圏の社会と文化C	2	2・3・4			
スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4			
スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4			

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	スペイン語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化C	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		日 本 学 A	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	2・3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	
		English Studies B	2	2・3・4	
		English Studies C	2	2・3・4	
		English Studies D	2	2・3・4	
		English Studies E	2	2・3・4	
		ことばの研究 A	2	2・3・4	
		ことばの研究 B	2	2・3・4	
		少数民族の社会と文化A	2	2・3・4	
		少数民族の社会と文化B	2	2・3・4	
	民族文化論 A	2	2・3・4		
	民族文化論 B	2	2・3・4		
	身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気A	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気B	2	2・3・4	
		スポーツ生理学	2	2・3・4	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	
		スポーツ心理学	2	2・3・4	
		動きの人間学	2	2・3・4	
		医療社会学	2	2・3・4	
		スポーツ運動実習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。教員免許状 取得申請者は、1年次から履修できます。
		アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	
情報の技能 (領域H)	プログラミング基礎 I	2	2・3・4		
	プログラミング基礎 II	2	2・3・4		
	情報スキル II	2	2・3・4		
	eラーニング入門	2	2・3・4		
	インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4		
	教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	両キャンパス相互に隔年開講	
	eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4		
	キャリアデザイン基礎	2	2・3・4		

テ ー マ 別 科 目	キャリアの技能 (領域Ⅰ)	キャリアデザイン応用	2	3・4	
		仕事力基礎論	2	3・4	
		日本語文章作成演習	2	2・3・4	
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4	
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4	
		感性ビジネス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	
		感性ビジネス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	
		感性ビジネス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感性ビジネス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	2・3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	2・3・4	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情 A	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情 B	2	2・3・4	
		現代金融の諸問題	2	2・3・4	金融青山会寄附講座
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座
		ファイナンシャルプランニング基礎	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座
		囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
		ファッション流通ビジネス論	2	2・3・4	
		海外語学・文化研修Ⅰ	2	2・3・4	
		海外語学・文化研修Ⅱ	2	2・3・4	
海外語学・文化研修Ⅲ	2	2・3・4			
ビジネスコミュニケーション	2	3・4			

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表(2011年度入学者)

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必選の別	必要単位
青 山 ス タ ン ダ ー ド 科 目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語(文学部外国語Ⅰ)	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修	4
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。(「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可)	選択必修	4
	フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、キャリアデザイン・セミナー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5)で修得した科目は除く)		選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する(フランス文学科を除く)科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページ(英米文学科は英語科目)を参照してください。(英語スキルⅠ-1、Ⅰ-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

- ・「(第二外国語)Ⅰ(A)」「(第二外国語)Ⅰ(B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。
- ・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」は、「(第二外国語)Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。
- ・「(第二外国語)Ⅲ」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語)Ⅱ」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
- ・「(第二外国語)会話(Ⅱ)」は、「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

		授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考	
		フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	1年生のみ	
		ウェルカム・レクチャー	2	1	1年生のみ	
		キャリアデザイン・セミナー	2	1	1年生のみ	
教 養 コ ア 科 目		(キリスト教理解関連科目) キ リ ス ト 教 概 論 I	2	1		
		(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		自己理解 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		現代社会の諸問題 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(自然理解関連科目) 科学・技術の視点 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		科学・技術の視点 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
		(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目)	2	1	(総合科目): 複数の教員による担当	
		歴史と人間 (個別科目)	2	1	(個別科目): 一人の教員による担当	
	技 能 コ ア 科 目	英語・ 日本語	英 語 ス キ ル I - 1	1	1	1年生のみ
英 語 ス キ ル I - 2			1	1	1年生のみ	
言 葉 の 技 能 第 二 外 国 語			(第二外国語) I (A)-1	1	1	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語) I (A)-2	1	1	
			(第二外国語) I (B)-1	1	1	
			(第二外国語) I (B)-2	1	1	
			英 語 I - 1	1	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2 回履修し、計4単位修得してください。
			英 語 I - 2	1	1	
			英 語 (I A) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I A) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (I B) - 2	1	1	外国人留学生のみ
		日 本 語 I (A)	2	1	外国人留学生のみ	
		日 本 語 I (B)	2	1	外国人留学生のみ	
身体 の 技 能		健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化 政策・社会情報のみ必修	
情報 の 技 能		情 報 ス キ ル I	2	1		
テ ー マ 別 科 目	関 連 科 目 (領域A) キリスト教理解	キ リ ス ト 教 概 論 II	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	3・4		
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	3・4		
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	3・4		
		キ リ ス ト 教 と 自 然 科 学	2	2・3・4		
		キ リ ス ト 教 環 境 倫 理	2	2・3・4		

テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 (領 域 A)	キ リ ス ト 教 音 楽	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 美 術	2	3・4	
		メ ソ ジ ス ト 教 会 史	2	3・4	
		世 界 の 諸 宗 教	2	2・3・4	
		聖 書 の 中 の 女 性 た ち (旧 約)	2	3・4	
		聖 書 の 中 の 女 性 た ち (新 約)	2	2・3・4	
		サ ー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ I	2	2・3・4	
		サ ー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ II	2	2・3・4	
	哲 学 A	2	2・3・4		
	哲 学 B	2	2・3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 A	2	3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 B	2	3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 C	2	3・4		
	哲 学 の 諸 問 題 D	2	3・4		
	論 理 学 A	2	2・3・4		
	論 理 学 B	2	2・3・4		
	論 理 学 の 諸 問 題 A	2	3・4		
	論 理 学 の 諸 問 題 B	2	3・4		
	倫 理 学 A	2	2・3・4		
	倫 理 学 B	2	2・3・4		
	倫 理 学 の 諸 問 題 A	2	3・4		
	倫 理 学 の 諸 問 題 B	2	3・4		
	西 洋 倫 理 思 想 史 A	2	3・4		
	西 洋 倫 理 思 想 史 B	2	3・4		
	言 語 学 A	2	2・3・4		
	言 語 学 B	2	2・3・4		
	日 本 語 学 A	2	2・3・4		
日 本 語 学 B	2	2・3・4			
文 学 A	2	2・3・4			
文 学 B	2	2・3・4			
文 学 史 A	2	3・4			
文 学 史 B	2	3・4			
美 術 A	2	2・3・4			
美 術 B	2	2・3・4			
美 術 史 A	2	3・4			
美 術 史 B	2	3・4			
音 楽 A	2	2・3・4			
音 楽 B	2	2・3・4			
音 楽 史 A	2	3・4			
音 楽 史 B	2	3・4			
文 化 人 類 学 A	2	2・3・4			
文 化 人 類 学 B	2	2・3・4			

テ ー マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	比較文化 A	2	2・3・4	
		比較文化 B	2	2・3・4	
		比較文化の諸問題 A	2	3・4	
		比較文化の諸問題 B	2	3・4	
		心理学 A	2	2・3・4	心理学除く
		心理学 B	2	2・3・4	心理学除く
		教育学 A	2	2・3・4	
		教育学 B	2	2・3・4	
		平和を考える A	2	3・4	
		平和を考える B	2	3・4	
		人間関係とコミュニケーション A	2	2・3・4	
		人間関係とコミュニケーション B	2	2・3・4	
		文化とコミュニケーション A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		文化とコミュニケーション B	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
	法学 (日本国憲法を含む)	4	2・3・4	法学部除く。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。	
	日本の法と社会 A	2	3・4		
	日本の法と社会 B	2	3・4		
	国際政治経済学 A	2	2・3・4		
	国際政治経済学 B	2	2・3・4		
	国際関係概論 A	2	2・3・4		
	国際関係概論 B	2	2・3・4		
	社会学 A	2	2・3・4		
	社会学 B	2	2・3・4		
	現代社会と教育人間学 A	2	2・3・4		
	現代社会と教育人間学 B	2	2・3・4		
	経済学 A	2	2・3・4	経済学部除く	
経済学 B	2	2・3・4	経済学部除く		
情報社会科学 A	2	2・3・4			
情報社会科学 B	2	2・3・4			
情報社会論	2	3・4			
社会情報論	2	3・4			
人口問題 A	2	2・3・4			
人口問題 B	2	2・3・4			
フェミニズム A	2	3・4			
フェミニズム B	2	3・4			
民族問題 A	2	3・4			
民族問題 B	2	3・4			
マスメディアと社会	2	2・3・4			
データサイエンス	2	2・3・4			
福祉と人間 A	2	3・4			
福祉と人間 B	2	3・4			
	社会理解関連科目 (領域C)				

文学部 (2011年度入学者)

社会理解関連 科目(領域C)	グローバリゼーションとWTO	2	3・4	
	日本農業とWTO	2	3・4	
	環境問題と社会	2	3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座
テ ー マ 別 科 目 自然理解関連科目 (領域D)	技術史 A	2	2・3・4	
	技術史 B	2	2・3・4	
	日常生活の数理	2	2・3・4	
	数理科学入門 I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
	数理科学入門 II	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
	数理科学の視点	2	2・3・4	
	数理モデル	2	2・3・4	
	自然科学概論 A	2	2・3・4	
	自然科学概論 B	2	2・3・4	
	文化としての科学・技術 A	2	2・3・4	
	文化としての科学・技術 B	2	2・3・4	
	現代物理	2	2・3・4	
	ライフサイエンス	2	2・3・4	
	ゲノム	2	2・3・4	
	生物と地球環境	2	3・4	
	地球環境保全	2	3・4	
	バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	
	地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	
	生命と地球の歴史	2	2・3・4	
	宇宙科学	2	2・3・4	
	野鳥の生態	2	2・3・4	
	鳥類と生物多様性	2	2・3・4	
	植物生態学	2	2・3・4	
	先端エレクトロニクス	2	2・3・4	
	環境科学 A	2	2・3・4	
	環境科学 B	2	2・3・4	
	自然地理学 A	2	2・3・4	
	自然地理学 B	2	2・3・4	
	科学史	2	2・3・4	
	生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	
	かたちの科学	2	2・3・4	
自然史	2	2・3・4		
自然観の変遷	2	2・3・4		
歴史理解関連 科目(領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	
	日本社会史 A	2	2・3・4	
	日本社会史 B	2	2・3・4	
	日本社会史 C	2	3・4	
	中国史 A	2	2・3・4	

テ ー マ 別 科 目	歴史理解関連科目 (領域E)	中国史 B	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 C	2	3・4	
		現代史 A	2	2・3・4	
		現代史 B	2	2・3・4	
		現代史 C	2	2・3・4	
		現代史 D	2	2・3・4	
		考古学 A	2	2・3・4	
		考古学 B	2	2・3・4	
		科学思想史 A	2	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
	インテンシブ・(第二外国語)(B)	2	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(C)	2	2・3・4		
	インテンシブ・(第二外国語)(D)	2	2・3・4		
	(第二外国語) II (A)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。	
	(第二外国語) II (B)	2	2・3・4		
	(第二外国語) II (C)	2	2・3・4		
	(第二外国語) II (D)	2	2・3・4		
	(第二外国語) II (E)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。	
	中国語 II (F)	2	2・3・4		
	(第二外国語) II	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
	英語 II	2	2・3・4	フランス文学科のみ	
	英語 (II A)	2	2・3・4	外国人留学生のみ	
	英語 (II B)	2	2・3・4	外国人留学生のみ、旧称「英語II」	
	日本語 II	2	2・3・4	外国人留学生のみ	
	(第二外国語) III	2	3・4	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。	
フランス語 III (A)	2	3・4	フランス文学科除く		
フランス語 III (B)	2	3・4	フランス文学科除く		
英語 III	2	3・4	フランス文学科のみ		
英語 (III)	2	3・4	外国人留学生のみ		
日本語 III	2	3・4	外国人留学生のみ		
(第二外国語) 会話 (I)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語 (フランス文学科のみ) を指します。		
(第二外国語) 会話 (II)	2	3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語を指します。		
日本語 (I) A	1	3	交換留学生のみ		

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日 本 語 (I) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (I) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (I) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (II) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (III) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (VI) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (I)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (II)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (III)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (IV)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (V)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (VI)	2	3	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		英語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化C	2	3・4	
ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4			
ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4			
ドイツ語圏の社会と文化C	2	3・4			
スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4			
スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4			
スペイン語圏の社会と文化C	2	3・4			

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化C	2	3・4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	3・4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	3・4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	3・4	
		日 本 学 A	2	3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	
		English Studies B	2	2・3・4	
		English Studies C	2	3・4	
		English Studies D	2	3・4	
		English Studies E	2	3・4	
		ことばの研究A	2	2・3・4	
		ことばの研究B	2	3・4	
		少数民族の社会と文化A	2	3・4	
	少数民族の社会と文化B	2	3・4		
	民族文化論A	2	2・3・4		
	民族文化論B	2	2・3・4		
	身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気A	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気B	2	2・3・4	
		スポーツ生理学	2	2・3・4	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	
		スポーツ心理学	2	2・3・4	
		動きの人間学	2	2・3・4	
医療社会学		2	2・3・4		
スポーツ運動実習		1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。教員免許状 取得申請者は、1年次から履修できます。	
アドバンストスポーツ実習		2	2・3・4		
情報の技能 (領域H)	プログラミング基礎I	2	2・3・4		
	プログラミング基礎II	2	2・3・4		
	情報スキルII	2	2・3・4		
	eラーニング入門	2	2・3・4		
	インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4		
	教育システムのためのIT入門	2	2・3・4		
	eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4		
	キャリアデザイン基礎	2	2・3・4		
	キャリアデザイン応用	2	3・4		

テ ー マ 別 科 目	キャリアの技能 (領域Ⅰ)	仕事力基礎論	2	3・4	
		日本語文章作成演習	2	2・3・4	
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4	
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4	
		感性ビジネス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	
		感性ビジネス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4	
		感性ビジネス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	財団法人ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		感性ビジネス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	財団法人ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	3・4	三井生命寄附講座
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4	
		国際ビジネスと海外事情 A	2	3・4	
		国際ビジネスと海外事情 B	2	3・4	
		現代金融の諸問題	2	3・4	金融青山会寄附講座
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	株式会社近代セールス社寄附講座
		ファイナンシャルプランニング基礎	2	2・3・4	株式会社近代セールス社寄附講座
		囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座
		ファッション流通ビジネス論	2	2・3・4	
		ビジネスコミュニケーション	2	3・4	

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表(2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類			必修の別	必要単位
青山スタンダード科目	1) 教養コア	キリスト教理解関連科目	必修	2
	2) 技能コア	言葉の技能	英語(文学部外国語Ⅰ)	※1
			第二外国語 ※2 ※3	必修
		身体の技能	必修※4	2
		情報の技能	必修	2
	3) テーマ別	キリスト教理解関連科目	必修	2
4) 教養コア	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記4領域のうち2領域から「教養コア科目」を選択	選択必修	4
5) 領域指定	人間理解関連科目 社会理解関連科目 自然理解関連科目 歴史理解関連科目	左記領域より4)で選択しなかった2領域から各1科目(2単位)ずつ選択。「教養コア科目」あるいは「テーマ別科目」いずれも可	選択必修	4
	フレッシュャーズ・セミナー、ウェルカム・レクチャー、教養コア科目、技能コア科目、テーマ別科目から選択。 (1)～5)で修得した科目は除く)		選択	6

※1 言葉の技能・英語は、所属する学部(学科)が開講する(フランス文学科を除く)科目を履修します。詳しくは、所属する学部(学科)の外国語科目履修方法および配置表に関するページ(英米文学科は英語科目)を参照してください。(英語スキルⅠ-1、Ⅰ-2を除く)

※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。

※3 第二外国語科目には、履修順序があります。

・「(第二外国語)Ⅰ(A)」「(第二外国語)Ⅰ(B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。

・「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」は、「(第二外国語)Ⅰ」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)Ⅲ」は、「インテンシブ・(第二外国語)」あるいは「(第二外国語)Ⅱ」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

・「(第二外国語)会話(Ⅱ)」は、「インテンシブ・(第二外国語)」「(第二外国語)Ⅱ」あるいは「(第二外国語)会話(Ⅰ)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。

※4 文学部教育・教育人間科学部・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修です。

○総合文化政策学部生は、履修年次が3年次以上の青山キャンパス開講科目を2年次に履修

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

できる場合があります。詳細は時間割表等で確認してください。

- 必要単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

○心理学科（2006年度入学生）の異コース科目の相互履修について

- ・昼間主コースの学生は、夜間主コースの時間帯に設置されている青山スタンダード科目を、各年度12単位を上限として履修することができます。その場合、その科目の単位は各年次の最高履修制限単位数に含むものとします。
- ・下記の青山スタンダード科目については、履修上の制限があるので、夜間主コース時間帯での履修はできません。
教養コア科目、技能コア科目とテーマ別科目のうちの外国語Ⅱ・スポーツ・情報科学及び実習・プログラミング及び実習

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	備 考		
	フレッシュヤーズ・セミナー	2	1	1年生のみ		
	ウェルカム・レクチャー	2	1	2009年度以降入学者1年生のみ		
教 養 コ ア 科 目	(キリスト教理解関連科目) キリスト教概論Ⅰ	2	1			
	(人間理解関連科目) 自己理解(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当		
	自己理解(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当		
	(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当		
	現代社会の諸問題(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当		
	(自然理解関連科目) 科学・技術の視点(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当		
	科学・技術の視点(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当		
	(歴史理解関連科目) 歴史と人間(総合科目)	2	1	(総合科目):複数の教員による担当		
	歴史と人間(個別科目)	2	1	(個別科目):一人の教員による担当		
	技 能 コ ア 科 目	英 語 ・ 日 本 語	Essential English	2	1	2006年度入学者法学部・理工学部のみ
英 語 ス キ ル Ⅰ - 1			1	1	2007年度以降入学者1年生のみ	
英 語 ス キ ル Ⅰ - 2			1	1	2007年度以降入学者1年生のみ	
日 本 語 初 級 A			2	1	2006年度入学者法学部・理工学部の外国人留学生該当者のみ	
言 葉 の 技 能		第 二 外 国 語	(第二外国語)Ⅰ(A)-1	1	1	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
			(第二外国語)Ⅰ(A)-2	1	1	
			(第二外国語)Ⅰ(B)-1	1	1	
			(第二外国語)Ⅰ(B)-2	1	1	
			英 語 Ⅰ - 1	1	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。
			英 語 Ⅰ - 2	1	1	
			英 語 (ⅠA) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (ⅠA) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (ⅠB) - 1	1	1	外国人留学生のみ
			英 語 (ⅠB) - 2	1	1	外国人留学生のみ
			日 本 語 Ⅰ (A)	2	1	外国人留学生のみ
日 本 語 Ⅰ (B)	2	1	外国人留学生のみ			
身 体 的 技 能	健 康 ・ ス ポ ー ツ 演 習	2	1	文学部教育・教育人間科学部教育・経済・経営・総合文化政策・社会情報のみ必修		
情 報 的 技 能	情 報 ス キ ル Ⅰ	2	1			
テ ー マ 別 科 目	関 連 科 目 (領 域 A) キ リ ス ト 教 理 解	キ リ ス ト 教 概 論 Ⅱ	2	2・3	理工学部・社会情報学部は2年次 他は3年次配置	
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4		
		新 約 聖 書 と 人 間	2	3・4		
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	3・4		
	キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	3・4			

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

キリスト教理解関連科目目(領域A)	キリスト教と自然科学	2	2・3・4	
	キリスト教環境倫理	2	2・3・4	
	キリスト教音楽	2	3・4	
	キリスト教美術	2	3・4	
	メソジスト教会史	2	3・4	
	キリスト教教育	2	3・4	閉講
	世界の諸宗教	2	2・3・4	旧称「比較宗教学」
	現代神学	2	3・4	
	キリスト教と社会福祉	2	3・4	閉講
	聖書の中の女性たち(旧約)	2	3・4	旧称「聖書とフェミニズム」(2003～2007年度)、「フェミニズムと聖書」(2008年度)
	聖書の中の女性たち(新約)	2	2・3・4	旧称「聖書の中の女性たち」
	サービス・ラーニング I	2	2・3・4	
	サービス・ラーニング II	2	2・3・4	
	テ ー マ 別 人 間 理 解 関 連 科 目 (領域B)	哲学 A	2	2・3・4
哲学 B		2	2・3・4	
哲学の諸問題 A		2	3・4	
哲学の諸問題 B		2	3・4	
哲学の諸問題 C		2	3・4	
哲学の諸問題 D		2	3・4	
論理学 A		2	2・3・4	
論理学 B		2	2・3・4	
論理学の諸問題 A		2	3・4	
論理学の諸問題 B		2	3・4	
倫理学 A		2	2・3・4	
倫理学 B		2	2・3・4	
倫理学の諸問題 A		2	3・4	
倫理学の諸問題 B		2	3・4	
西洋倫理思想史 A		2	3・4	
西洋倫理思想史 B		2	3・4	
言語学 A		2	2・3・4	
言語学 B		2	2・3・4	
日本語学 A		2	2・3・4	
日本語学 B		2	2・3・4	
文学 A		2	2・3・4	
文学 B		2	2・3・4	
文学史 A		2	3・4	
文学史 B		2	3・4	
美術 A	2	2・3・4		
美術 B	2	2・3・4		
美術史 A	2	3・4		
美術史 B	2	3・4		

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	音 楽 A	2	2・3・4	
		音 楽 B	2	2・3・4	
		音 楽 史 A	2	3・4	
		音 楽 史 B	2	3・4	
		文 化 人 類 学 A	2	2・3・4	
		文 化 人 類 学 B	2	2・3・4	
		比 較 文 化 A	2	2・3・4	
		比 較 文 化 B	2	2・3・4	
		比 較 文 化 の 諸 問 題 A	2	3・4	
		比 較 文 化 の 諸 問 題 B	2	3・4	
		心 理 学 A	2	2・3・4	心理学科除く
		心 理 学 B	2	2・3・4	心理学科除く
		教 育 学 A	2	2・3・4	
		教 育 学 B	2	2・3・4	
		平 和 を 考 え る A	2	3・4	
		平 和 を 考 え る B	2	3・4	
	人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A	2	2・3・4		
	人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B	2	2・3・4		
	文 化 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く	
	文 化 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B	2	2・3・4	国際政治経済学部除く	
	社会理解関連科目 (領域C)	法 学 (日 本 国 憲 法 を 含 む)	4	2・3・4	法学部除く。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。
		日 本 の 法 と 社 会 A	2	3・4	
		日 本 の 法 と 社 会 B	2	3・4	
		国 際 政 治 経 済 学 A	2	2・3・4	
		国 際 政 治 経 済 学 B	2	2・3・4	
		国 際 関 係 概 論 A	2	2・3・4	
		国 際 関 係 概 論 B	2	2・3・4	
		社 会 学 A	2	2・3・4	
		社 会 学 B	2	2・3・4	
現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 A		2	2・3・4		
現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 B		2	2・3・4		
経 済 学 A		2	2・3・4	経済学部除く	
経 済 学 B		2	2・3・4	経済学部除く	
情 報 社 会 科 学 A	2	2・3・4			
情 報 社 会 科 学 B	2	2・3・4			
情 報 社 会 論	2	3・4			
社 会 情 報 論	2	3・4			
人 口 問 題 A	2	2・3・4			
人 口 問 題 B	2	2・3・4			
フ ェ ミ ニ ズ ム A	2	3・4			
フ ェ ミ ニ ズ ム B	2	3・4			

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

社会 理解 関連 科目 (領域C)	民 族 問 題 A	2	3・4		
	民 族 問 題 B	2	3・4		
	マスメディアと社会	2	2・3・4		
	データサイエンス	2	2・3・4		
	福祉と人間 A	2	3・4		
	福祉と人間 B	2	3・4		
	国際ビジネス入門 A	2	2・3・4		
	国際ビジネス入門 B	2	2・3・4		
	感性ビジネス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4		
	感性ビジネス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4		
	感性ビジネス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座	
	感性ビジネス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	(財)ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座	
	パーソナル・マナー・マネジメント入門	2	3・4	三井生命寄附講座	
	企業のモノづくりと 人づくりのリテラシー	2	2・3・4		
	国際ビジネスと海外事情 A	2	3・4		
	国際ビジネスと海外事情 B	2	3・4		
	グローバリゼーションと WTO	2	3・4		
	日本農業と WTO	2	3・4		
	環境問題と社会	2	3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座	
	現代金融の諸問題	2	3・4	金融青山会寄附講座	
	経済・金融とファイナンス	2	3・4	閉講	
	ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座	
	ファイナンシャルプランニング基礎	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座	
	囲碁で養うロジカルシンキング	2	2・3・4	公益財団法人日本棋院寄附講座	
	自然 理解 関連 科目 (領域D)	技 術 史 A	2	2・3・4	
		技 術 史 B	2	2・3・4	
		日常生活の数理	2	2・3・4	
		数理科学入門 I	2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く
数理科学入門 II		2	2・3・4	理工学部・社会情報学部を除く	
数理科学の視点		2	2・3・4		
数理モデル		2	2・3・4		
自然科学概論 A		2	2・3・4		
自然科学概論 B		2	2・3・4		
文化としての科学・技術 A		2	3・4		
文化としての科学・技術 B		2	3・4		
現代物理		2	2・3・4		
ライフサイエンス		2	2・3・4		
ゲノム		2	2・3・4		

テ ー マ 別 科 目	自然理解関連科目 (領域D)	生物と地球環境	2	3・4	
		地球環境保全	2	3・4	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	
		地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	
		生命と地球の歴史	2	2・3・4	
		宇宙科学	2	2・3・4	
		野鳥の生態	2	2・3・4	
		鳥類と生物多様性	2	2・3・4	
		植物生態学	2	2・3・4	
		メカワールド	2	2・3・4	理工学部除く
		経営管理の技術	2	2・3・4	理工学部除く
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4	
		環境科学 A	2	2・3・4	
		環境科学 B	2	2・3・4	
		自然地理学 A	2	2・3・4	
		自然地理学 B	2	2・3・4	
		科学史	2	2・3・4	
		生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	
		生命の連続(遺伝)	2	2・3・4	
		かたちの科学	2	2・3・4	
	自然史	2	2・3・4		
	自然観の変遷	2	2・3・4		
	歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	
		日本社会史 A	2	2・3・4	
		日本社会史 B	2	2・3・4	
		日本社会史 C	2	3・4	
		中国史 A	2	2・3・4	
		中国史 B	2	2・3・4	
		中国史 C	2	3・4	
		ヨーロッパ史 A	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 B	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史 C	2	3・4	
		現代史 A	2	2・3・4	
現代史 B		2	2・3・4		
現代史 C		2	2・3・4		
現代史 D	2	2・3・4			
考古学 A	2	2・3・4			
考古学 B	2	2・3・4			
科学思想史 A	2	2・3・4			
科学思想史 B	2	2・3・4			

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		インテンシブ・(第二外国語)(B)	2	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(C)	2	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(D)	2	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(A)	2	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		(第二外国語)Ⅱ(B)	2	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(C)	2	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(D)	2	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ(E)	2	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
		中国語Ⅱ(F)	2	2・3・4	
		(第二外国語)Ⅱ	2	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		英語Ⅱ	2	2・3・4	フランス文学科のみ
		英語(ⅡA)	2	2・3・4	外国人留学生のみ
		英語(ⅡB)	2	2・3・4	外国人留学生のみ、旧称「英語Ⅱ」
		日本語Ⅱ	2	2・3・4	外国人留学生のみ
		(第二外国語)Ⅲ	2	3・4	(第二外国語)はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		フランス語Ⅲ(A)	2	3・4	フランス文学科除く
		フランス語Ⅲ(B)	2	3・4	フランス文学科除く
		英語Ⅲ	2	3・4	フランス文学科のみ
		英語(Ⅲ)	2	3・4	外国人留学生のみ
		日本語Ⅲ	2	3・4	外国人留学生のみ
		(第二外国語)会話(Ⅰ)	2	2・3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語(フランス文学科のみ)を指します。
		(第二外国語)会話(Ⅱ)	2	3・4	(第二外国語)はフランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語を指します。
		日本語(Ⅰ)A	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ)B	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ)C	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅰ)D	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ)A	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ)B	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅱ)C	1	3	交換留学生のみ
日本語(Ⅱ)D	1	3	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)A	1	3	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)B	1	3	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)C	1	3	交換留学生のみ		
日本語(Ⅲ)D	1	3	交換留学生のみ		

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日本語(Ⅳ)A	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ)B	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ)C	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅳ)D	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ)A	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ)B	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ)C	1	3	交換留学生のみ
		日本語(Ⅴ)D	1	3	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅰ)	2	3	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅱ)	2	3	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅲ)	2	3	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅳ)	2	3	交換留学生のみ
		日本事情(Ⅴ)	2	3	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		英語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化C	2	3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	3・4	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	3・4	
		中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化C	2	3・4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	3・4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	3・4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	3・4	
		日本学A	2	3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
日本学B	2	3・4	交換留学生・外国人留学生のみ		
English Studies A	2	2・3・4			
English Studies B	2	2・3・4			
English Studies C	2	3・4			
English Studies D	2	3・4			
English Studies E	2	3・4			

青山スタンダード (2006年度～2010年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	ことばの研究 A	2	2・3・4	
		ことばの研究 B	2	3・4	
		少数民族の社会と文化 A	2	3・4	
		少数民族の社会と文化 B	2	3・4	
		民族文化論 A	2	2・3・4	
		民族文化論 B	2	2・3・4	
	身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	
		スポーツ生理学	2	2・3・4	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	
		スポーツ心理学	2	2・3・4	
		動きの人間学	2	2・3・4	
		医療社会学	2	2・3・4	
		スポーツ運動実習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。教員免許状 取得申請者は、1年次から履修できます。
		アドバンストスポーツ実習	2	2・3・4	
	情報の技能 (領域H)	プログラミング基礎 I	2	2・3・4	
		プログラミング基礎 II	2	2・3・4	
		情報スキル II	2	2・3・4	
		eラーニング入門	2	2・3・4	
		インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	
		教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	
		eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	

【2】 文学部共通科目履修方法および配置表

1. 文学部共通科目履修方法

文学部各学科の学生が自由に選択履修して、単位を修得することができます。なお、修得単位は卒業に必要な単位として自由選択科目に算入されます。

2. 文学部共通科目配置表

(△印は隔年開講)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次		備 考
		2006～2010 年度入学生	2011年度 以降入学生	
芸 術 文 化 論	4	3・4	2・3・4	
文 化 財 科 学	4	3・4	2・3・4	
日 本 の 思 想	4	2・3・4	2・3・4	
東 洋 の 思 想	4	2・3・4	2・3・4	
現 代 思 想	4	3・4	2・3・4	
日 本 美 術 史	4	3・4	2・3・4	
東 洋 美 術 史	4	3・4	2・3・4	
西 洋 美 術 史	4	3・4	2・3・4	
日 本 文 化 史	4	3・4	2・3・4	
東 洋 文 化 史	4	3・4	2・3・4	
西 洋 文 化 史	4	3・4	2・3・4	
映 像 文 化 論 A	2	3・4	2・3・4	
映 像 文 化 論 B	2	3・4	2・3・4	
△ 東 洋 音 楽 史	4	3・4	2・3・4	
△ 西 洋 音 楽 史	4	3・4	2・3・4	
生 命 倫 理 学	4	3・4	2・3・4	
詩 論	4	3・4	2・3・4	
ギリシャ・ローマ文学	4	3・4	2・3・4	
テ ク ス ト 論	4	3・4	2・3・4	
物 語 文 学	4	3・4	2・3・4	
キ リ ス ト 教 文 学	4	3・4	2・3・4	
世界各地域の文学 A	4	3・4	2・3・4	
世界各地域の文学 B	4	3・4	2・3・4	
世界各地域の文学 C	4	3・4	2・3・4	
児 童 文 学	4	3・4	2・3・4	
比 較 文 学	4	3・4	2・3・4	
言 語 学 概 論	4	3・4	2・3・4	
比 較 言 語 学	4	3・4	2・3・4	
記 号 論	4	3・4	2・3・4	
古 典 ギ リ シ ャ 語 I	4	3・4	2・3・4	
古 典 ギ リ シ ャ 語 II	4	3・4	2・3・4	
ラ テ ン 語 入 門	4	2・3・4	2・3・4	
ラ テ ン 語 I	4	3・4	2・3・4	
ラ テ ン 語 II	4	3・4	2・3・4	

文学部共通科目（2006年度以降入学者）

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次		備 考
		2006～2010 年度入学生	2011年度 以降入学生	
出 版 ジ ャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4	2・3・4	2009年度まで開講
放 送 ジ ャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4	2・3・4	
大 学 論	4	2・3・4		
認 知 言 語 学	4	3・4	2・3・4	
精 神 分 析 学 入 門	4	3・4	2・3・4	
心 理 言 語 学	4	3・4	2・3・4	
イ タ リ ア の 言 語 と 文 化	4	2・3・4	2・3・4	
通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (1)	2	3・4	3・4	日本コンベンションサー ビス(附寄附講座)
通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (2)	2	3・4	3・4	日本コンベンションサー ビス(附寄附講座)
現 代 社 会 と 文 学 部	2	3・4	3・4	(有) MTC 寄附講座

※ 「日本の思想」、「東洋の思想」、「ラテン語入門」、「イタリアの言語と文化」は2012年度のみ相模原キャンパスで開講します。2013年度からはすべての科目が青山キャンパスで開講されます。

※ 寄附講座は年度によって開講されない場合があります。

【3】 教育学科履修について (2006～2008年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部教育学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士(教育学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類			必選の別	必要単位
青山スタンダード科目				26
外国語科目	外国語	I	必修	10
学科科目			必修	10
			選択必修	36
自由選択科目			選択	46
総計				128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2006年度以降入学者)(P.33)を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をこなすはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	46	46	184

注1) 中学校、高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、下記の教職課程科目を上記制限単位外で履修できます。

各教科教育法、各教科教材論(英語科は教育法特論)、道德教育の研究、中等教育実習I、中等教育実習II A、中等教育実習II B

注2) 小学校、幼稚園の教育職員免許状の取得を希望する学生は、学科科目のうち幼児教育実習I、幼児教育実習IIもしくは初等教育実習I、初等教育実習IIおよび教職課程科目(道德教育の研究)を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 編入学者、転部・転学部・転学科者について

編入学者、転部・転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

注) 編入学者、転部・転学部・転学科者は編入学、転部・転学部・転学科した年度から2年間に限り最高履修制限単位を超えて、さらに8単位履修することができます。

6. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目(外国語Ⅰ・外国語Ⅱ)は、入学手続時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語Ⅰの必要単位(10単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

注1) 必修10単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 原則として外国語Ⅰは日本語ですが、特に英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた場合は一般学生と同じ科目を10単位修得してください。

(2) 言葉の技能(外国語Ⅱ)の必要単位(4単位)

母国語以外の下記科目中より、初級4単位を修得してください。(配置表はP35・40参照)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続時に申請した科目のⅡ、Ⅲおよび会話の単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとすることができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

注4) 入学手続時に申請した科目以外のⅠ、Ⅱ、Ⅲおよび会話の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等で既に学習したことのある者が、その学力をⅠの科目の修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語 I の必要単位 (10単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II	2	2	
	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	
	英 作 文 I	2	2	

注) 他学科の外国語 I は、原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください)。

(2) 履修順序

1	2
	1 が合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 教育学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必修 (10単位)

教育学概論〔4〕 教育心理学概論〔4〕 基礎演習 (総合演習)〔2〕

選択必修 (36単位) ……次の各区分を充たしてください。

- (イ) 指定科目 (学科科目配置表で*印を付した授業科目) の中から合計24単位
 - (ロ) 演習 (同表で**印を付した授業科目) の中から1科目4単位
 - (ハ) 4年次以上の卒業の見込のある年次に、下記のいずれかにより8単位
 - a. 卒業論文〔8〕
 - b. 同表第I群から第V群までの授業科目から合計8単位
- 注) 卒業論文については(3)を参照してください。

(2) 演習について

演習を履修する学生を対象として、11月～12月に「演習予備登録」を行います。詳細については、掲示等で知らせるので注意してください。

(3) 卒業論文について

- (イ) 卒業論文は年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のある者でなければ履修できません。また教育学科以外の教員を指導教員とすることはできません。
- (ロ) 4年次においては、「卒業論文」を原則として履修し単位を修得するものとします。ただし4年次に第I群～第V群までの諸科目 (選択必修の項(イ)(ロ)で修得した科目を除きます) の中から8単位の修得をもってこれに代えることができます。
- (ハ) 卒業論文を履修する場合は、2年次あるいは3年次において、当該教員の講義または演習を履修していることが望ましい。
- (ニ) 卒業論文の履修については担当教員により人数制限をすることがあります。
- (ホ) 本学もしくは他大学の大学院への進学を希望する者は、卒業論文を履修することが望ましい。
- (ヘ) 卒業論文の提出方法について

4月

- ・教務課への履修登録……事前に指導を希望する教員と面談して、了承を得てから行なってください。
- ・指導教員登録票の提出……履修登録後、教育学科合同研究室 (14号館9階) で配布する「指導教員登録票」に記入し、指定の期間に同研究室に提出してください。「登録票」を期日までに提出しない場合は、「卒業論文」の登録が無効になる場合がありますので注意してください。「登録票」には指導教員の署名を必要としますので、余裕をもって準備してください。

7月

- ・題目届の提出……教育学科合同研究室で配布する「卒業論文題目届」に記入し、指定の期間に同研究室に提出してください。「題目届」を期日までに提出しない場合は、卒業論文を提出することができない場合がありますので、注意してください。「題目届」には指導教員の署名を必要としますので、余裕をもって準備してください。

1月

- ・卒業論文の提出……卒業論文は、指定の期間に学務部教務課に提出してください。**提出期限に遅れた場合は、いかなる理由があっても一切受け付けません**ので、余裕をもって準備をしてください。なお、卒業論文には、教育学科合同研究室で配布する所定用紙を用いた論文要旨を添えてください。

(4) 教職課程関連科目について

- (イ) 教職課程関連科目は教職課程の一分野である「教科に関する科目」として置く科目です。
- (ロ) 履修については、206ページ以下の「教職課程（教員免許状・各種資格）について」と『教職課程履修の手引（第一部）』を参照してください。

(5) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、教育学科学科科目の演習に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。

(6) 履修順序について

1		2	3
/		1が合格した場合のみ履修できます	2が合格した場合のみ履修できます
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)
教育学概論	現代教師論	初等教育実習Ⅰ	初等教育実習Ⅱ
教育心理学概論		幼児教育実習Ⅰ	幼児教育実習Ⅱ

(7) 他学部他学科学科の本学科学科科目の履修について

教育学科学科科目のうち、下記授業科目は他学部他学科学科の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
教育学概論	4	教育方法	4
教育心理学概論	4	教育方法演習	4
基礎演習（総合演習）	2	教育内容演習	4
日本教育史演習	4	臨床教育学総論	2
西洋教育史演習	4	臨床教育学演習	4
宗教教育学演習	4	幼児教育演習	4
教育人間学演習	4	生徒指導（進路指導を含む）	2
教育思想演習	4	教育相談	2
教育社会学演習	4	障害児・者の施設実習	2
高等教育演習	4	障害児教育演習	4
社会教育演習 ※1	4	認知メディア演習	4
生涯学習演習 ※1	4	メディア開発演習	4
初等教育演習	4	知識メディア演習	4
現代教師論	2	卒業論文	8
特別活動	2	書道 ※2	4

※1は社会教育主事資格取得希望者は履修することができます。

※2は日本文学科の学生のみ履修できません。

また、(第Ⅶ群・第Ⅷ群)の授業科目は、申請免許状取得に必要な科目のみ履修できます。

(8) 履修取消制度対象外の科目について

教育学科必修科目は履修取消制度の対象外とします。

2. 教育学科学科科目配置表

(太字は必修科目、△は隔年開講)

(*印：選択必修(イ)、**印：選択必修(ロ)、***印：選択必修(ハ) a)

科目群	種別	授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
第0群		教 育 学 概 論	4	1	
		教 育 心 理 学 概 論	4	1	
		基 礎 演 習 (総 合 演 習)	2	1	
第1群 人間形成学	*	日 本 教 育 史 (人 間 形 成 の 歴 史 I)	4	1・2	
	*	西 洋 教 育 史 (人 間 形 成 の 歴 史 II)	4	3・4	
	**	日 本 教 育 史 演 習	4	3・4	
	**	西 洋 教 育 史 演 習	4	3・4	
	*	宗 教 教 育 学	2	2	
	**	宗 教 教 育 学 演 習	4	3・4	
	*	教 育 哲 学 I (人 間 形 成 の 思 想 と 哲 学)	2	3・4	
	*	教 育 哲 学 II (人 間 形 成 の 文 化 と 社 会)	2	3・4	
	*	発 達 と 文 化 I (教 育 人 類 学)	2	3・4	
	*	発 達 と 文 化 II (教 育 現 象 学)	2	3・4	
	*	図 書 館 情 報 文 化 論	2	2	
	*	教 育 学 特 講	4	3・4	2007年度以降入学者用
	**	教 育 人 間 学 演 習	4	3・4	2007年度以前入学者用
	**	教 育 思 想 演 習	4	3・4	
第2群 比較教育文化・発達社会学	*	比 較 発 達 社 会 学	4	1・2	
	*	教 育 社 会 学 概 論	4	1・2	
	**	教 育 社 会 学 演 習	4	3・4	
	**	高 等 教 育 演 習	4	3・4	
	*	比 較 教 育 学	4	3・4	
	*	教 育 行 政 ・ 制 度	4	2	
	*	国 際 理 解 教 育	2	2・3・4	
		現 代 社 会 と 社 会 教 育 I (高 齢 化 社 会 と 教 育)	2	3・4	
		現 代 社 会 と 社 会 教 育 II (青 年 期 の 教 育)	2	3・4	
		現 代 社 会 と 社 会 教 育 III (ジェンダーと教育)	2	3・4	
	*	家 庭 教 育	4	2	
	*	発 達 文 化 論	2	2・3・4	
	*	発 達 心 理 学	4	1・2	
		教 育 調 査 ・ 統 計	4	3・4	
	社 会 教 育 計 画	4	3・4		

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
第Ⅱ群 比較教育文化・ 発達社会学	**	社 会 教 育 演 習	4	3・4	
	*	図 書 館 情 報 学 概 論	2	2	
		図 書 館 シ ス テ ム 経 営 論	2	3・4	
		図 書 館 シ ス テ ム サ ー ビ ス 論	2	2	
	*	図 書 館 情 報 学 特 論	2	3・4	
		児 童 サ ー ビ ス 論	2	3・4	
	*	生 涯 学 習 概 論	4	2	
	**	生 涯 学 習 演 習	4	3・4	
第Ⅲ群 学校教育学	*	学 校 教 育 学 総 論	4	1・2	
	*	初 等 教 育 原 理	4	1・2	
	**	初 等 教 育 演 習	4	3・4	
		現 代 教 師 論	2	2	
	*	教 育 課 程 論	4	3・4	
	*	学 校 経 営 ・ 管 理	4	2・3・4	
		特 別 活 動	2	3・4	
	*	教 育 方 法	4	2	
	*	教 材 開 発 論	2	2・3・4	
	*	学 校 教 育 学 特 論	4	3・4	
		音 楽 教 材 研 究	2	3・4	
		図 画 工 作 教 材 研 究	2	3・4	
		体 育 教 材 研 究	2	3・4	
		国 語 教 材 研 究	2	3・4	
		社 会 教 材 研 究	2	3・4	
		算 数 教 材 研 究	2	3・4	
		理 科 教 材 研 究	2	3・4	
		生 活 科 教 材 研 究	2	3・4	
		家 庭 教 材 研 究	2	3・4	
	**	教 育 方 法 演 習	4	3・4	
	**	教 育 内 容 演 習	4	3・4	
	*	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2	
*	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	3・4		
*	読 書 教 育 論	2	3・4		
*	学 校 心 理 学	2	2・3・4		
第Ⅳ群 臨床教育学	*	臨 床 教 育 学 総 論	2	1・2	
	*	臨 床 保 育 学	4	2・3・4	
	*	養 護 教 育	4	1・2	
	**	臨 床 教 育 学 演 習	4	3・4	
	*	小 児 保 健 学	4	2・3・4	
	*	小 児 精 神 神 経 学	2	3・4	
	*	幼 児 教 育 原 理	4	1・2	

文学部教育学科 (2006～2008年度入学者)

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	
	**	幼 児 教 育 演 習	4	3・4	2007年度以降入学者用	
		臨 床 教 育 学 特 論	4	3・4		
	*	保 育 方 法 の 研 究	4	3・4		
	*	保 育 方 法 の 研 究	4	2・3・4		
	*	保 育 内 容 総 論	4	3・4		
	*	保 育 内 容 総 論	4	2・3・4		2007年度以降入学者用
		保 育 内 容 研 究 (健 康)	2	3・4		
		保 育 内 容 研 究 (人 間 関 係)	2	3・4		
		保 育 内 容 研 究 (環 境)	2	3・4		
		保 育 内 容 研 究 (こ と ば)	2	3・4		
		保 育 内 容 研 究 (表 現 A)	2	3・4		
		保 育 内 容 研 究 (表 現 B)	2	3・4		
		生 徒 指 導 (進 路 指 導 を 含 む)	2	3・4		
	*	教 育 相 談	2	3・4		
	*	臨 床 心 理 学	4	2	2006年度閉講	
	*	臨 床 心 理 学 総 論	4	2	旧称「臨床心理学」の修得者は履修不可	
	*	人 格 心 理 学	4	3・4		
	*	相 談 心 理 学	4	3・4		
	*	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2		
	*	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4		
	*	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4		
	*	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4		
	*	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4		
		(イ)障 害 児 ・ 者 の 施 設 実 習	2	2	不定、(イ)は講義内容、初頭行事、 時間割表を参照	
	**	障 害 児 教 育 演 習	4	3・4		
	第V群 メディア・コミュニケーション学	*	メディア・コミュニケーション概論	2	1・2	
*		認 知 科 学 概 論	2	2		
*		イ ン タ ー フ ェ ー ス 論	2	3・4		
*		知 的 表 現 論	2	3・4		
*		メディア・コミュニケーション特論I	2	3・4		
*		メディア・コミュニケーション特論II	2	3・4		
**		認 知 メ デ ィ ア 演 習	4	3・4		
*		視 聴 覚 教 育 メ デ ィ ア 論	2	3・4		
*		学 習 心 理 学	4	3・4		
*		社 会 心 理 学	4	3・4		
		情 報 メ デ ィ ア 論 I	2	2		
		情 報 メ デ ィ ア 論 II	2	3・4		
		情 報 メ デ ィ ア 特 論	2	3・4		

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
第V群 コミュニケーション メディア学		メ デ ィ ア 組 織 法 I	2	3・4	
		メ デ ィ ア 組 織 法 II	4	3・4	
	*	学 校 図 書 館 メ デ ィ ア	2	3・4	
	*	情 報 サ ー ビ ス 論	4	3・4	
		情 報 検 索 法	4	3・4	
		情 報 メ デ ィ ア 利 用 論	2	3・4	
	**	メ デ ィ ア 開 発 演 習	4	3・4	
	**	知 識 メ デ ィ ア 演 習	4	3・4	
第VI群	***	卒 業 論 文	8	4のみ	
<p>第VII・VIII群の科目は、文学部他学科並びに他学部学生の場合、免許状取得に必要な科目のみ履修できます。</p>					
第VII群		幼 児 教 育 実 習 I	1	3	
		幼 児 教 育 実 習 II	4	4	
		初 等 教 育 実 習 I	1	3	
		初 等 教 育 実 習 II	4	4	
		数 学 概 説	4	1・2	
		理 科 概 説	4	1・2	
		音 楽 理 論	2	1・2	
		(ロ)器 楽 A	2	2	(ロ)(ハ)はいずれか一方しか履修できません
		(ハ)器 楽 B	2	3・4	
		(ニ)器 楽 C	2	3・4	(ニ)は(ロ)又は(ハ)の取得者に限ります
		声 楽	2	3・4	
		図 画 工 作	4	2	
		美 術	2	3・4	
		体 育 原 理	2	1・2	
		体 育 実 習	2	3・4	
		生 活 科 研 究	2	3・4	
		国 語 概 説 I	2	3・4	
		国 語 概 説 II	2	3・4	
	家 庭 科 研 究 I	2	3・4		
	家 庭 科 研 究 II	2	3・4		
第VIII群		英 語 概 説	4	3・4	
		英 作 文 II	2	3・4	
		英 文 学	4	3・4	
		英 国 文 学 史	4	3・4	
		(ホ)英 語 音 声 学 (講 義)	2	3・4	(ホ)は両方履修
		(ホ)英 語 音 声 学 (演 習)	2	3・4	
		英 語 講 読 III	2	3・4	2007年度閉講
		初 等 英 語 特 論	4	3・4	2007年度以降入学者用

文学部教育学科 (2006～2008年度入学者)

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
第Ⅳ群		国 文 学	4	1・2	2006年度閉講
		国 文 学 史	4	3・4	
		漢 文 学	4	3・4	
		書 道	4	3・4	
		△書 理 論	4	3・4	
		日 本 史	4	3・4	
		外 国 史 (東 洋 史 及 び 西 洋 史)	4	3・4	
		人 文 地 理 学	4	3・4	
		自 然 地 理 学	4	3・4	
		△水 文 学	4	3・4	
		△地 理 情 報 分 析 法	4	3・4	
		△気 象 学	4	3・4	
		△地 誌 学 概 論 (ア メ リ カ 地 誌 を 含 む)	4	3・4	
		△地 誌 学 概 論 (ア ジ ア 地 誌 を 含 む)	4	3・4	
		△地 誌 学 概 論 (ヨ ー ロ ッ パ 地 誌 を 含 む)	4	3・4	
		△地 誌 学 概 論 (日 本 地 誌 を 含 む)	4	3・4	
		法 律 学 概 説	4	3・4	
		政 治 学 概 説	4	3・4	
		社 会 科 概 説	2	3・4	
		経 済 学 総 論	4	3・4	
		哲 学 史	4	3・4	
		△倫 理 学 概 説	4	3・4	
		宗 教 学	4	3・4	
	△心 理 学 概 説	4	3・4		
	職 業 指 導	4	3・4		
	教 育 学 概 論 II	2	3・4		
	生 涯 学 習 概 論 II	2	3・4		
第Ⅸ群		インストラクショナルデザイン総論	2	2・3・4	
		教育システムのためのITファンダメンタル	2	2・3・4	
		コンピュータ利用教育と学習理論	2	3・4	
		コ ン テ ン ツ 開 発 演 習	2	2・3・4	
		eラーニングシステムマネジメント演習	2	2・3・4	
		コース実施と学習支援演習	2	2・3・4	
		オンライ ン 調 査 解 析 演 習	2	2・3・4	
		協 調 学 習 デ ザ イ ン 演 習	2	2・3・4	
		キ リ ス ト 教 学 校 論	2	3・4	

科目群	種別	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
第IX群		聖 書 の 世 界 (旧 約)	2	3・4	
		聖 書 の 世 界 (新 約)	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 の 教 理	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 と 法 思 想	2	3・4	
		宗 教 と 社 会	2	3・4	
		礼 拝 学	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 と 精 神 医 学	2	3・4	
教職課程関連科目		英 語 史	4	1	
		英 文 学 概 論	4	1	
		米 文 学 概 論	4	1	
		米 国 文 学 史	4	1	
		イ ギ リ ス 事 情	4	3・4	
		ア メ リ カ 事 情	4	3・4	
		日 本 語 学 概 論	4	1	
		日 本 文 学 特 講[1]	4	3・4	
		日 本 語 学 特 講[1]	4	3・4	
		漢 文 学 特 講[1]	4	3・4	
		人 文 地 理 学 概 論	4	3・4	
		経 済 地 理 学	4	2	
		憲 法	4	2	
		民 法 I	4	3・4	
		政 治 学 原 論	4	1・2	
	国 際 経 済 学	4	2		

注) 教職課程関連科目は、教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。なお、申請免許に必要な教科科目を修得した場合は自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

※ 科目担当者や当該年度の休講等については、学生ポータル(時間割・講義内容検索)で必ず確認してください。

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位 (46単位)

- (イ) 教育学科学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
 - (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)
 - (ハ) 文学部共通科目
 - (ニ) 文学部他学科並びに他学部開講の科目 (注1)
- (注1) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単
位に算入されるのは12単位までです。ただし、教育職員免許状の取得希望者が教科に
関する科目として修得した場合、すべてが自由選択科目として卒業に必要な単位に算
入されます。
- 履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。
また、本学科に同一名称科目がある場合は、履修できません。

【3】 英米文学科履修について (2010年度以降入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部英米文学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士(文学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

(2010年度以降入学者)

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
学 科 科 目	英 語 科 目	必 修	6
		選択必修	12
	専 門 科 目	必 修	4
		選択必修	40
自由選択科目		選 択	38
総 計			124

青山スタンダード科目の履修については、【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2012年度入学者)(P.13～)(2011年度入学者)(P.23～)(2006年度～2010年度入学者)(P.33～)を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合 計
48	44	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目(P.215、216)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理A、教育原理Bを上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除く)で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込のない学生として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学者、転部・転学部・転学科者について

編入学者、転部・転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例)2012年度2年次転部・転学部・転学科者の場合－2011年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 2012年度3年次編入学者・転部者の場合－2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 注) 編入学、転部・転学部・転学科者は編入学又は転部・転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えてさらに、それぞれ8単位履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

青山スタンダード／技能コア／言葉の技能（外国語科目）〔領域F〕の履修方法は次のとおりです。

青山スタンダード／技能コア／言葉の技能（外国語科目）の必要単位（4単位）

（太字は必修科目）

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 I (A)	2	1	
日 本 語 I (B)	2	1	
日 本 語 II	2	2	
日 本 語 III	2	3	

- 注1) 必修4単位を超えて修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。
- 注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
- 注3) 日本語以外の外国語（母国語以外）科目の単位は自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。（配置表は2012年度入学者…P.15、20、2011年度入学者…P.25、29、2006～2010入学者…P.35、40参照）
- 注4) 学科科目の英語科目を特に日本語で履修するよう指定を受けた学生は下記授業科目の中より4単位（I）を必修とします。ただし母国語は履修できません。
 フランス語 ドイツ語 スペイン語 中国語 ロシア語 韓国語 英語
- 注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある学生が、その学力をI修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 英米文学科学科科目履修方法および配置表

1. コース制について

(1) コース名称

下記の6コースがあります。

登録したコースの指定科目の単位を20単位以上修得した場合は、卒業時に修了認定証が英米文学科より発行されます。コースの登録、修了の有無は、卒業要件ではありません。

- イギリス文学・文化コース
- アメリカ文学・文化コース
- グローバル文学・文化コース
- 英語学コース
- コミュニケーションコース
- 英語教育学コース

(2) コース登録

コース登録は3年次の初めに行います。但し4年次の初めに一度だけ変更が可能です。

(3) コース指定科目

※登録したコース以外のコースの科目も履修することができます。

[イギリス文学・文化コース]

- イギリス文学史〔4〕 イギリス文学概論〔4〕 イギリス文化概論〔4〕
- イギリス文学特講(1)～(3)〔4〕 イギリス文化特講(1)～(2)〔4〕
- イギリス文学演習(1)～(4)〔4〕 イギリス文化演習(1)～(3)〔4〕
- 英詩概論〔4〕 イギリス事情〔4〕 英語聖書〔4〕

[アメリカ文学・文化コース]

- アメリカ文学史〔4〕 アメリカ文学概論〔4〕 アメリカ文化概論〔4〕
- アメリカ文学特講(1)～(2)〔4〕 アメリカ文化特講(1)～(2)〔4〕
- アメリカ文学演習(1)～(4)〔4〕 アメリカ文化演習(1)～(4)〔4〕 アメリカ事情〔4〕

[グローバル文学・文化コース]

- グローバル文学・文化概論〔4〕 グローバル文学理論〔4〕
- グローバル文学特講(1)～(2)〔4〕 グローバル文化特講〔4〕 グローバル文学演習〔4〕
- グローバル文化演習〔4〕

[英語学コース]

- 英語音声学(講義)〔2〕 英語音声学(演習)〔2〕 英語学概論〔4〕 英語史〔4〕
- 英文法〔4〕 英語学特講(1)～(5)〔4〕 言語学特講〔4〕 英語学演習(1)～(8)〔4〕

[コミュニケーションコース]

- コミュニケーション概論〔4〕 異文化間コミュニケーション概論〔4〕
- コミュニケーション特講(1)～(5)〔4〕 コミュニケーション演習(1)～(7)〔4〕
- メディアスタディーズ〔4〕

[英語教育学コース]

- 英語教育学概論(1)～(2)〔4〕 ※2010・2011年度入学者用
- 英語教育学概論〔4〕 ※2012年度以降入学者用 英語教育学特講(1)～(3)〔4〕
- 英語教育学演習(1)～(2)〔4〕 英語科教育法〔4〕 英語科教育法特論〔4〕
- CALL教育方法論〔4〕

2. 学科科目の履修方法

(1) 英語科目の必要単位

① 2010年度以降入学者

必修 (6単位)

Reading I [1] Reading II [1] Academic Writing [1] Academic Skills [1]

※Reading I は、1年次の前期と後期に指定されたクラスで1単位ずつ計2単位修得、
Reading II は、2年次の前期と後期に指定されたクラスで1単位ずつ計2単位修得して
ください。

選択必修 (12単位)

下記の Integrated English Program の中から各学期に4単位ずつ履修し、合計12単位を修得してください。

Integrated English I [4] } 各レベル共、以下の3つの section から成り、それらの総合
Integrated English II [4] } 成績により各学期に4単位ずつ修得します。
Integrated English III [4] } IE Core, IE Active Listening, IE Writing

IE Seminar A [4]

IE Seminar B [2]

注1) Integrated English I～IIIは、1年次に Placement Test によって指定されたレベルから履修を開始します。

注2) 履修順序は原則として Integrated English I、Integrated English II、Integrated English III、IE Seminar の順とします。ただし、成績により順序が変わる場合もあります。

注3) Integrated English Program 修了に必要な12単位を超えて修得した IE Seminar の単位は自由選択科目に算入されます。

注4) 1年次前期に Integrated English IIIより履修を開始する学生の IE Seminar は1年次に4単位、2年次に4単位を選択必修とします。

注5) 外国人留学生で、英語科目にかえて日本語を履修するよう指定を受けた学生は、下記授業科目の18単位を必修とします。

日本語初級 A [2] 日本語初級 B [2] 日本語初級 C [2] …1年次配置
日本語中級 A [2] 日本語中級 B [2] ……………2年次配置
日本語上級 [2] 日本文学科学科科目中より指定する科目 [6]
……………3年次配置

(2) 専門科目の必要単位

① 2010年度以降入学者

必修 (4単位)

基礎演習 [4]

選択必修 (40単位) ——下記(イ)(ロ)により40単位を修得してください。

(イ) 下記科目の中から16単位を選択必修とします。

イギリス文学史 [4] イギリス文学概論 [4] イギリス文化概論 [4]

アメリカ文学史 [4] アメリカ文学概論 [4] アメリカ文化概論 [4]

グローバル文学・文化概論 [4] グローバル文学理論 [4]

英語音声学 (講義) [2] 英語音声学 (演習) [2] 英語学概論 [4] 英語史 [4]

英文法 [4] コミュニケーション概論 [4]

異文化間コミュニケーション概論 [4]

英語教育学概論 (1)(2) [各4] ※2010・2011年度入学者用

英語教育学概論 [4] ※2012年度以降入学者用

(ロ) 下記科目の中から3年次に12単位、4年次に12単位、合計24単位を選択必修とします。

イギリス文学特講 (1)～(3) [各4] イギリス文化特講 (1)(2) [各4]

アメリカ文学特講 (1)(2) [各4] アメリカ文化特講 (1)(2) [各4]

グローバル文学特講(1)(2)〔各4〕 グローバル文化特講〔4〕
 英語学特講(1)～(5)〔各4〕 言語学特講〔4〕
 コミュニケーション特講(1)～(5)〔各4〕 英語教育学特講(1)～(3)〔各4〕
 イギリス文学演習(1)～(4)〔各4〕 イギリス文化演習(1)～(3)〔各4〕
 アメリカ文学演習(1)～(4)〔各4〕 アメリカ文化演習(1)～(4)〔各4〕
 グローバル文学演習〔4〕 グローバル文化演習〔4〕
 英語学演習(1)～(8)〔各4〕 コミュニケーション演習(1)～(7)〔各4〕
 英語教育学演習(1)(2)〔各4〕 特別演習（卒業論文）〔8〕

ただし、この24単位の中にはイギリス文学演習、イギリス文化演習、アメリカ文学演習、アメリカ文化演習、グローバル文学演習、グローバル文化演習、英語学演習、コミュニケーション演習、英語教育学演習の中より1科目4単位を必ず含めなければなりません。なお、下記科目のうち1科目〔4単位〕だけ特講の単位として振替えることができます。

イギリス事情〔4〕 アメリカ事情〔4〕 英語聖書〔4〕 メディアスタディーズ〔4〕
 注1) 3年次に12単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。

注2) 演習は予備登録をし、許可された学生以外は履修できません。

(3) 特別演習（卒業論文）について

(イ) 特別演習は年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込みのある学生でなければ履修できません。また、英米文学科特別演習担当者以外の教員を指導教員とすることはできません。

履修希望者は履修登録前に必ず指導教員の了解を得てください。

(ロ) 卒業論文の書き方等については、「英語による卒業論文の書き方」を参照してください。（配布についての詳細は学生ポータルでお知らせします。）

(ハ) 論文に使用する表紙、その他詳細については指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

(ニ) 卒業論文の「提出方法」について

題目提出期限……年度初頭時に学生ポータルで発表

提出先……英米文学科研究室

題目届を期限までに提出しない場合は卒業論文を提出することができません。

論文提出日時……年度初頭時に学生ポータルで発表

提出先……学務部教務課

提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。

注) 論文は英文タイプすること。枚数はダブルスペースで30枚程度。

(ホ) 提出後の論文の訂正はできません。

(ヘ) 第3年次において、協定校または認定校へ交換留学生として留学をする学生で、4年次に「特別演習（卒業論文）」の履修を希望する場合は、出発前に指導教員の許可がある場合に限り、帰国後の履修が認められます。希望する場合には、事前に教務課に申し出てください。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。ただし、英米文学科科学科科目のIE Seminar、特講、演習、通訳、翻訳に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

(5) 履修順序について

各授業科目間の履修順序はつけません。

文学部英米文学科（2010年度以降入学者）

(6) 履修取消制度対象外の科目について

英米文学科の学科科目のうち、下記授業科目は、履修取消制度の対象外とします。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
イギリス文学演習	4	グローバル文化演習	4
イギリス文化演習	4	英語学演習	4
アメリカ文学演習	4	コミュニケーション演習	4
アメリカ文化演習	4	英語教育学演習	4
グローバル文学演習	4	特別演習（卒業論文）	8

(7) 他学部他学科学生の本学科学科科目の履修について

英米文学科学科科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
Reading I	1	特別演習（卒業論文）	8
Reading II	1	スピーチコミュニケーション I	2
Academic Writing	1	オーラルインタープリテーション	2
Academic Skills	1	翻訳 I	2
Integrated English I～III	4	翻訳 II	4
IE SeminarA	4	英語科教育法	4
IE SeminarB	2	英語科教育法特論	4
基礎演習	4	パフォーマンススタディズ	2
英語音声学（講義）	2	通訳 I	4
英語音声学（演習）	2	通訳 II	2
イギリス文学演習	4	クリエイティブライティング	4
イギリス文化演習	4	ジャーナリスティックライティング	2
アメリカ文学演習	4	アドヴァンスト・アカデミックライティング	4
アメリカ文化演習	4	リスニングコンプリヘンション	2
グローバル文学演習	4	eラーニングイングリッシュ	2
グローバル文化演習	4	ビジネスイングリッシュ II	2
英語学演習	4	メディアスタディーズ	4
コミュニケーション演習	4	英語コーパス研究方法論	4
英語教育学演習	4	CALL 教育方法論	4

3. 学科科目配置表

(1) 英語科目（2010年度以降入学者）

授 業 科 目	単 位	履修年次	学期	備 考
Reading I	1	1	前・後期	必修 1年次の前期と後期に指定されたクラスで1単位ずつ計2単位修得
Reading II	1	2		
Academic Writing	1	2	後期	

Academic Skills	1	2	後期		
Integrated English I	4	1・2	前・後期	12 単位 選択 必修	
Integrated English II	4	1・2			
Integrated English III	4	1・2			
IE Seminar A	4	1・2	前・後期		
IE Seminar B	2	1・2			

(2) 専門科目 (2010年度以降入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	
基 礎 演 習	4	2	1クラス30名	
イギリス文学史	4	1・2		
イギリス文学概論	4	1・2		
イギリス文化概論	4	1・2		
アメリカ文学史	4	1・2		
アメリカ文学概論	4	1・2		
アメリカ文化概論	4	1・2		
グローバル文学・文化概論	4	1・2		
グローバル文学理論	4	1・2		
英語音声学(講義)	2	1・2	半期 講義演習組合せて履修	
(演習)	2	1・2		半期
英語学概論	4	1・2		
英語史	4	1・2		
英文法	4	1・2		
コミュニケーション概論	4	1・2		
異文化間コミュニケーション概論	4	1・2		
英語教育学概論	4	1・2	※2012年度以降入学者用	
英語教育学概論(1)～(2)	4	1・2	※2010・2011年度入学者用	
イギリス文学特講(1)～(3)	4	3・4		
イギリス文化特講(1)～(2)	4	3・4		
アメリカ文学特講(1)～(2)	4	3・4		
アメリカ文化特講(1)～(2)	4	3・4		
グローバル文学特講(1)～(2)	4	3・4		
グローバル文化特講	4	3・4		
英語学特講(1)～(5)	4	3・4		
言語学特講	4	3・4		
コミュニケーション特講(1)～(5)	4	3・4		
英語教育学特講(1)～(3)	4	3・4		
イギリス文学演習(1)～(4)	4	3・4		演習は予備登録をし許可された学生 にかぎります
イギリス文化演習(1)～(3)	4	3・4		
アメリカ文学演習(1)～(4)	4	3・4		
アメリカ文化演習(1)～(4)	4	3・4		

文学部英米文学科 (2010年度以降入学者)

グローバル文学演習	4	3・4	
グローバル文化演習	4	3・4	
英語学演習(1)～(8)	4	3・4	
コミュニケーション演習(1)～(7)	4	3・4	
英語教育学演習(1)～(2)	4	3・4	
特別演習 (卒業論文)			2013年度開講
〔イギリス文学・文化〕	8	4	
〔アメリカ文学・文化〕	8	4	
〔グローバル文学・文化〕	8	4	
〔英語学〕	8	4	
〔コミュニケーション〕	8	4	
〔英語教育学〕	8	4	
スピーチコミュニケーション I (1)～(4)	2	1・2	
オーラルインタープリテーション(1)～(2)	2	1・2	
翻訳 I (1)～(2)	2	1・2	
英詩概論	4	3・4	
英語科教育法	4	3・4	
英語科教育法特論	4	3・4	
イギリス事情	4	3・4	
アメリカ事情	4	3・4	
英語聖書	4	3・4	
スピーチコミュニケーション II (1)～(6)	2	3・4	
パフォーマンススタディズ(1)～(4)	2	3・4	
通訳 I	4	3・4	
通訳 II (1)～(4)	2	3・4	
翻訳 II (1)～(3)	4	3・4	
クリエイティブライティング(1)～(2)	2	3・4	
ジャーナリスティックライティング(1)～(2)	2	3・4	
アドヴァンスト・アカデミックライティング	4	3・4	※卒論執筆希望者対象科目
リスニングコンプリヘンション	2	3・4	
eラーニングイングリッシュ	2	3・4	
ビジネスイングリッシュ I (1)～(3)	2	3・4	
ビジネスイングリッシュ II (1)～(2)	2	3・4	
メディアイングリッシュ I (1)～(2)	2	3・4	
メディアイングリッシュ II (1)～(2)	2	3・4	
メディアスタディーズ	4	3・4	
英語コーパス研究方法論	4	3・4	
C A L L 教育方法論	4	3・4	

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

(1) 2010年度以降入学者（38単位）

- (イ) 英米文学科学科科目（必修および選択必修として修得した単位は除きます）
 - (ロ) 文学部共通科目
 - (ハ) 青山スタンダード科目（必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます）
 - (ニ) 文学部他学科・他学部開講の科目（※注）
- (※注)各年次の最高履修制限単位以内で履修できますが、卒業に必要な単位に算入されるのは28単位までです。履修する場合には文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 英米文学科履修について（2006～2009年度入学者）

1. 卒業要件

（1）卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

（2）学位について

文学部英米文学科に4年以上（ただし、8年を限度とします）在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士（文学）の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

（2006～2009年度入学者）

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
学 科 目	英 語 科 目	必 修	6
		選 択 必 修	12
学 科 目	専 門 科 目	必 修	—
		選 択 必 修	44
自 由 選 択 科 目		選 択	38
総 計			124

青山スタンダード科目の履修については、【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表（2006年度以降入学者）（P.33～）を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
48	44	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目（P.217、218）を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理（2009年度入学者は、教育原理 A、教育原理 B）を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

（1）1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

（2）2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注）（1）、（2）の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間（休学期間を除く）で修得単位が32単位に満たない学生は、成業の見込のない学生として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画を立て、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学者、転部・転学部・転学科者について

編入学者、転部・転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例)2009年度2年次転部・転学部・転学科者の場合——2008年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 2009年度3年次編入学者・転部者の場合——2007年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 注) 編入学、転部・転学部・転学科者は編入学又は転部・転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えてさらに、それぞれ8単位履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

青山スタンダード/技能コア/言葉の技能（外国語科目）〔領域F〕の履修方法は次のとおりです。

青山スタンダード/技能コア/言葉の技能（外国語科目）の必要単位（4単位）

（太字は必修科目）

授 業 科 目	単位	履修年次	備 考
日 本 語 I (A)	2	1	
日 本 語 I (B)	2	1	
日 本 語 II	2	2	
日 本 語 III	2	3	

- 注1) 必修4単位を超えて修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位の算入されます。
- 注2) 各授業科目間の履修順序はつきません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
- 注3) 日本語以外の外国語（母国語以外）科目の単位は自由選択科目として卒業に必要な単位の算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつきません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。（配置表はP.35、40参照）
- 注4) 学科科目の英語科目を特に日本語で履修するよう指定を受けた学生は下記授業科目の中より4単位（I）を必修とします。ただし母国語は履修できません。
 フランス語 ドイツ語 スペイン語 中国語 ロシア語 韓国語 英語
- 注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある学生が、その学力をI修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位の充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 英米文学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目の履修方法

(1) 英語科目の必要単位

① 2006~2009年度入学者

必修 (6単位)

Reading I [2] Reading II [2] Academic Writing [1] Academic Skills [1]

選択必修 (12単位)

下記の Integrated English Program の中から各学期に 4 単位ずつ履修し、合計12単位を修得してください。

Integrated English I [4] } 各レベル共、以下の 3 つの section から成り、それらの総合成績により各学期に 4 単位ずつ修得します。
 Integrated English II [4] } IE Core, IE Active Listening, IE Writing
 Integrated English III [4] } ※2009年度より、各sectionの名称が変更となりました。

IE Seminar A [4] IE Seminar B [2]

注1) Integrated English I~IIIは、1年次に Placement Test によって指定されたレベルから履修を開始します。

注2) 履修順序は原則として Integrated English I、Integrated English II、Integrated English III、IE Seminar の順とします。ただし、成績により順序が変わる場合もあります。

注3) Integrated English Program 修了に必要な12単位を超えて修得した IE Seminar の単位は自由選択科目に算入されます。

注4) 1年次前期に Integrated English IIIより履修を開始する学生の IE Seminar は1年次に 4 単位、2年次に 4 単位を選択必修とします。

注5) 外国人留学生で、英語科目にかえて日本語を履修するよう指定を受けた学生は、下記授業科目の18単位を必修とします。

日本語初級 A [2] 日本語初級 B [2] 日本語初級 C [2] …… 1年次配置

日本語中級 A [2] 日本語中級 B [2] …………… 2年次配置

日本語上級 [2] 日本文学科学科科目中より指定する科目 [6] …… 3年次配置

(2) 専門科目の必要単位

① 2006~2009年度入学者

選択必修 (44単位) —— 下記(イ)(ロ)(ハ)により44単位を修得してください。

(イ) 下記科目の中から16単位を選択必修とします。

英語音声学 (講義) [2]・(演習) [2] 英国文学史 I [4] 英国文学史 II [4]

英語学概論 [4] 米国文学史 [4] 英語史 [4] 英文学概論 [4]

米文学概論 [4] コミュニケーション概論 [4]

異文化間コミュニケーション概論 [4]

(ロ) 下記科目の中から 4 単位を選択必修とします。

基礎演習 [4] 英文法 [4]

(ハ) 下記科目を 3 年次に12単位、4 年次に12単位、合計24単位を選択必修とします。

英文学特講(1)~(10) [各4] 米文学特講(1)~(7) [各4]

英語学特講(1)~(7) [各4] 言語学特講 [4]

コミュニケーション特講(1)~(3) [各4] 英文学演習(1)~(9) [各4]

米文学演習(1)~(8) [各4] 英語学演習(1)~(10) [各4]

コミュニケーション演習(1)~(7) [各4] 特別演習 (卒業論文) [8]

ただし、この24単位の中には英文学演習、米文学演習、英語学演習、コミュニケーション演習の中より 1 科目 4 単位を必ず含めなければなりません。なお、下記科目のうち 1 科目 (4 単位) だけ特講の単位として振替えることができます。

イギリス事情 [4] アメリカ事情 [4] 英語聖書 [4] メディアスタディーズ [4]

注1) 3年次に12単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。

注2) 演習は予備登録をし、許可された学生以外は履修できません。

(3) 特別演習（卒業論文）について

(イ) 特別演習は年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込みのある学生でなければ履修できません。また、英米文学科特別演習担当者以外の教員を指導教員とすることはできません。

履修希望者は履修登録前に必ず指導教員の了解を得てください。

(ロ) 卒業論文の書き方等については、「英語による卒業論文の書き方」を参照してください。（配布についての詳細は学生ポータルでお知らせします。）

(ハ) 論文に使用する表紙、その他詳細については指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

(ニ) 卒業論文の「提出方法」について

題目提出期限……年度初頭時に学生ポータルで発表

提出先……英米文学科研究室

題目届を期限までに提出しない場合は卒業論文を提出することができません。

論文提出日時……年度初頭時に学生ポータルで発表

提出先……学務部教務課

提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。

注) 論文は英文タイプすること。枚数はダブルスペースで30枚程度。

(ホ) 提出後の論文の訂正はできません。

(ヘ) 第3年次において、協定校または認定校へ交換留学生として留学をする学生で、4年次に「特別演習（卒業論文）」の履修を希望する場合は、出発前に指導教員の許可がある場合に限り、帰国後の履修が認められます。希望する場合には、事前に教務課に申し出てください。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。ただし、英米文学科学科科目の IE Seminar、特講、演習、通訳、翻訳に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

(5) 履修順序について

各授業科目間の履修順序はつけません。

(6) 履修取消制度対象外の科目について

英米文学科の学科科目のうち、下記授業科目は、履修取消制度の対象外とします。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
英文学演習	4	米文学演習	4
英語学演習	4	コミュニケーション演習	4
特別演習（卒業論文）	8		

(7) 他学部他学科学科生の本学科学科科目の履修について

英米文学科学科科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学科生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
Reading I	2	スピーチコミュニケーション	2
Reading II	2	オーラルインタープリテーション	2
Academic Writing	1	クリエイティブライティング	2

文学部英米文学科 (2006～2009年度入学者)

Academic Skills	1	パフォーマンススタディズ	2
Integrated English I～III	4	通訳 I	4
IE Seminar A	4	通訳 II	2
IE Seminar B	2	翻訳	4
英語音声学 (講義)	2	ジャーナリスティックライティング	2
英語音声学 (演習)	2	アドヴァンスト・アカデミックライティング	4
英文学演習	4	リスニングコンプリヘンション	2
米文学演習	4	eラーニング英語	2
英語学演習	4	ビジネスイングリッシュ II	4
コミュニケーション演習	4	メディアスタディーズ	4
特別演習 (卒業論文)	8	英語コーパス研究方法論	4
基礎演習	4	CALL教育方法論	4
英文法	4		

2. 学科科目配置表

(1) 英語科目 (2006～2009年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	学 期		備 考
Reading I	2	1	通年	必 修	
Reading II	2	2			
Academic Writing	1	2	後期		
Academic Skills	1	2	後期		
Integrated English I	4	1・2	前・後期	12 単 位 選 択 必 修	
Integrated English II	4	1・2			
Integrated English III	4	1・2			
IE Seminar A	4	1・2	前・後期		
IE Seminar B	2	1・2			

(2) 専門科目 (2006～2009年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
英 語 音 声 学 (講義) (演習)	2	1	半期 講義演習組合せて履修 半期
	2	1	
英 国 文 学 史 I	4	1	1 クラス30名とします
英 国 文 学 史 II	4	1	
英 語 学 概 論	4	1	
米 国 文 学 史	4	1	
英 語 史	4	1	
英 文 学 概 論	4	1	
米 文 学 概 論	4	1	
コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 概 論	4	1	
異文化間コミュニケーション概論	4	1	
基 礎 演 習	4	1	

英 文 法	4	1	
英 文 学 特 講(1)～(11)	4	3・4	
米 文 学 特 講(1)～(8)	4	3・4	
英 語 学 特 講(1)～(7)	4	3・4	
言 語 学 特 講	4	3・4	
コミュニケーション特講(1)～(3)	4	3・4	
英 文 学 演 習(1)～(9)	4	3・4	演習は予備登録をし許可された学生 にかぎります
米 文 学 演 習(1)～(8)	4	3・4	
英 語 学 演 習(1)～(10)	4	3・4	
コミュニケーション演習(1)～(7)	4	3・4	
特別演習 (卒業論文) [英文学]	8	4	
[米文学]	8	4	
[英語学]	8	4	
[コミュニケーション]	8	4	
スピーチコミュニケーションⅠ(1)～(2)	2	2	
オーラルインタープリテーション(1)～(2)	2	2	
クリエイティブライティングⅠ	2	2	
英 詩 概 論	4	3・4	
英 語 教 授 法	4	3・4	
イ ギ リ ス 事 情	4	3・4	
ア メ リ カ 事 情	4	3・4	
英 語 聖 書	4	3・4	
スピーチコミュニケーションⅡ(1)～(6)	2	3・4	
パフォーマンススタディズ(1)～(4)	2	3・4	
通 訳 Ⅰ	4	3・4	
通 訳 Ⅱ(1)～(4)	2	3・4	
翻 訳(1)～(3)	4	3・4	
クリエイティブライティングⅡ(1)～(2)	2	3・4	
ジャーナリスティックライティング(1)～(2)	2	3・4	
アドヴァンスト・アカデミックライティング	4	3・4	※卒論執筆希望者対象科目
リスニングコンプリヘンション	2	3・4	
e ラ ー ニ ン グ 英 語	2	3・4	
ビジネスイングリッシュⅠ(1)～(3)	2	3・4	
ビジネスイングリッシュⅡ	4	3・4	
メディアイングリッシュⅠ(1)～(2)	2	3・4	
メディアイングリッシュⅡ	2	3・4	
メ デ ィ ア ス タ デ ィ ー ズ	4	3・4	
英 語 コ ー パ ス 研 究 方 法 論	4	3・4	
C A L L 教 育 方 法 論	4	3・4	

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

(1) 2006～2009年度入学者（38単位）

- (イ) 英米文学科学科科目（必修および選択必修として修得した単位は除きます）
 - (ロ) 文学部共通科目
 - (ハ) 青山スタンダード科目（必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます）
 - (ニ) 文学部他学科・他学部開講の科目（※注）
- (※注)各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、卒業に必要な単位に算入されるのは28単位までです。履修する場合には文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 フランス文学科履修について (2011年度以降入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部フランス文学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士(文学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
学科科目	フランス語科目	必修	16
	専門科目	必修	24
		選択必修	40
自由選択科目		選択	24
総計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2012年度入学者はP.13、2011年度入学者はP.23)を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。また、各年次においては、必ず1科目以上の履修をしなくてはなりません。

※(カッコ)内は2011年度入学者のみ適用

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	52 (48)	46 (48)	42 (44)	184

注) 中学校、高等学校の教育職員免許状の取得を希望する場合は、教職課程科目(P.215、216)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する場合は教育原理A、教育原理Bを上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

- (1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。
- (2) 2年次終了時にフランス語科目(16単位)を含む50単位以上を修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない場合は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう、特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学、転学部・転学科者について

編入学、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

(例)2012年度2年次転学部・転学科者の場合——2011年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

2012年度3年次編入学者の場合——2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

注) 編入学、転学部・転学科者は編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。

青山スタンダード/技能コア/言葉の技能〔領域F〕/外国語科目(日本語)の履修方法は次のとおりです。

外国語科目の必要単位(4単位)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 I (A)	2	1	
日 本 語 I (B)	2	1	
日 本 語 II	2	2	
日 本 語 III	2	3	

注1) 必修4単位を超えて修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 日本語以外の外国語科目(母国語以外)のI、II、III、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、2004年度以降入学者については、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が取得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

(配置表は2012年度入学者はP.15・19、2011年度入学者はP.25・29参照)

注4) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をIの修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 フランス文学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目の履修方法

(1) フランス語科目の必要単位

必修 (16単位)

フランス語文法〔4〕 フランス語文法演習〔4〕 フランス語講読〔4〕
フランス語会話〔4〕

(2) 専門科目の必要単位

必修 (24単位)

フランスの文化と社会〔4〕 フランス語精読〔4〕 フランス語速読〔4〕
エクスペリション・エクリット I〔4〕 エクスペリション・オラル〔4〕
フランス文学史概説〔4〕

選択必修 (40単位)

下記(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)によって40単位を修得してください。

(イ) 下記科目の中から3年次に1科目4単位を選択必修とします。

フランス文学研究〔4〕 フランス語学研究〔4〕 フランス文化研究〔4〕

(ロ) 下記科目の中から1科目4単位を選択必修とします。

講読演習(1)～(6)〔各4〕

(ハ) 下記科目の中から2科目8単位を選択必修とします。

エクスペリカシオン(A)〔4〕 エクスペリカシオン(B)〔4〕

コミュニケーション I〔4〕 コミュニケーション II〔4〕

エクスペリション・エクリット II〔4〕 エクスペリション・エクリット III〔4〕

(ニ) 下記科目の中から2科目8単位を選択必修とします。

フランス文学特講(1)～(8)〔各4〕 フランス語学特講(1)～(3)〔各4〕

フランス文化特講(1)・(2)〔各4〕

注) ただし、2年次において4単位を超えて修得した単位は自由選択科目に加算されません。

(ホ) 下記の演習 I、演習 II の中から合計2科目8単位を選択必修とします。

演習 I : フランス文学演習 I (1)～(7)〔各4〕

フランス語学演習 I (1)・(2)〔各4〕 フランス文化演習 I (1)・(2)〔4〕

演習 II : フランス文学演習 II (1)～(10)〔各4〕

フランス語学演習 II (1)～(3)〔各4〕

フランス文化演習 II (1)・(2)〔各4〕

注1) 選択必修(ホ)を充足するための科目の組み合わせは以下の2通りです。

a) 「演習 I」「演習 II」より各1科目ずつの修得。

b) 「演習 II」より2科目の修得。

注2) 演習 I は、4単位を超えて修得した単位は自由選択科目に加算されます。

(ヘ) 4年次において、「特別演習(卒業論文)」〔8〕を原則として履修し単位を修得するものとします。ただし、4年次に選択必修(ロ)～(ホ)までの諸科目の中から2科目8単位の修得(※)をもってこれに代えることができます。

(※) 選択必修(ロ)～(ホ)を充足するために修得した科目を除きます。

注1) 選択必修(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)(ヘ)の各最低必要単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目の単位に算入されます。

注2) フランス文学演習、フランス語学演習、フランス文化演習は、年度初頭に在籍キャンパスのフランス文学科研究室で予備登録をしなければなりません。

(3) 特別演習(卒業論文)について

(イ) 特別演習は年度初頭において、履修登録科目を含めその年度に卒業の見込のある者

でなければ履修できません。また、フランス文学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

(ハ) 卒業論文「提出方法」について

題目提出期限……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出先……フランス文学科研究室 (15号館11階)

題目届を期限までに提出しない場合は卒業論文を提出することができません。

論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出場所……学務部教務課

提出部数……2部提出してください (1部はコピーでよい)。

提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受け付けません。

口述試験……卒業論文提出者はフランス文学科研究室から通知した日時に口述試験を受けなければなりません。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、フランス文学科科目のフランス文学研究、フランス語学研究、講読演習、フランス文学特講、フランス語学特講、フランス文化特講、フランス文学演習(I・II)、フランス語学演習(I・II)、フランス文化演習(I・II)に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。

(5) 履修順序について

各授業科目間の履修順序はつけません。

(6) 履修取消制度対象外の科目について

フランス文学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
フランス語文法	4	フランス語精読	4
フランス語文法演習	4	フランス語速読	4
フランス語講読	4	エクスペリオン・エクリット I	4
フランス語会話	4	エクスペリオン・オラル	4
フランスの文化と社会	4	フランス文学史概説	4

(7) 他学部他学科学生の本学科科目の履修について

フランス文学科科目のうち、下記授業科目は他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
フランス語文法	4	フランス語速読	4
フランス語文法演習	4	エクスペリオン・エクリット I	4
フランス語講読	4	エクスペリオン・オラル	4
フランス語会話 (※)	4	フランス文学史概説	4
フランスの文化と社会	4	フランス語中級文法	4
フランス語精読	4	特別演習 (卒業論文)	8

(※) 「フランス語会話」のうち、既修得者用クラスのみ履修可。

2. フランス文学科科目
配置表

(1) フランス語科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	フ ラ ン ス 語 文 法	4	1	
	フ ラ ン ス 語 文 法 演 習	4	1	
	フ ラ ン ス 語 講 読	4	1	
	フ ラ ン ス 語 会 話	4	1	

(2) 専門科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	フ ラ ン ス の 文 化 と 社 会	4	1	
	フ ラ ン ス 語 精 読	4	2	
	フ ラ ン ス 語 速 読	4	2	
	エクスプレシオン・エクリットⅠ	4	2	
	エクスプレシオン・オラル	4	2	
	フ ラ ン ス 文 学 史 概 説	4	2	
選 必 (イ)	フ ラ ン ス 文 学 研 究	4	3	
	フ ラ ン ス 語 学 研 究	4	3	
	フ ラ ン ス 文 化 研 究	4	3	
選 必 (ロ)	講 読 演 習 (1)	4	3・4	
	(2)	4	3・4	
	(3)	4	3・4	
	(4)	4	3・4	
	(5)	4	3・4	
	(6)	4	3・4	
選 必 (ハ)	エクスプリカシオン (A)	4	3・4	
	エクスプリカシオン (B)	4	3・4	
	コ ミ ュ ニ カ シ オ ン Ⅰ	4	3・4	
	コ ミ ュ ニ カ シ オ ン Ⅱ	4	3・4	
	エクスプレシオン・エクリットⅡ	4	3・4	
	エクスプレシオン・エクリットⅢ	4	3・4	
選 必 (ニ)	フ ラ ン ス 文 学 特 講 (1)	4	2・3・4	
	(2)	4	2・3・4	
	(3)	4	2・3・4	
	(4)	4	2・3・4	
	(5)	4	2・3・4	
	(6)	4	2・3・4	
	(7)	4	2・3・4	
	(8)	4	2・3・4	
	フ ラ ン ス 語 学 特 講 (1)	4	2・3・4	
	(2)	4	2・3・4	
	(3)	4	2・3・4	

文学部フランス文学科 (2011年度以降入学者)

	フランス文化特講 (1)	4	2・3・4
	(2)	4	2・3・4
	フランス文学演習I (1)	4	2・3
	(2)	4	2・3
	(3)	4	2・3
	(4)	4	2・3
	(5)	4	2・3
	(6)	4	2・3
	(7)	4	2・3
	フランス語学演習I (1)	4	2・3
	(2)	4	2・3
	フランス文化演習I (1)	4	2・3
	(2)	4	2・3
選 必 (ホ)	フランス文学演習II (1)	4	3・4
	(2)	4	3・4
	(3)	4	3・4
	(4)	4	3・4
	(5)	4	3・4
	(6)	4	3・4
	(7)	4	3・4
	(8)	4	3・4
	(9)	4	3・4
	(10)	4	3・4
	フランス語学演習II (1)	4	3・4
	(2)	4	3・4
	(3)	4	3・4
	フランス文化演習II (1)	4	3・4
	(2)	4	3・4
選 必 (ハ)	特別演習 (卒業論文)	8	4のみ
自由 選択	フランス語中級文法	4	2・3・4
	フランス語作文	4	2・3・4
	フランス語学概論	4	2・3・4
	フランス語教授法I	4	3・4
	フランス語教授法II	4	3・4
	実務フランス語	4	3・4

} 隔年開講

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位 (24単位)

- (イ) フランス文学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
- (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)
- (ハ) 文学部共通科目
- (ニ) 文学部他学科・他学部開講の科目 (注1・注2)
 - 注1) 英語科教育職員免許状取得予定者のみオーラル・イングリッシュ I、II および英作文 I を履修することができ、単位を修得した場合は自由選択科目24単位のうちに算入されます。
 - 注2) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは24単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 フランス文学科履修について (2006～2010年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部フランス文学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士(文学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
学科科目	フランス語科目	必修	20
	専門科目	必修	28
		選択必修	32
自由選択科目		選択	24
総計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2006年度～2010年度入学者)(P.33)を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。また、各年次においては、必ず1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
46	46	48	44	184

注) 中学校、高等学校の教育職員免許状の取得を希望する場合は、教職課程科目(P.216～218)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する場合は教育原理(2009年度以降入学者は、教育原理A、教育原理B)を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない場合は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう、特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画を立て、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学、転学部・転学科者について

編入学、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

(例)2011年度2年次転学部・転学科者の場合——2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

2011年度3年次編入学者の場合——2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用

します。

注) 編入学、転学部・転学科者は編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

青山スタンダード/技能コア/言葉の技能〔領域F〕/外国語科目(日本語)の履修方法は次のとおりです。

外国語科目の必要単位(4単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 I (A)	2	1	
日 本 語 I (B)	2	1	
日 本 語 II	2	2	
日 本 語 III	2	3	

注1) 必修4単位を超えて修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 日本語以外の外国語科目(母国語以外)のI、II、III、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、2004年度以降入学者については、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が取得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

(配置表はP.35・40参照)

注4) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をIの修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 フランス文学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目の履修方法

(1) フランス語科目の必要単位

必修 (20単位)

フランス語文法〔4〕 フランス語文法演習〔4〕 エグゼルシスⅠ〔4〕
フランス語講読Ⅰ〔4〕 フランス語会話Ⅰ〔4〕

(2) 専門科目の必要単位

必修 (28単位)

フランスの文化と社会〔4〕 フランス語精読〔4〕 フランス語速読〔4〕
エグゼルシスⅡ〔4〕 フランス語作文Ⅰ〔4〕 エクスプレシオン・オラル〔4〕
フランス文学史概説Ⅰ〔4〕

選択必修 (32単位)

下記(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)によって32単位を修得してください。

(イ) 下記科目の中から3年次に1科目4単位を選択必修とします。

フランス文学史概説Ⅱ〔4〕 フランス語学概論〔4〕 フランス語史〔4〕

(ロ) 下記科目の中から1科目4単位を選択必修とします。

講読演習(1)～(6)〔各4〕

(ハ) 下記科目の中から2科目8単位を選択必修とします。

エクスプリカシオン(A)〔4〕 エクスプリカシオン(B)〔4〕

コミュニケーションⅠ・Ⅱ〔8〕 コミュニケーションⅢ〔4〕 フランス語作文Ⅱ〔4〕

フランス語作文Ⅲ〔4〕 時事フランス語〔4〕 実務フランス語〔4〕

注) コミュニケーションⅠ・Ⅱは2科目とみなします。

(ニ) 下記科目の中から2科目8単位を選択必修とします。

フランス文学特講(1)～(8)〔各4〕 フランス語学特講(1)～(3)〔各4〕

フランス文化特講(1)・(2)〔各4〕

(ホ) 下記科目の中から、3年次に1科目4単位、4年次に1科目4単位、合計2科目8単位を選択必修とします。

フランス文学演習(1)～(12)〔各4〕 フランス語学演習(1)～(4)〔各4〕

フランス文化演習(1)・(2)〔各4〕

注1) 選択必修(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)の各最低必要単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目の単位に算入されます。

注2) フランス文学演習、フランス語学演習、フランス文化演習は、年度初頭に在籍キャンパスのフランス文学科研究室で予備登録をしなければなりません。詳細については、年度初頭のガイダンス等で指示します。

(3) 特別演習 (卒業論文) について

(イ) 特別演習は年度初頭において、履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のある者でなければ履修できません。また、フランス文学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

(ハ) 卒業論文の「提出方法」について

題目提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示。

提出先……フランス文学科研究室 (15号館11階)

題目届を期限までに提出しない場合は卒業論文を提出することができません。

論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示。

提出場所……学務部教務課

提出部数……2部提出してください(1部はコピーでもよい)。

提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。

口述試験……卒業論文提出者はフランス文学科研究室から通知した日時に口述試験を受けなければなりません。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、フランス文学科科目のフランス文学史概説Ⅱ、講読演習、フランス文学特講、フランス語学特講、フランス文化特講、フランス文学演習、フランス語学演習、フランス文化演習に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。

(5) 履修順序について

各授業科目間の履修順序はつけません。

(6) 履修取消制度対象外の科目について

フランス文学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
フランス語文法	4	フランス語精読	4
フランス語文法演習	4	フランス語速読	4
エグゼルシスⅠ	4	エグゼルシスⅡ	4
フランス語講読Ⅰ	4	フランス語作文Ⅰ	4
フランス語会話Ⅰ	4	エクスペリション・オラル	4
フランスの文化と社会	4	フランス文学史概説Ⅰ	4

(7) 他学部他学科学生の本学科科目の履修について

フランス文学科科目のうち、下記授業科目は他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
フランス語文法	4	エグゼルシスⅡ	4
フランス語文法演習	4	フランス語作文Ⅰ	4
エグゼルシスⅠ	4	エクスペリション・オラル	4
フランス語講読Ⅰ	4	フランス文学史概説Ⅰ	4
フランス語会話Ⅰ	4	フランス語中級文法	4
フランスの文化と社会	4	フランス語会話Ⅱ	4
フランス語精読	4	特別演習(卒業論文)	8
フランス語速読	4		

文学部フランス文学科 (2006～2010年度入学者)

2. 学科科目配置表
(2006～2010年度
入学者)

(1) フランス語科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	フ ラ ン ス 語 文 法	4	1	
	フ ラ ン ス 語 文 法 演 習	4	1	
	エ グ ゼ ル シ ス I	4	1	
	フ ラ ン ス 語 講 読 I	4	1	
	フ ラ ン ス 語 会 話 I	4	1	

(2) 専門科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	フ ラ ン ス の 文 化 と 社 会	4	1	
	フ ラ ン ス 語 精 読	4	2	
	フ ラ ン ス 語 速 読	4	2	
	エ グ ゼ ル シ ス II	4	2	
	フ ラ ン ス 語 作 文 I	4	2	
	エクスプレシオン・オラル	4	2	
	フ ラ ン ス 文 学 史 概 説 I	4	2	
選 必 (イ)	フ ラ ン ス 文 学 史 概 説 II	4	3	
	フ ラ ン ス 語 学 概 論	4	3	
	フ ラ ン ス 語 史	4	3	
選 必 (ロ)	講 読 演 習 (1)	4	3・4	
	(2)	4	3・4	
	(3)	4	3・4	
	(4)	4	3・4	
	(5)	4	3・4	
	(6)	4	3・4	
選 必 (ハ)	エクスプリカシオン (A)	4	3・4	
	エクスプリカシオン (B)	4	3・4	
	コミュニケーション I・II	8	3・4	
	コミュニケーション III	4	3・4	
	フ ラ ン ス 語 作 文 II	4	3・4	
	フ ラ ン ス 語 作 文 III	4	4	
	時 事 フ ラ ン ス 語	4	3・4	
	実 務 フ ラ ン ス 語	4	3・4	
選 必 (ニ)	フ ラ ン ス 文 学 特 講 (1)	4	3・4	
	(2)	4	3・4	
	(3)	4	3・4	
	(4)	4	3・4	
	(5)	4	3・4	
	(6)	4	3・4	
	(7)	4	3・4	

選 必 (二)	(8)	4	3・4		
	フランス語学特講(1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	(3)	4	3・4		
	フランス文化特講(1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
選 必 (ホ)	フランス文学演習(1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	(3)	4	3・4		
	(4)	4	3・4		
	(5)	4	3・4		
	(6)	4	3・4		
	(7)	4	3・4		
	(8)	4	3・4		
	(9)	4	3・4		
	(10)	4	3・4		
	(11)	4	3・4		
	(12)	4	3・4		
	フランス語学演習(1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	(3)	4	3・4		
	(4)	4	3・4		
	フランス文化演習(1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	自 由 選 択	基礎演習 A (1)～(5)	4	1	1年生のみ 2010年度まで開講
		基礎演習 B (1)～(5)	4	2	2年生のみ 2011年度まで開講
フランス語中級文法		4	2	※フランス語会話Ⅱを修得した場合は履修できません。 2008年度以前入学者 2009年度以降入学者(隔年開講)	
フランス語会話Ⅱ		4	2		
※フランス語会話Ⅲ		4	3・4		
フランス語教授法		4	3・4		
フランス語教授法Ⅰ		4	3・4		
フランス語教授法Ⅱ		4	3・4		
特別演習(卒業論文)	8	4			

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位 (24単位)

- (イ) フランス文学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
- (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)
- (ハ) 文学部共通科目
- (ニ) 文学部他学科・他学部開講の科目 (注1・注2)
 - 注1) 英語科教育職員免許状取得予定者のみオーラル・イングリッシュ I、II および英作文 I を履修することができ、単位を修得した場合は自由選択科目24単位のうちに算入されます。
 - 注2) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位の算入されるのは24単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 日本文学科履修について (2006年度以降入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部日本文学科に4年以上(ただし8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士(文学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	文学・語学コース	日本語教育コース
			必要単位	
青山スタンダード科目			24	24
外国語科目	外国語 I	必修	8	8
学 科 科 目		必修	20	38
		選択必修	44	32
自由選択科目		選択	30	24
総 計			126	126

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2012年度入学者)(P.13)、(2011年度入学者)(P.23)、(2006年度～2010年度入学者)(P.33)を参照してください。

各コースの詳細については、P.90以降の【5】日本文学科学科科目履修方法および配置表を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次の通りです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
48	44	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目(P.215～218)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理(2009年度以降入学者は、教育原理A、教育原理B)を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう十分に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学者、転学部・
転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
(例)2012年度2年次転学部・転学科者の場合—2011年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

2012年度3年次編入学者の場合—2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注) 編入学者、転学部・転学科者は、編入した年度に限り最高履修制限単位を4単位を超えて履修することができます。

7. 外国人留学生の外国
語科目の履修について

外国語科目（外国語Ⅰ・外国語Ⅱ）は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語Ⅰの必要単位（8単位）

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

注1) 必修8単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 原則として外国語Ⅰは日本語ですが、特に英語を外国語Ⅰとして履修するよう指定を受けた者は一般学生と同じ科目を8単位修得してください。

(2) 言葉の技能（外国語Ⅱ）の必要単位（4単位）

母国語以外の下記科目中より修得してください。(配置表は2012年度入学者はP.15・19、2011年度入学者はP.25・29、2006年度～2010年度入学者はP.35・40参照)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続き時に申請した科目のⅡ、Ⅲ、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとすることができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

注4) 入学手続き時に申請した科目以外の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語 I の必要単位 (8単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II	2	2	週 2 回履修し、合計 4 単位修得してください。
	英 作 文	2	1	
選 択	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	

注1) 他学科の外国語 I は原則として履修できません（指定されたクラスで受講してください）。

注2) オーラル・イングリッシュ I・II を履修し単位を修得した場合には自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

(2) 履修順序

1	2
	1 を合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 日本文学科学科科目履修方法および配置表

1. コースについて

(1) コース内容

文学・語学コース

「日本文学」「漢文学」「日本語学」の3つの分野があります。

日本語教育コース

外国人に対する日本語教育について、理論と実践的な指導方法の習得を目指します。

卒業時に主専攻として日本語教育課程修了証書を取得することができます。

(2) コース登録

3年次より各コースに分かれるため、2年次の後期にコース登録のための申請（アンケート）を行います。日本語教育コースを希望しない学生は、文学・語学コースとなります。

2. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必修

文学・語学コース（20単位）

文学研究法〔4〕 日本文学史Ⅰ〔2〕 日本文学史Ⅱ〔2〕 日本文学史Ⅲ〔2〕

日本文学史Ⅳ〔2〕 特別演習（卒業論文）〔8〕

日本語教育コース（38単位）

文学研究法〔4〕 日本文学史Ⅰ〔2〕 日本文学史Ⅱ〔2〕 日本文学史Ⅲ〔2〕

日本文学史Ⅳ〔2〕 *特別演習（卒業論文）〔8〕 日本語学概論〔4〕

日本語教育演習A〔4〕 日本語教育概論〔4〕 日本語教授法〔4〕 日本語教育実習〔2〕

*特別演習は、日本語教育に関するものとします。ただし、他の分野で卒業論文を書くこともできます。その場合、文学・語学コースで卒業可能な要件単位を満たすことが条件となります。

選択必修

文学・語学コース（44単位）

(イ) 古典文学概論〔4〕 近代文学概論〔4〕 漢文学概論〔4〕 日本語日本文学情報処理法〔4〕 日本語学概論〔4〕 日本語史〔4〕の中から2科目8単位を選択必修とします。

注) 8単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

(ロ) 日本文学演習〔1〕～〔23〕〔各4〕 漢文学演習〔1〕～〔5〕〔各4〕 日本語学演習〔1〕～〔5〕〔各4〕 日本語教育演習B〔4〕の中から3科目12単位を選択必修とします。

ただし、2年次に1科目4単位、3年次に2科目8単位以上を履修してください。

注1) 1年次生は、下記の条件で履修年次(1)の演習科目を履修することができます。

年度初頭に実施される履修登録抽選終了後、なお定員に満たない演習については、担当教員の了承を得たうえで履修登録することができます。ただし、修得した単位は自由選択科目に算入されます。

注2) 2年次に4単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

注3) 2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修(P.92参照)の条件で履修年次(2)の演習科目を履修することができます。

注4) 日本語教育演習B〔4〕の履修については(ニ)を参照してください。

- (ハ) 日本文学講読〔1〕～〔4〕〔各4〕 漢文学講読〔4〕 日本語学講読〔4〕 日本文学特講〔1〕～〔12〕〔各4〕 日本文学特講A・B〔各2〕 漢文学特講〔1〕～〔2〕〔各4〕 日本語学特講〔1〕～〔3〕〔各4〕 表象文化論〔1〕～〔3〕〔各4〕の中から6科目以上24単位を選択必修とします。

ただし、1～4年次にわたって履修してください。日本文学講読、漢文学講読、日本語学講読については、2年次までに2科目8単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

- (ニ) 副専攻で「日本語教育課程修了証書」の取得を希望する者は、上記の必修科目・選択必修科目以外に、「日本語教育課程修了証書の取得」(P.97・98)の要領で必要科目を履修してください。なお、次の科目は必ず履修しなければなりません。

1年次 日本語教育概論〔4〕

2年次 日本語教授法〔4〕

1～2年次 日本語学概論〔4〕

3年次 日本語教育演習B〔4〕

4年次 日本語教育実習〔2〕

ただし、日本語学概論〔4〕および日本語教育演習B〔4〕については、上記の選択必修の履修要件(イ)(ロ)に含めることができます。

日本語教育コース (32単位)

- (イ) 古典文学概論〔4〕 近代文学概論〔4〕 漢文学概論〔4〕 日本語日本文学情報処理法〔4〕 日本語史〔4〕の中から2科目8単位を選択必修とします。

注) 8単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

- (ロ) 日本文学演習〔1〕～〔23〕〔各4〕 漢文学演習〔1〕～〔5〕〔各4〕 日本語学演習〔1〕～〔5〕〔各4〕の中から2科目8単位を選択必修とします。

ただし、2年次に1科目4単位、3年次に1科目4単位以上を履修してください。なお、この2科目8単位の中に、日本語学演習を1科目4単位以上含めなければなりません。

注1) 1年次生は、下記の条件で履修年次(1)の演習科目を履修することができます。

年度初頭に実施される履修登録抽選終了後、なお定員に満たない演習については、担当教員の上承を得たうえで履修登録することができます。ただし、修得した単位は自由選択科目に算入されます。

注2) 2年次に4単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

注3) 2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修(P.92参照)の条件で履修年次(2)の演習科目を履修することができます。

- (ハ) 日本文学講読〔1〕～〔4〕〔各4〕 漢文学講読〔4〕 日本語学講読〔4〕 日本文学特講〔1〕～〔12〕〔各4〕 日本文学特講A・B〔各2〕 漢文学特講〔1〕～〔2〕〔各4〕 日本語学特講〔1〕～〔3〕〔各4〕 表象文化論〔1〕～〔3〕〔各4〕の中から2科目以上8単位を選択必修とします。

ただし、この8単位の中に日本語学特講を4単位以上含まなければなりません。

注) 日本文学講読、漢文学講読、日本語学講読については、2年次までに1科目4単位を超えて修得した単位は、自由選択科目に算入されます。

- (ニ) 文学部共通科目の言語学概論〔4〕 比較言語学〔4〕 記号論〔4〕の中から2科目8単位を選択必修とします。

(2) 特別演習 (卒業論文) について

(イ) 特別演習 (卒業論文) は年度初頭において、履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のある者でなければ履修できません。また、日本文学科以外の教員を指導教員とすることはできません。なお、履修希望者は履修登録前に必ず指導教員の了承を得てください。

(ロ) 題目届を期限までに提出しない場合は、卒業論文を提出することができません。

(ハ) 卒業論文「提出方法」について

題目提出日時……年度初頭に学生ポータルで発表

提出先……日本文学科研究室

論文提出日時……年度初頭に学生ポータルで発表

提出先……学務部教務課

提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。

注) 卒業論文には口述試問 (後期) を課します。口述試問日時は別に指示します。

(ニ) 第3年次において、協定校または認定校へ交換留学生として留学する学生で、4年次に「特別演習 (卒業論文)」の履修を希望する場合は、出発前に指導教員の許可がある場合に限り、帰国後の履修が認められます。希望する場合は、事前に教務課に申し出てください。

(3) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、日本文学科の学科科目の演習、講読、特講、表象文化論に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。

(4) 履修順序について

※2012年度より書道Ⅰ・書道Ⅱの履修順序はなくなります。

1	2	3	4
	1に合格、または1と同時履修の場合のみ履修できます	1・2に合格した場合のみ履修できます	3に合格した場合のみ履修できます
日本語教育概論	日本語教授法	日本語教育演習A 日本語教育演習B	日本語教育実習

(5) 異キャンパス履修について (2012年度2年次生のみ)

1. 青山キャンパス開講の学科科目のうち、履修年次が(2)・3・4となっている科目については、2年生も履修することができます。ただし、演習科目については、青山キャンパスで年度初頭に実施されるWeb抽選(3年次生対象)終了後、なお定員に満たない科目について担当教員の承諾を得た上で履修することができます。詳しくは、年度初頭時の相模原キャンパス学務グループ配付資料を参照してください。

2. 2年次生が青山キャンパス開講の学科科目を履修する場合の注意。

ア) 履修登録できるのは8単位以内とします。

※2011年度入学の2年生のみ2012年度に限り16単位まで履修可能とします。

イ) その科目は年間履修制限単位数に含むものとします。

ウ) 演習科目を履修した場合、修得した単位は自由選択科目に算入されます。

エ) 相模原～青山キャンパス間の移動時間(90分)を十分考慮の上、定期試験等に支障のないよう履修計画を立ててください。

3. 他学部他学科生は、対象としません。

(6) 日本語教育コースの学生のほか、文学・語学コースの学生も副専攻として「日本語教育課程修了証書の取得」(P.97・98)の要領で「日本語教育課程修了証書」を得ることができます。

(7) 他学部他学科学生の本学科学科科目の履修について

日本文学科学科科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
文 学 研 究 法	4	日 本 語 学 演 習	4
日本語日本文学情報処理法	4	日 本 語 教 育 演 習 A	4
日 本 語 教 育 概 論	4	日 本 語 教 育 演 習 B	4
日 本 語 教 授 法	4	日 本 語 教 育 実 習	2
特別演習（卒業論文）	8	書 道 I	4
日 本 文 学 演 習	4	書 道 II	4
漢 文 学 演 習	4		

なお、履修可能な日本文学科学科科目のうち、表象文化論および特講の科目については、履修希望者が多い場合、教室の定員数を考慮し、他学部他学科学生の履修を制限することがあります。

詳細については、年度初頭行事日程、【2】履修科目の文学部日本文学科のページを参照してください。

3. 日本文学科学科科目
配置表

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
文 学 研 究 法	4	1	
日 本 文 学 史 I	2	1	半期
日 本 文 学 史 II	2	1	半期
日 本 文 学 史 III	2	2	半期
日 本 文 学 史 IV	2	2	半期
特 別 演 習 (卒 業 論 文)	8	4	
古 典 文 学 概 論	4	1・2	
近 代 文 学 概 論	4	1・2	
漢 文 学 概 論	4	1・2	
日本語日本文学情報処理法	4	1・2	
日 本 語 学 概 論	4	1・2	日本語教育コース必修
日 本 語 史	4	1・2	
日 本 文 学 演 習 [1]	4	(1)・2	人数制限30名まで (2012年度のみ相模原キャンパス開講) ※1年次生は、選択必修(ロ)注1)の条件で履修することができます。
[2]	4	(1)・2	
[3]	4	(1)・2	
[4]	4	(1)・2	
[5]	4	(1)・2	
[6]	4	(1)・2	
[7]	4	(2)・3・4	人数制限20名まで ※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[8]	4	(2)・3・4	
[9]	4	(2)・3・4	
[10]	4	(2)・3・4	
[11]	4	(2)・3・4	
[12]	4	(2)・3・4	
[13]	4	(2)・3・4	
[14]	4	(2)・3・4	
[15]	4	(2)・3・4	
[16]	4	(2)・3・4	
[17]	4	(2)・3・4	
[18]	4	(2)・3・4	
[19]	4	(2)・3・4	
[20]	4	(2)・3・4	
[21]	4	(2)・3・4	
[22]	4	(2)・3・4	
[23]	4	(2)・3・4	
漢 文 学 演 習 [1]	4	(1)・2	人数制限30名まで (2012年度のみ相模原キャンパス開講) ※1年次生は、選択必修(ロ)注1)の条件で履修することができます。
[2]	4	(1)・2	

漢文学演習 [3]	4	(2)・3・4	人数制限20名まで ※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[4]	4	(2)・3・4	
[5]	4	(2)・3・4	
日本語学演習 [1]	4	(1)・2	人数制限30名まで (2012年度のみ相模原キャンパス開講) ※1年次生は、選択必修(口)注1)の条件で履修することができます。
[2]	4	(1)・2	
[3]	4	(2)・3・4	人数制限20名まで ※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[4]	4	(2)・3・4	
[5]	4	(2)・3・4	
日本語教育演習 A	4	3	日本文学科日本語教育コース在籍者のみ履修可 日本語教育コース必修
日本文学講読 [1]	4	1・2	(2012年度のみ相模原キャンパス開講)
[2]	4	1・2	
[3]	4	1・2	
[4]	4	1・2	
漢文学講読	4	1・2	
日本語学講読	4	1・2	
表象文化論 [1]	4	(2)・3・4	※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[2]	4	(2)・3・4	
[3]	4	(2)・3・4	
日本文学特講 [1]	4	(2)・3・4	※[1][4][6][9]は2012年度のみ青山・相模原両キャンパス開講。 ※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[2]	4	(2)・3・4	
[3]	4	(2)・3・4	
[4]	4	(2)・3・4	
[5]	4	(2)・3・4	
[6]	4	(2)・3・4	
[7]	4	(2)・3・4	
[8]	4	(2)・3・4	
[9]	4	(2)・3・4	
[10]	4	(2)・3・4	
[11]	4	(2)・3・4	
[12]	4	(2)・3・4	
日本文学特講 A	2	(2)・3・4	※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。 (夏期集中講義)
B	2	(2)・3・4	
漢文学特講 [1]	4	(2)・3・4	※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[2]	4	(2)・3・4	
日本語学特講 [1]	4	(2)・3・4	※2012年度2年次生は、(5)異キャンパス履修についてを参照してください。
[2]	4	(2)・3・4	
[3]	4	(2)・3・4	
書道 I	4	1	

文学部日本文学科（2006年度以降入学者）

書 道 II	4	3	
書 理 論	4	3・4	隔年開講
日 本 語 教 育 概 論	4	1	} 日本語教育コース必修
日 本 語 教 授 法	4	2	
日 本 語 教 育 演 習 B	4	3	日本文学科文学・語学コース在籍者のみ履修可
日 本 語 教 育 実 習	2	4のみ	日本語教育コース必修

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要単位

文学・語学コース (30単位)

日本語教育コース (24単位)

- (イ) 日本文学科の学科科目 (必修および選択必修として修得した科目は除きます)
 - (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した科目は除きます)
 - (ハ) 文学部共通科目 (日本語教育コースで選択必修として修得した科目は除きます)
 - (ニ) 外国語 I の選択科目 (オーラル・イングリッシュ I、II)
 - (ホ) 文学部他学科・他学部開講の科目
- 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは20単位までです。
- 履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

日本語教育課程修了証書の取得 (2006年度以降入学者)

1. 外国人に対して日本語を教授する日本語教師の資格については、現在、法に基づく免許制度は行われていません。
2. 本学を卒業し、次の必要科目の単位を修得した者には、本学より「日本語教育課程修了証書」を授与します。
3. 副専攻で「日本語教育課程修了証書」の取得を希望する者は、P.91(ニ)の科目を必ず履修しなければなりません。

領域	系列	科目名	単位数	最低修得単位数	備考
社会・文化・地域	日本事情	芸術文化論	4	20	文学部共通科目
		日本の思想	4		
		日本文化史	4		
		物語文学	4		
		表象文化論	4		
		日本文学史 I	2		日本文学科
		日本文学史 II	2		
		日本文学史 III	2		
		日本文学史 IV	2		
		古典文学概論	4		
		近代文学概論	4		
		日本文学講読	4		
		日本文学特講	4		
		日本文学演習	4		
		漢文学概論	4		
		漢文学講読	4		
		漢文学特講	4		
		漢文学演習	4		
		文学研究法	4		
		日本語日本文学情報処理法	4		

次ページに続く

文学部日本文学科（2006年度以降入学者）

言	日本語学	日本語学 A	2	8	}	青山スタンダード科目	
		日本語学 B	2				
		日本語学概論	4		}	日本文学科	
		日本語学講読	4				
		日本語学特講	4				
		日本語学演習	4				
日本語史	4						
語	言語学	言語学 A	2	8	}	青山スタンダード科目	
		言語学 B	2				
		言語学概論	4		}	文学部共通科目	
		言語比較	4				
		記号学	4				
教 育	日本語教育学	日本語教育概論	4	14	}	日本文学科	日本語教育演習Aは日本語教育 コース在籍者に限ります 日本語教育演習Bは文学・語学 コース在籍者に限ります
		日本語教授法	4				
		日本語教育演習A	4				
		日本語教育演習B	4				
		日本語教育実習	2				
		特別演習（卒業論文）	8	8	日本文学科		
				計58			

(備考) 既述の如く、法に基づく免許制度は行われていませんが、上記の科目履修を通じて、日本国際教育協会主催〈日本語教育能力検定試験〉に合格する程度の学力を身につけることを目指します。

【3】 史学科履修について (2012年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部史学科に4年以上(ただし8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記をあたえ、学士(歴史学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
外国語科目	外国語 I	必修	8
学科科目	日本史 コー ス	必修	30
	考古学 コー ス	選択必修	32
	東洋史 コー ス	必修	26
	西洋史 コー ス	選択必修	32
自由選択科目	日本史 コー ス	選 択	34
	考古学 コー ス		
	東洋史 コー ス		38
	西洋史 コー ス		
総 計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2012年度入学者)(P.13)を参照してください。

文学部史学科では2年次より4コース(日本史・東洋史・西洋史・考古学)に分かれます。1年次後期に必ず所定の手続きを取ってください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合 計
44	48	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目(P.215)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理A、教育原理Bを上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に履修してください。

6. 編入学者、転学部・転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例)2012年度2年次編入学者、転学部・転学科者の場合—2011年度入学の一般学生と同じ条件を適用します。
 2012年度3年次編入学者の場合—2010年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注1) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。

注2) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学年度、転学部・転学科年度に限り、編入学年次、転学部・転学科年次以前配置の履修順序のある学科科目を同年次に履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目(外国語Ⅰ・外国語Ⅱ)は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語Ⅰの必要単位(8単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

注1) 必修8単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 原則として外国語Ⅰは日本語ですが、特に英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は一般学生と同じ科目を8単位修得してください。

(2) 言葉の技能(外国語Ⅱ)の必要単位(4単位)

母国語以外の下記科目のうちから修得してください。(配置表はP.15・19参照)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続き時に申請した科目のⅡ、Ⅲ、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとするこ

とができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

- 注4) 入学手続き時に申請した科目以外の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつきません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
- 注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語 I の必要単位 (8 単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II (週 2 回履修し、合計 4 単位修得のこと。)	2	2	
	英 作 文	2	1	
選 択	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	

注1) 他学科の外国語 I は原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください)。

注2) オーラル・イングリッシュ I・II を履修し単位を修得した場合には、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

(2) 履修順序

1	2
	1 を合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 史学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必 修

日本史コース (30単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕 史学概論〔2〕
基礎演習〔4〕 特別演習 (卒業論文)〔8〕 日本史史料講読Ⅰ〔2〕
日本史史料講読Ⅱ〔2〕 古文書学〔4〕

東洋史コース (26単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕 史学概論〔2〕
基礎演習〔4〕 特別演習 (卒業論文)〔8〕 東洋史原典講読Ⅰ〔2〕
東洋史原典講読Ⅱ〔2〕

西洋史コース (26単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕 史学概論〔2〕
基礎演習〔4〕 特別演習 (卒業論文)〔8〕 西洋史原典講読Ⅰ〔2〕
西洋史原典講読Ⅱ〔2〕

考古学コース (30単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕 史学概論〔2〕
基礎演習〔4〕 特別演習 (卒業論文)〔8〕 考古学原典講読Ⅰ〔2〕
考古学原典講読Ⅱ〔2〕 考古学実習Ⅰ〔2〕 考古学実習Ⅱ〔2〕

選択必修 (32単位) 各コース共通

- (イ) 各自の専攻コースの特講のうちから3科目12単位を選択必修とします。
- (ロ) 他コースの特講または史学特講A、史学特講Bのうちから3科目12単位を選択必修とします。
- (ハ) 各自の専攻コースの演習のうちから2科目8単位を選択必修とします。これは3年次に1科目4単位、4年次に1科目4単位を履修することが望まれます。3年次に1科目4単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。
なお、調査研究旅行は3年次の演習に含まれ、必ず参加することを原則とします。

(2) 特別演習 (卒業論文) について

- (イ) 特別演習 (卒業論文) は、年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のあるものでなければ履修できません。また、史学科以外の教員を指導教員とすることはできません。
- (ロ) 題目届を期限までに提出しない場合は、卒業論文を提出することができません。
- (ハ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。
- (ニ) 提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。
- (ホ) 提出後の論文の訂正はできません。
- (ヘ) 卒業論文には口述試験を課します。日時は別に指示します。
- (ト) 卒業論文「提出方法」について
 題目提出期限……年度初頭に学生ポータル等で指示
 提出先……史学科研究室
 論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示
 提出先……学務部教務課

(3) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、史学科の各コースの特講、演習および史学特講A、史学特講Bに限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

(4) 履修順序について

1	2
	1を合格した場合のみ履修できます
博物館実習 I 博物館概論 博物館経営論 博物館資料論	博物館実習 II

(5) 履修取消制度対象外の科目について

史学科学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。

日本史・東洋史・西洋史・考古学の各概説、史学概論、基礎演習、特別演習（卒業論文）、史料講読Ⅰ・Ⅱ、各原典講読Ⅰ・Ⅱ、古文書学、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、各演習、博物館学芸員関係科目

(6) 他学部他学科学生の本学科専門教育科目の履修について

史学科専門教育科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日本史概説	2	東洋史原典講読Ⅰ	2	西洋史演習	4
東洋史概説	2	東洋史原典講読Ⅱ	2	考古学演習	4
西洋史概説	2	西洋史原典講読Ⅰ	2	※博物館概論	2
※考古学概説	2	西洋史原典講読Ⅱ	2	※博物館経営論	2
史学概論	2	考古学原典講読Ⅰ	2	※博物館資料論	2
基礎演習	4	考古学原典講読Ⅱ	2	※博物館資料保存論	2
特別演習（卒業論文）	8	考古学実習Ⅰ	2	※博物館展示論	2
日本史史料講読Ⅰ	2	考古学実習Ⅱ	2	※博物館情報・メディア論	2
日本史史料講読Ⅱ	2	日本史演習	4	※博物館教育論	2
古文書学	4	東洋史演習	4	※博物館実習Ⅰ	2
				※博物館実習Ⅱ	2

※の科目は、学芸員希望者は履修することができます。

(太字は必修科目)

(△印は隔年開講)

2. 史学科学科科目配置表

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考	
日 本 史 概 説	2	1		
東 洋 史 概 説	2	1		
西 洋 史 概 説	2	1		
考 古 学 概 説	2	1		
史 学 概 論	2	1		
基 礎 演 習	4	2	日本史コース 東洋史コース 西洋史コース 考古学コース ※専攻コースのものを履修すること	
特 別 演 習 (卒 業 論 文)	8	4		
日 本 史 コ ー ス	日本史史料講読Ⅰ	2		2
	日本史史料講読Ⅱ	2		3
	古 文 書 学	4		2
東 洋 史 コ ー ス	東洋史原典講読Ⅰ	2		2
	東洋史原典講読Ⅱ	2		3
西 洋 史 コ ー ス	西洋史原典講読Ⅰ	2		2
	西洋史原典講読Ⅱ	2		3
考 古 学 コ ー ス	考古学原典講読Ⅰ	2		2
	考古学原典講読Ⅱ	2		3
	考 古 学 実 習 Ⅰ	2		2
	考 古 学 実 習 Ⅱ	2		3
日 本 史 特 講 (1)	4	2・3・4		
(2)	4	2・3・4		
(3)	4	2・3・4		
(4)	4	2・3・4		
(5)	4	2・3・4		
(6)	4	2・3・4		
(7)	4	2・3・4		
東 洋 史 特 講 (1)	4	2・3・4		
(2)	4	2・3・4		
(3)	4	2・3・4		
(4)	4	2・3・4		
(5)	4	2・3・4		
西 洋 史 特 講 (1)	4	2・3・4		
(2)	4	2・3・4		
(3)	4	2・3・4		
(4)	4	2・3・4		
(5)	4	2・3・4		
(6)	4	2・3・4		

文学部史学科 (2012年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
考 古 学 特 講 (1)	4	2・3・4	
(2)	4	2・3・4	
(3)	4	2・3・4	
(4)	4	2・3・4	
日 本 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
東 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
西 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
考 古 学 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
史 学 特 講 A (1)	4	1～4	
A (2)	4	1～4	
A (3)	4	1～4	
A (4)	4	1～4	
A (5)	4	1～4	
史 学 特 講 B (1)	4	1～4	
B (2)	4	1～4	
B (3)	4	1～4	
B (4)	4	1～4	
B (5)	4	1～4	
B (6)	4	1～4	
B (7)	4	1～4	
B (8)	4	1～4	
人 文 地 理 学 概 論	4	3・4	
自 然 地 理 学 概 論	2	2・3・4	
地 誌 学	2	2・3・4	
法 律 学	2	2・3・4	
政 治 学	2	2・3・4	
博 物 館 概 論	2	2・3のみ	
博 物 館 経 営 論	2	2・3のみ	
博 物 館 資 料 論	2	2・3のみ	

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
博 物 館 資 料 保 存 論	2	2・3・4	※を履修する者は「学芸員の資格」 の項を参照すること。(P.223)
博 物 館 展 示 論	2	2・3・4	
博 物 館 情 報 ・ メ デ ィ ア 論	2	2・3・4	
博 物 館 教 育 論	2	2・3・4	
※ 博 物 館 実 習 I	2	3のみ	
※ 博 物 館 実 習 II	2	4	

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

日本史コース・考古学コース (34単位)

東洋史コース・西洋史コース (38単位)

- (イ) 史学科学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
- (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)
- (ハ) 文学部共通科目
- (ニ) 外国語 I 選択科目 (P.102参照)
- (ホ) 文学部他学科・他学部開講の科目 (注1)

(注1) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは12単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 史学科履修について (2011年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部史学科に4年以上(ただし8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記をあたえ、学士(歴史学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
外国語科目	外国語 I	必修	8
学科科目	日本史 コー ス	必修	32
	考古学 コー ス	選択必修	24
	東洋史 コー ス	必修	28
	西洋史 コー ス	必修	28
	芸術史 コー ス	選択必修	24
自由選択科目	日本史 コー ス	選 択	40
	考古学 コー ス		
	東洋史 コー ス		44
	西洋史 コー ス		
	芸術史 コー ス		
総 計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2011年度入学者)(P.23)を参照してください。

文学部史学科では2年次より5コース(日本史・東洋史・西洋史・考古学・芸術史)に分かれます。1年次後期に必ず所定の手続きを取ってください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合 計
44	48	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目(P.216)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理A、教育原理Bを上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に履修してください。

6. 編入学者、転学部・転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例)2011年度2年次編入学者、転学部・転学科者の場合—2010年度入学の一般学生と同じ条件を適用します。
 2011年度3年次編入学者の場合—2009年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注1) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。

注2) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学年度、転学部・転学科年度に限り、編入学年次、転学部・転学科年次以前配置の履修順序のある学科科目を同年次に履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目(外国語Ⅰ・外国語Ⅱ)は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語Ⅰの必要単位(8単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

注1) 必修8単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 原則として外国語Ⅰは日本語ですが、特に英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は一般学生と同じ科目を8単位修得してください。

(2) 言葉の技能(外国語Ⅱ)の必要単位(4単位)

母国語以外の下記科目のうちから修得してください。(配置表はP.25・29参照)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続き時に申請した科目のⅡ、Ⅲ、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとするこ

とができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

- 注4) 入学手続き時に申請した科目以外の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
- 注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語 I の必要単位 (8 単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II (週 2 回履修し、合計 4 単位修得のこと。)	2	2	
	英 作 文	2	1	
選 択	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	

注 1) 他学科の外国語 I は原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください)。

注 2) オーラル・イングリッシュ I・II を履修し単位を修得した場合には、自由選択科目として卒業に必要な単位の算入されます。

(2) 履修順序

1	2
	1 を合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 史学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必 修

日本史コース (32単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 日本史史料講読Ⅰ〔2〕 日本史史料講読Ⅱ〔2〕 古文書学〔4〕

東洋史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 東洋史原典講読Ⅰ〔2〕 東洋史原典講読Ⅱ〔2〕

西洋史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 西洋史原典講読Ⅰ〔2〕 西洋史原典講読Ⅱ〔2〕

考古学コース (32単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 考古学原典講読Ⅰ〔2〕 考古学原典講読Ⅱ〔2〕 考古学実習Ⅰ〔2〕 考古学実習Ⅱ〔2〕

芸術史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 芸術史原典講読Ⅰ〔2〕注1) 芸術史原典講読Ⅱ〔2〕注2)

注1) 芸術史原典講読Ⅰは、日本史史料講読Ⅰまたは東洋史、西洋史、考古学の各コースの原典講読Ⅰのうちから各自の希望分野に応じて1つを選択とします。

注2) 芸術史原典講読Ⅱは、芸術史原典講読Ⅰで履修した分野と同じ分野のものを履修することとします。

選択必修(24単位) 各コース共通

(イ) 各自の専攻コースの特講のうちから2科目8単位を選択必修とします。

(ロ) 他コースの特講または史学特講A、史学特講Bのうちから2科目8単位を選択必修とします。

注) 芸術史コース専攻者に限り、文学部共通科目(P.43・44参照)のうちから下記の科目を修得することで充足することもできます。

芸術文化論、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、日本文化史、東洋文化史、西洋文化史、東洋音楽史、西洋音楽史、古典ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ、ラテン語入門、ラテン語Ⅰ・Ⅱ

(ハ) 各自の専攻コースの演習のうちから2科目8単位を選択必修とします。これは3年次に1科目4単位、4年次に1科目4単位を履修することが望まれます。3年次に1科目4単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。

なお、調査研究旅行は3年次の演習に含まれ、必ず参加することを原則とします。

(2) 特別演習(卒業論文)について

(イ) 特別演習(卒業論文)は、年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のあるものでなければ履修できません。また、史学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 題目届を期限までに提出しない場合は、卒業論文を提出することができません。

(ハ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

- (二) 提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受け付けません。
- (ホ) 提出後の論文の訂正はできません。
- (ヘ) 卒業論文には口述試験を課します。日時は別に指示します。
- (ト) 卒業論文「提出方法」について
 題目提出期限……年度初頭に学生ポータル等で指示
 提出先……史学科研究室
 論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示
 提出先……学務部教務課

(3) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、史学科の各コースの特講、演習および史学特講A、史学特講Bに限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

(4) 履修順序について

1	2
	1を合格した場合のみ履修できます
博物館実習Ⅰ 博物館概論 博物館学各論	博物館実習Ⅱ

(5) 履修取消制度対象外の科目について

史学科学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。

日本史・東洋史・西洋史・考古学・芸術史の各概説、史学概論、基礎演習、特別演習(卒業論文)、史料講読Ⅰ・Ⅱ、各原典講読Ⅰ・Ⅱ、古文書学、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、各演習、博物館学芸員関係科目

(6) 他学部他学科学生の本学科専門教育科目の履修について

史学科専門教育科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日本史概説	2	東洋史原典講読Ⅰ	2	芸術史原典講読Ⅱ	2
東洋史概説	2	東洋史原典講読Ⅱ	2	※博物館実習Ⅰ	2
西洋史概説	2	西洋史原典講読Ⅰ	2	※博物館実習Ⅱ	2
※考古学概説	2	西洋史原典講読Ⅱ	2	日本史演習	4
芸術史概説	2	考古学原典講読Ⅰ	2	東洋史演習	4
基礎演習	4	考古学原典講読Ⅱ	2	西洋史演習	4
特別演習(卒業論文)	8	考古学実習Ⅰ	2	考古学演習	4
日本史史料講読Ⅰ	2	考古学実習Ⅱ	2	芸術史演習	4
日本史史料講読Ⅱ	2	芸術史原典講読Ⅰ	2	※博物館概論	2
				※博物館学各論	4

※の科目は、学芸員希望者は履修することができます。

2. 史学科学科科目配置表

(太字は必修科目)
(△印は隔年開講)

授 業 科 目		単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 史 概 説		2	1	
東 洋 史 概 説		2	1	
西 洋 史 概 説		2	1	
考 古 学 概 説		2	1	
芸 術 史 概 説		2	1	
史 学 概 論		2	1	
基 礎 演 習		4	2	日本史コース 東洋史コース 西洋史コース 考古学コース 芸術史コース ※専攻コースのものを履修すること
特別演習 (卒業論文)		8	4	
日本史コース	日本史史料講読Ⅰ	2	2	
	日本史史料講読Ⅱ	2	3	
	古文書学	4	2	
東洋史コース	東洋史原典講読Ⅰ	2	2	
	東洋史原典講読Ⅱ	2	3	
西洋史コース	西洋史原典講読Ⅰ	2	2	
	西洋史原典講読Ⅱ	2	3	
考古学コース	考古学原典講読Ⅰ	2	2	
	考古学原典講読Ⅱ	2	3	
	考古学実習Ⅰ	2	2	
	考古学実習Ⅱ	2	3	
芸術史コース	芸術史原典講読Ⅰ	2	2	
	芸術史原典講読Ⅱ	2	3	
日本史特講(1)		4	2・3・4	
(2)		4	2・3・4	
(3)		4	2・3・4	
(4)		4	2・3・4	
(5)		4	2・3・4	
(6)		4	2・3・4	
(7)		4	2・3・4	
東洋史特講(1)		4	2・3・4	
(2)		4	2・3・4	
(3)		4	2・3・4	
(4)		4	2・3・4	
(5)		4	2・3・4	
西洋史特講(1)		4	2・3・4	
(2)		4	2・3・4	

文学部史学科 (2011年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
(3)	4	2・3・4	
(4)	4	2・3・4	
(5)	4	2・3・4	
(6)	4	2・3・4	
考 古 学 特 講 (1)	4	2・3・4	
(2)	4	2・3・4	
(3)	4	2・3・4	
(4)	4	2・3・4	
芸 術 史 特 講 (1)	4	2・3・4	
(2)	4	2・3・4	
(3)	4	2・3・4	
(4)	4	2・3・4	
日 本 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
東 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
西 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
考 古 学 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
芸 術 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
史 学 特 講 A (1)	4	1～4	
A (2)	4	1～4	
A (3)	4	1～4	
A (4)	4	1～4	
A (5)	4	1～4	
史 学 特 講 B (1)	4	1～4	
B (2)	4	1～4	
B (3)	4	1～4	
B (4)	4	1～4	

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考			
B (5)	4	1～4				
B (6)	4	1～4				
B (7)	4	1～4				
B (8)	4	1～4				
人 文 地 理 学 概 論	4	3・4				
博 物 館 概 論	2	3のみ				
博 物 館 学 各 論	4	3・4			学芸員希望者は3年で履修すること。	
※ 博 物 館 実 習 I	2	3のみ				※を履修する者は「学芸員の資格」 の項を参照すること。(P.223)
※ 博 物 館 実 習 II	2	4	(隔週通年)			

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

日本史コース・考古学コース (40単位)

東洋史コース・西洋史コース・芸術史コース (44単位)

(イ) 史学科学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)

(ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)

(ハ) 文学部共通科目

(ニ) 外国語 I 選択科目 (P.112参照)

(ホ) 文学部他学科・他学部開講の科目 (注1)

(注1) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは12単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 史学科履修について (2006～2010年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部史学科に4年以上(ただし8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記をあたえ、学士(歴史学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
外国語科目	外国語 I	必修	8
学科科目	日本史 コー ス	必修	32
	考古学 コー ス	選択必修	24
	東洋史 コー ス	必修	28
	西洋史 コー ス	必修	24
自由選択科目	芸術史 コー ス	選択	40
	東洋史 コー ス	選択	44
	西洋史 コー ス		
総 計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2006年度～2010年度入学者)(P.33)を参照してください。

文学部史学科では2年次より5コース(日本史・東洋史・西洋史・考古学・芸術史)に分かれます。1年次後期に必ず所定の手続きを取ってください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目(P.216～218)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理(2009年度以降入学者は、教育原理A、教育原理B)を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に履修してください。

6. 編入学者、転学部・転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例)2010年度2年次編入学者、転学部・転学科者の場合—2009年度入学の一般学生と同じ条件を適用します。
 2010年度3年次編入学者の場合—2008年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。

注1) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。

注2) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学年度、転学部・転学科年度に限り、編入学年次、転学部・転学科年次以前配置の履修順序のある学科科目を同年次に履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

外国語科目(外国語Ⅰ・外国語Ⅱ)は、入学手続き時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 外国語Ⅰの必要単位(8単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

注1) 必修8単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 原則として外国語Ⅰは日本語ですが、特に英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は一般学生と同じ科目を8単位修得してください。

(2) 言葉の技能(外国語Ⅱ)の必要単位(4単位)

母国語以外の下記科目のうちから修得してください。(配置表はP.35・40参照)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続き時に申請した科目のⅡ、Ⅲ、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとするこ

とができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

- 注4) 入学手続き時に申請した科目以外の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつきません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
- 注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語 I の必要単位 (8 単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II (週 2 回履修し、合計 4 単位修得のこと。)	2	2	
	英 作 文	2	1	
選 択	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	

注 1) 他学科の外国語 I は原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください)。

注 2) オーラル・イングリッシュ I・II を履修し単位を修得した場合には、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

(2) 履修順序

1	2
	1 を合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 史学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必 修

日本史コース (32単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 日本史史料講読Ⅰ〔2〕 日本史史料講読Ⅱ〔2〕 古文書学〔4〕

東洋史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 東洋史原典講読Ⅰ〔2〕 東洋史原典講読Ⅱ〔2〕

西洋史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 西洋史原典講読Ⅰ〔2〕 西洋史原典講読Ⅱ〔2〕

考古学コース (32単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 考古学原典講読Ⅰ〔2〕 考古学原典講読Ⅱ〔2〕 考古学実習Ⅰ〔2〕 考古学実習Ⅱ〔2〕

芸術史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 芸術史原典講読Ⅰ〔2〕注1) 芸術史原典講読Ⅱ〔2〕注2)

注1) 芸術史原典講読Ⅰは、日本史史料講読Ⅰまたは東洋史、西洋史、考古学の各コースの原典講読Ⅰのうちから各自の希望分野に応じて1つを選択とします。

注2) 芸術史原典講読Ⅱは、芸術史原典講読Ⅰで履修した分野と同じ分野のものを履修することとします。

選択必修(24単位) 各コース共通

(イ) 各自の専攻コースの特講のうちから2科目8単位を選択必修とします。

(ロ) 他コースの特講または史学特講A、史学特講Bのうちから2科目8単位を選択必修とします。

注) 芸術史コース専攻者に限り、文学部共通科目(P.43・44参照)のうちから下記の科目を修得することで充足することもできます。

芸術文化論、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、日本文化史、東洋文化史、西洋文化史、東洋音楽史、西洋音楽史、古典ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ、ラテン語入門、ラテン語Ⅰ・Ⅱ

(ハ) 各自の専攻コースの演習のうちから2科目8単位を選択必修とします。これは3年次に1科目4単位、4年次に1科目4単位を履修することが望まれます。3年次に1科目4単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。

なお、調査研究旅行は3年次の演習に含まれ、必ず参加することを原則とします。

(2) 特別演習(卒業論文)について

(イ) 特別演習(卒業論文)は、年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のあるものでなければ履修できません。また、史学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 題目届を期限までに提出しない場合は、卒業論文を提出することができません。

(ハ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

- (ニ) 提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。
- (ホ) 提出後の論文の訂正はできません。
- (ヘ) 卒業論文には口述試験を課します。日時は別に指示します。
- (ト) 卒業論文「提出方法」について
 題目提出期限……年度初頭に学生ポータル等で指示
 提出先……史学科研究室(題目の提出方法等については4年ガイダンスで指示)
 論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示
 提出先……学務部教務課

(3) 教職課程関連科目について (2008年度以前入学者)

- (イ) 教職課程関連科目は教職課程の一分野である「教科に関する専門科目」として置く科目です。
- (ロ) 履修については、213ページ以下の「教職課程(教員免許状・各種資格)について」ならびに『教職課程履修の手引(第一部)』を参照してください。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。
 ただし、史学科の各コースの特講、演習および史学特講A、史学特講Bに限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

(5) 履修順序について

1	2
	1を合格した場合のみ履修できます
博 物 館 実 習 I 博 物 館 概 論 博 物 館 学 各 論	博 物 館 実 習 II

(6) 履修取消制度対象外の科目について

史学科学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。
 日本史・東洋史・西洋史・考古学・芸術史の各概説、史学概論、基礎演習、特別演習(卒業論文)、史料講読Ⅰ・Ⅱ、各原典講読Ⅰ・Ⅱ、古文書学、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、各演習、博物館学芸員関係科目

(7) 他学部他学科学生の本学科専門教育科目の履修について

史学科専門教育科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日 本 史 概 説	2	東洋史原典講読Ⅰ	2	芸 術 史 原 典 講 読 Ⅱ	2
東 洋 史 概 説	2	東洋史原典講読Ⅱ	2	※ 博 物 館 実 習 Ⅰ	2
西 洋 史 概 説	2	西洋史原典講読Ⅰ	2	※ 博 物 館 実 習 Ⅱ	2
※ 考 古 学 概 説	2	西洋史原典講読Ⅱ	2	日 本 史 演 習	4
芸 術 史 概 説	2	考古学原典講読Ⅰ	2	東 洋 史 演 習	4
基 礎 演 習	4	考古学原典講読Ⅱ	2	西 洋 史 演 習	4
特別演習(卒業論文)	8	考 古 学 実 習 Ⅰ	2	考 古 学 演 習	4
日本史史料講読Ⅰ	2	考 古 学 実 習 Ⅱ	2	芸 術 史 演 習	4
日本史史料講読Ⅱ	2	芸 術 史 原 典 講 読 Ⅰ	2	※ 博 物 館 概 論	2
				※ 博 物 館 学 各 論	4

※の科目は、学芸員希望者は履修することができます。

2. 史学科学科科目配置表

(太字は必修科目)
(△印は隔年開講)

授 業 科 目		単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 史 概 説		2	1	
東 洋 史 概 説		2	1	
西 洋 史 概 説		2	1	
考 古 学 概 説		2	1	
芸 術 史 概 説		2	1	
史 学 概 論		2	1	
基 礎 演 習		4	2	日本史コース 東洋史コース 西洋史コース 考古学コース 芸術史コース ※専攻コースのものを履修すること
特別演習 (卒業論文)		8	4	
日 本 史 ス	日本史史料講読Ⅰ	2	2	
	日本史史料講読Ⅱ	2	3	
	古文書学	4	2	
東 洋 史 ス	東洋史原典講読Ⅰ	2	2	
	東洋史原典講読Ⅱ	2	3	
西 洋 史 ス	西洋史原典講読Ⅰ	2	2	
	西洋史原典講読Ⅱ	2	3	
考 古 学 コ ー ス	考古学原典講読Ⅰ	2	2	
	考古学原典講読Ⅱ	2	3	
	考古学実習Ⅰ	2	2	
	考古学実習Ⅱ	2	3	
芸 術 史 ス	芸術史原典講読Ⅰ	2	2	
	芸術史原典講読Ⅱ	2	3	
日 本 史 特 講 (1)		4	2	
(2)		4	3・4	
(3)		4	3・4	
(4)		4	3・4	
(5)		4	3・4	
(6)		4	3・4	
(7)		4	3・4	
東 洋 史 特 講 (1)		4	2	
(2)		4	3・4	
(3)		4	3・4	
(4)		4	3・4	
(5)		4	3・4	
西 洋 史 特 講 (1)		4	2	
(2)		4	3・4	

文学部史学科 (2006~2010年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
(6)	4	3・4	
考 古 学 特 講 (1)	4	2	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
芸 術 史 特 講 (1)	4	2	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
日 本 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
東 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
西 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
考 古 学 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
芸 術 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
史 学 特 講 A (1)	4	1・2	
A (2)	4	1・2	
A (3)	4	3・4	
A (4)	4	3・4	
A (5)	4	3・4	
史 学 特 講 B (1)	4	1・2	
B (2)	4	1・2	
B (3)	4	1・2	
B (4)	4	3・4	

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考			
B (5)	4	3・4				
B (6)	4	3・4				
B (7)	4	3・4				
B (8)	4	3・4				
人 文 地 理 学 概 論	4	3				
博 物 館 概 論	2	3のみ				
博 物 館 学 各 論	4	3・4			学芸員希望者は3年で履修すること。	
※ 博 物 館 実 習 I	2	3のみ				※を履修する者は「学芸員の資格」の項を参照すること。(P.223)
※ 博 物 館 実 習 II	2	4	(隔週通年)			
以下の科目は2008年度以前入学者のみ履修できます。						
教 職 課 程 関 連 科 目	経 済 地 理 学	4	2			
	自 然 地 理 学	4	3・4			
	△地 理 情 報 分 析 法	4	3・4			
	△気 象 学	4	3・4			
	△地 誌 学 概 論 (アメリカ地誌を含む)	4	3・4			
	△地 誌 学 概 論 (アジア地誌を含む)	4	3・4			
	△地 誌 学 概 論 (ヨーロッパ地誌を含む)	4	3・4			
	△地 誌 学 概 論 (日本地誌を含む)	4	3・4			
	法 律 学 概 説	4	3・4			
	憲 法	4	2			
	民 法 I	4	3・4			
	政 治 学 概 説	4	3・4			
	政 治 学 原 論	4	1・2			
	国 際 関 係 論	4	3・4			
	経 済 学 総 論	4	3・4			
	国 際 経 済 学	4	2			
	哲 学 史	4	3・4			
	△ 倫 理 学 概 説	4	3・4			
宗 教 学	4	3・4				

注) 教職課程関連科目は、教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。なお、修得単位は P.128自由選択科目(ホ)文学部他学科・他学部の開講科目の扱いになります。

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

日本史コース・考古学コース (40単位)

東洋史コース・西洋史コース・芸術史コース (44単位)

(イ) 史学科学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)

(ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)

(ハ) 文学部共通科目

(ニ) 外国語 I 選択科目 (P.122参照)

(ホ) 文学部他学科・他学部開講の科目、教職課程関連科目 (注1・注2)

(注1) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは12単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

(注2) 教職課程関連科目は2008年度以前入学者のみ履修することができます。2009年度以降入学者は、「教職課程履修の手引」に従って他学科・他学部開講の科目を履修してください。

【3】 心理学科履修について (2007～2008年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部心理学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記をあたえ、学士(心理学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
外国語科目	外国語 I	必修	10
学 科 科 目		必修	24
		選択必修	34
自由選択科目		選択	36
総 計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2006年度以降入学者)(p.17)を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	48	44	184

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得していなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得していなければ3年次に進級できません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう、とくに注意してください。

5. 編入学者、転学部・転学科者について

編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。

(注)編入学者、転学部・転学科者は編入学、転学部・転学科した年度に限り最高履修制限単位を4単位を超えて履修することができます。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法

(1) 外国語 I の必要単位 (10単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II	2	2	
	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	
	英 作 文	2	2	

注) 他学科の外国語 I は原則として履修できません。指定されたクラスで受講してください。

(2) 履修順序

1	2
	I が合格した場合のみ履修で きます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 心理学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必修 (24単位)

心理学概論〔4〕 心理学基礎演習Ⅰ〔2〕 心理学基礎演習Ⅱ〔2〕 基礎心理学〔2〕
心理統計学基礎〔4〕 心理学実験〔4〕 心理学研究法〔2〕 卒業研究Ⅰ〔4〕

選択必修 (34単位)

下記(イ)(ロ)をあわせて34単位を選択必修とします。

(イ) 1～4年次の間に、区分Ⅰ～Ⅷの科目のうち、必修科目を除いた科目から26単位を選択必修とします。

(ロ) 4年次において、以下のいずれかの要領で8単位を選択必修とします。

・卒業研究Ⅱ(6単位)を履修し単位を修得した場合は、区分Ⅰ～Ⅷの科目のうち、必修科目を除いた科目から2単位を選択必修とします。

・卒業研究Ⅱを修得しない場合は、区分Ⅰ～Ⅷの科目のうち、必修科目を除いた科目から8単位を選択必修とします。

(注) 選択必修の必要単位を超えて修得した学科科目の単位は、自由選択科目の単位に算入されます。

(2) 卒業研究について

(イ) 卒業研究Ⅰおよび卒業研究Ⅱの履修登録にあたっては、年度初頭に行われているオリエンテーションに出席し、予備登録を行う必要があります。予備登録に関し学科内で検討を行った後、各学生の指導教員を発表しますので、それをもって履修登録を行うものとします。(学生本人が履修登録を行ってください。)

(ロ) 卒業研究Ⅱは、前年度までに卒業研究Ⅰの単位を修得し、かつ年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込みのたつ場合でなければ履修できません。また卒業研究Ⅰ・Ⅱについては心理学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ハ) 卒業研究Ⅱの単位は、①卒業論文を提出し、②卒業論文発表会における発表と質疑応答を行い、③主査・副査による審査に合格した場合に対して授与されます。

卒業論文 提出期限 学生ポータルにて発表しますのでその指示に従ってください。

提出先 学務部教務課

締切に遅れたものについてはいかなる理由があっても一切受け付けません。

(ニ) 卒業論文は、ワードプロセッサを用いて所定の書式で作成し、印刷された論文本体にレポート用の表紙をつけて学務部教務課へ提出してください。また論文本体とは別に、論文ファイルおよびデータファイルを納めたCD-R等の記録媒体を提出期限内に心理学科合同研究室へ提出しなければなりません。

合格した卒業論文は、製本して心理学科合同研究室の書架に配架します。

(ホ) 提出後の論文の訂正はできません。

(3) 同一名称科目の履修について

既に合格した科目を再度履修すること、および、同一年度に同一名称科目を履修することはできません。ただし、心理学科学科科目のうち、下記科目に限り、同一名称科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、何回でも履修することができます。

心理学特講A 心理学特講B 心理学演習ⅠA 心理学演習ⅠB
心理学演習ⅡA 心理学演習ⅡB 心理学演習ⅢA 心理学演習ⅢB
心理学演習ⅣA 心理学演習ⅣB

(4) 履修順序について

- (イ) 「卒業研究Ⅱ」は「卒業研究Ⅰ」が合格した場合のみ履修できます。
- (ロ) 「医療心理実地演習」は「医療心理実地演習事前指導」と「臨床心理実務倫理論」とが合格した場合のみ履修できます。
- (ハ) 以下の必修科目は、表のとおり履修することが望ましい。

心理学概論	1年次
心理統計学基礎 心理学実験	2年次
卒業研究Ⅰ	3年次

(5) 他学部他学科学生が文学部心理学科科目の履修について

心理学科学科科目のうち、下記授業科目は他学部他学科学生の履修を認めません。

学 科 科 目	単 位	学 科 科 目	単 位
心理学概論	4	教育相談	2
心理学基礎演習Ⅰ	2	心理学演習ⅠA	2
心理学基礎演習Ⅱ	2	心理学演習ⅠB	2
心理学実験	4	心理学演習ⅡA	2
心理学実験プログラミング	2	心理学演習ⅡB	2
教育心理学	4	心理学演習ⅢA	2
医療心理実地演習事前指導	1	心理学演習ⅢB	2
心理検査演習A	2	心理学演習ⅣA	2
心理検査演習B	2	心理学演習ⅣB	2
医療心理実地演習	4	哲学文献講読演習	4
障害児・者の施設実習	2	心理療法実習	2
臨床教育学総論	2	卒業研究Ⅰ	4
生徒指導	2	卒業研究Ⅱ	6

(6) 履修取消制度対象外の科目について

心理学科必修科目は、履修取消制度の対象外とします。

2. 学科科目配置表

履修年次の見方

- 1 : 1年次に履修することが望ましいもの (1～4年次まで履修可)
- 2 : 2年次に履修することが望ましいもの (2～4年次まで履修可)
- 1・2 : 1・2年次に履修することが望ましいもの (1～4年次まで履修可)
- 3 : 3年次に履修することが望ましいもの (3～4年次まで履修可)
- 3・4 : 3・4年次に履修することが望ましいもの (3～4年次まで履修可)
- 4 : 4年次のみ履修できるもの

(太字は必修科目)

区分	授業科目	単位	履修年次	備考
I 群	心 理 学 概 論	4	1	
	心 理 学 基 礎 演 習 I	2	1	半期
	心 理 学 基 礎 演 習 II	2	1	半期
	基 礎 心 理 学	2	2	半期
	心 理 統 計 学 基 礎	4	2	
	心 理 学 実 験	4	2	
	心理学実験プログラミング	2	2	半期
	哲 学 的 認 識 論	4	3・4	
	心 理 統 計 実 習	2	3・4	半期 集中科目
	心 の 哲 学	4	3・4	
	心 理 学 史	2	3・4	半期
心 理 学 研 究 法	2	3	半期	
II 群	学 習 心 理 学	4	1・2・3・4	
	教 育 心 理 学	4	1・2	
	発 達 心 理 学	4	1・2	
	生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	半期 2008年度より履修年次変更
	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	半期 2008年度より履修年次変更
	知 覚 心 理 学	2	2	半期
	認 知 科 学 概 論	2	2	半期
	認 知 心 理 学	4	3・4	
	感 情 心 理 学	2	3・4	半期
	神 経 心 理 学	2	3・4	半期
	人 格 心 理 学	4	3・4	
	健 康 心 理 学	2	3・4	半期
	社 会 心 理 学	4	3・4	
	社 会 心 理 学 I	2	3・4	半期
	社 会 心 理 学 II	2	3・4	半期
	産 業 心 理 学	2	2・3・4	半期
	広 告 心 理 学	2	3・4	半期
ノンバーバル・コミュニケーションI	2	3・4	半期	
ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4	半期	
音 楽 心 理 学	2	3	半期	

次ページに続く

II 群	心理学特講 A	2	3・4	半期	
	心理学特講 B	2	3・4	半期	
III 群	学校心理学	2	1・2・3・4	半期	
	臨床心理学	4	2		
	臨床心理学 I	2	2・3・4	半期	
	臨床心理学 II	2	2・3・4	半期	
	心理療法	4	3・4		
	精神分析学	2	3・4	半期	
	家族心理学	2	3・4	半期	
	犯罪心理学	4	3・4		
	臨床心理学特講	4	3・4		
	相談心理学	4	3・4		
	音楽療法	2	3・4	半期	
	音楽療法演習	2	3・4	半期	
	コミュニティ心理学	2	3・4	半期	
IV 群	臨床心理実務倫理論	2	3・4	半期	
	心理面接法	4	3・4		
	医療心理実地演習事前指導	1	3	不定	集中科目
	心理検査演習 A	2	3・4	半期	
	心理検査演習 B	2	3・4	半期	
	心理療法実習	2	3・4		
V 群	臨床心理実地演習	4	4	不定	
	精神医学	4	3・4		
	身体医学	2	3・4	半期	隔年開講
	心身医学	2	3・4	半期	隔年開講
	薬理学	2	3・4	半期	
	脳生理学	2	3・4	半期	
	精神衛生	2	3・4	半期	
	生涯発達論	2	3・4	半期	
	母子保健	2	3・4	半期	
	成人・高齢者保健	2	3・4	半期	
	精神保健福祉	2	3・4	半期	
VI 群	保健・医療・福祉・制度論	2	3・4	半期	
	社会保障制度と関連法規	2	3・4	半期	
	障害児・者の施設実習	2	2	不定	
	障害児・者の心理 I	2	2	半期	
	障害児・者の心理 II	2	3・4	半期	
	障害児・者の教育	2	3・4	半期	
	障害児・者の福祉	2	3・4	半期	
	障害児・者の医学	2	3・4	半期	
	学校教育学総論	4	1・2		

次ページに続く

VII 群	臨床教育学総論	2	1・2	半期	
	保育内容総論	4	2・3・4		
	臨床保育学	4	2・3・4		
	保育方法の研究	4	2・3・4		
	生涯学習概論	4	2		
	生徒指導	2	3・4	半期	
	教育相談	2	3・4	半期	
	現代社会と社会教育Ⅰ (高齢化社会と教育)	2	3・4	半期	
	現代社会と社会教育Ⅱ (青年期の教育)	2	3・4	半期	
	現代社会と社会教育Ⅲ (ジェンダーと教育)	2	3・4	半期	
VIII 群	心理学演習ⅠA	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅠB	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅡA	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅡB	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅢA	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅢB	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅣA	2	3・4	半期	
	心理学演習ⅣB	2	3・4	半期	
	哲学文献講読演習	4	3・4		
	心理学原書講読A	2	3・4	半期	
	心理学原書講読B	2	3・4	半期	
	IX 群	卒業研究Ⅰ	4	3	
卒業研究Ⅱ		6	4		

※科目担当者等は、学生ポータル（時間割・講義内容検索）で確認してください。

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位 (36単位)

- (イ) 心理学科学科科目 (必修および選択必修として修得した必要単位は除きます)
 - (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した必要単位は除きます)
 - (ハ) 文学部共通科目
 - (ニ) 文学部他学科ならびに他学部開講の科目 (注)
- (注) (イ) (ロ) (ハ) 同様、各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、加えて、履修する場合には該当学部・学科の履修制限に従ってください。ただし、自学科に同一科目・同一内容科目が開講されている場合は、自学科開講科目を履修してください。
- また、文学部第二部ならびに他学部第二部の科目は履修できません。

【3】 比較芸術学科履修について (2012年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、これが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部比較芸術学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記をあたえ、学士(比較芸術学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類		必選の別	必要単位
青山スタンダード科目			24
外国語科目	外国語 I	必修	8
学科科目		必修	20
		選択必修	50
自由選択科目		選択	26
総計			128

青山スタンダード科目の履修については【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表(2012年度以降入学者)(P.13)を参照してください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をしなくてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
44	48	48	44	184

注) 社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育原理 A、B を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得していなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得していなければ3年次に進級できません。

注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1年次配置科目については、履修計画をたて、相模原キャンパスにて確実に履修してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法

(1) 外国語 I の必要単位 (8 単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II (週 2 回履修し、合計 4 単位修得のこと。)	2	2	
	英 作 文	2	1	
選 択	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	

注 1) 他学科の外国語 I は原則として履修できません。指定されたクラスで受講してください。

注 2) オーラル・イングリッシュ I・II を履修し単位を修得した場合には、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

(2) 履修順序

1	2
	I を合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 比較芸術学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必修

専門基礎科目 (20単位)

比較芸術学入門A〔2〕 比較芸術学入門B〔2〕 西洋の文芸と美術A〔2〕
 日本・東洋の文芸と美術A〔2〕 西洋の文芸と音楽A〔2〕
 日本・東洋の文芸と音楽A〔2〕 西洋の文芸と演劇映像A〔2〕
 日本・東洋の文芸と演劇映像A〔2〕 芸術と文学〔2〕 芸術と法〔2〕

選択必修 (50単位)

次の(イ)～(ホ)の専門選択群ごとに I (美術)、II (音楽)、III (演劇映像) の領域から 2つ以上の領域にわたって科目を履修すること。

- 1 専門選択(イ)の中から 2 科目 4 単位を選択必修とします。
- 2 専門選択(ロ)の中から 2 科目 4 単位を選択必修とします。
- 3 専門選択(ハ)の中から 2 科目 4 単位を選択必修とします。
- 4 専門選択(ニ)の中から 3 科目 6 単位を選択必修とします。
- 5 専門選択(ホ)の中から 8 科目 16 単位を選択必修とします。
- 6 専門選択(ヘ)の中から 2 科目 8 単位を選択必修とします。
 比較芸術学演習 I、II、III の各演習のうちから 2 科目 8 単位を選択必修とします。これは 3 年次に 1 科目 4 単位、4 年次に 1 科目 4 単位を履修してください。3 年次に 1 科目 4 単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。
- 7 専門選択(ト)の特別演習 (卒業論文) 8 単位を選択必修とします。
 4 年次においては、原則として「特別演習 (卒業論文)」を履修し単位を修得するものとします。ただし、4 年次に(イ)～(ホ)までの諸科目 (選択必修の項(イ)～(ホ)の必要単位として修得した単位を除きます。)の中から 8 単位の修得をもってこれに代えることができます。

(2) 特別演習 (卒業論文) について

(イ) 特別演習 (卒業論文) は、年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のある者でなければ履修できません。また、比較芸術学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 卒業論文「提出方法」について

題目提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出先……比較芸術学科研究室

題目届を期限までに提出しない場合は卒業論文を提出することができません。

論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出先……学務部教務課

(3) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、下記のとおり、比較芸術学特講 (専門選択(ホ))、比較芸術学演習 (専門選択(ヘ)) および選択科目に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

比較芸術学科履修について (2012年度入学者)

重複履修許可科目

学 科 科 目	単 位	学 科 科 目	単 位
比較芸術学特講Ⅰ	2	美学・芸術思想	4
比較芸術学特講Ⅱ	2	西洋の宗教と芸術	4
比較芸術学特講Ⅲ	2	日本・東洋の宗教と芸術	4
比較芸術学演習Ⅰ	4	伝統デザイン論	4
比較芸術学演習Ⅱ	4		
比較芸術学演習Ⅲ	4		

(4) 履修取消制度対象外の科目について

比較芸術学科の学科科目のうち、下記授業科目は、履修取消制度の対象外とします。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
比較芸術学入門A	2	西洋の文芸と美術B	2	原書講読Ⅱ	2
比較芸術学入門B	2	日本・東洋の文芸と美術B	2	原書講読Ⅲ	2
西洋の文芸と美術A	2	西洋の文芸と音楽B	2	芸術鑑賞の方法Ⅰ	2
日本・東洋の文芸と美術A	2	日本・東洋の文芸と音楽B	2	芸術鑑賞の方法Ⅱ	2
西洋の文芸と音楽A	2	西洋の文芸と演劇映像B	2	芸術鑑賞の方法Ⅲ	2
日本・東洋の文芸と音楽A	2	日本・東洋の文芸と演劇映像B	2	比較芸術学演習Ⅰ	4
西洋の文芸と演劇映像A	2	基礎演習Ⅰ	2	比較芸術学演習Ⅱ	4
日本・東洋の文芸と演劇映像A	2	基礎演習Ⅱ	2	比較芸術学演習Ⅲ	4
芸術と文学	2	基礎演習Ⅲ	2	特別演習(卒業論文)	8
芸術と法	2	原書講読Ⅰ	2		

(5) 他学部他学科学生の本学科専門教育科目の履修について

比較芸術学科専門教育科目のうち、下記授業科目は他学部他学科学生の履修を認めません。

また、許可科目であっても、他学部他学科学生は3年次以上の学生でなければ履修を許可しません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
比較芸術学入門A	2	西洋の文芸と美術B	2	原書講読Ⅱ	2
比較芸術学入門B	2	日本・東洋の文芸と美術B	2	原書講読Ⅲ	2
西洋の文芸と美術A	2	西洋の文芸と音楽B	2	芸術鑑賞の方法Ⅰ	2
日本・東洋の文芸と美術A	2	日本・東洋の文芸と音楽B	2	芸術鑑賞の方法Ⅱ	2
西洋の文芸と音楽A	2	西洋の文芸と演劇映像B	2	芸術鑑賞の方法Ⅲ	2
日本・東洋の文芸と音楽A	2	日本・東洋の文芸と演劇映像B	2	比較芸術学演習Ⅰ	4
西洋の文芸と演劇映像A	2	基礎演習Ⅰ	2	比較芸術学演習Ⅱ	4
日本・東洋の文芸と演劇映像A	2	基礎演習Ⅱ	2	比較芸術学演習Ⅲ	4
芸術と文学	2	基礎演習Ⅲ	2	特別演習(卒業論文)	8
芸術と法	2	原書講読Ⅰ	2		

(太字は必修科目)

2. 比較芸術学科
学科科目配置表

授 業 科 目		単 位	履 修 年 次	備 考	
専 門 基 礎 科 目	比 較 芸 術 学 入 門 A	2	1		
	比 較 芸 術 学 入 門 B	2	1		
	西 洋 の 文 芸 と 美 術 A	2	1		
	日 本 ・ 東 洋 の 文 芸 と 美 術 A	2	1		
	西 洋 の 文 芸 と 音 楽 A	2	1		
	日 本 ・ 東 洋 の 文 芸 と 音 楽 A	2	1		
	西 洋 の 文 芸 と 演 劇 映 像 A	2	1		
	日 本 ・ 東 洋 の 文 芸 と 演 劇 映 像 A	2	1		
	芸 術 と 文 学	2	2		
	芸 術 と 法	2	2		
専 門 選 択 (イ)	美術	西 洋 の 文 芸 と 美 術 B	2	2	
		日 本 ・ 東 洋 の 文 芸 と 美 術 B	2	2	
	音楽	西 洋 の 文 芸 と 音 楽 B	2	2	
		日 本 ・ 東 洋 の 文 芸 と 音 楽 B	2	2	
	演劇映像	西 洋 の 文 芸 と 演 劇 映 像 B	2	2	
		日 本 ・ 東 洋 の 文 芸 と 演 劇 映 像 B	2	2	
専 門 選 択 (ロ)	美術	基 礎 演 習 I (1)	2	2	
		(2)	2	2	
	音楽	基 礎 演 習 II (1)	2	2	
		(2)	2	2	
	演劇映像	基 礎 演 習 III (1)	2	2	
		(2)	2	2	
専 門 選 択 (ハ)	美術	原 書 講 読 I (1)	2	2	
		(2)	2	2	
	音楽	原 書 講 読 II (1)	2	2	
		(2)	2	2	
	演劇映像	原 書 講 読 III (1)	2	2	
		(2)	2	2	
専 門 選 択 (ニ)	美術	芸 術 鑑 賞 の 方 法 I (1)	2	2・3・4	
		(2)	2	2・3・4	
		(3)	2	2・3・4	
	音楽	芸 術 鑑 賞 の 方 法 II (1)	2	2・3・4	
		(2)	2	2・3・4	
		(3)	2	2・3・4	
	演劇映像	芸 術 鑑 賞 の 方 法 III (1)	2	2・3・4	
		(2)	2	2・3・4	
		(3)	2	2・3・4	
美術	比 較 芸 術 学 特 講 I (1)	2	2・3・4		
	(2)	2	2・3・4		
	(3)	2	2・3・4		

比較芸術学科履修について (2012年度入学者)

授 業 科 目		単 位	履 修 年 次	備 考	
専門選択 (ホ)	美術	(4)	2	2・3・4	
		(5)	2	2・3・4	
		(6)	2	2・3・4	
		(7)	2	2・3・4	
		(8)	2	2・3・4	
	音楽	比較芸術学特講Ⅱ(1)	2	2・3・4	
		(2)	2	2・3・4	
		(3)	2	2・3・4	
		(4)	2	2・3・4	
		(5)	2	2・3・4	
		(6)	2	2・3・4	
	演劇映像	比較芸術学特講Ⅲ(1)	2	2・3・4	
		(2)	2	2・3・4	
		(3)	2	2・3・4	
		(4)	2	2・3・4	
		(5)	2	2・3・4	
		(6)	2	2・3・4	
	専門選択 (ヘ)	美術	比較芸術学演習Ⅰ(1)	4	
(2)			4	3・4	〃
(3)			4	3・4	〃
(4)			4	3・4	〃
音楽		比較芸術学演習Ⅱ(1)	4	3・4	〃
		(2)	4	3・4	〃
演劇映像		比較芸術学演習Ⅲ(1)	4	3・4	〃
		(2)	4	3・4	〃
		(3)	4	3・4	〃
専門選択 (ト)	特別演習 (卒業論文)	8	4	通年科目	
選択科目	美学・芸術思想	4	2・3・4	通年科目	
	西洋の宗教と芸術	4	2・3・4	〃	
	日本・東洋の宗教と芸術	4	2・3・4	〃	
	伝統デザイン論	4	2・3・4	〃	

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

(26単位)

- (イ) 比較芸術学科学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
- (ロ) 青山スタンダード科目 (必修、選択必修および選択として修得した単位は除きます)
- (ハ) 文学部共通科目
- (ニ) 外国語 I 選択科目 (P.139参照)
- (ホ) 文学部他学科・他学部開講の科目 (注1)

(注1)各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは12単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

B. 文学部履修要項 (2005年度入学者)

フランス文学科

- 【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表 … 146
- 【2】文学部共通科目履修方法および配置表 …………… 156
- 【3】フランス文学科履修について …………… 158
- 【4】フランス文学科学科科目履修方法および配置表
……………160
- 【5】自由選択科目履修方法 …………… 164

史 学 科

- 【1】青山スタンダード科目履修方法および配置表 … 146
- 【2】文学部共通科目履修方法および配置表 …………… 156
- 【3】史学科履修について …………… 165
- 【4】外国語科目履修方法および配置表 …………… 168
- 【5】史学科学科科目履修方法および配置表 …………… 169
- 【6】自由選択科目履修方法 …………… 174

【1】 青山スタンダード科目履修方法および配置表(2003～2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

1. 全学部に通ずる教養教育の理念・目標

青山学院の教育方針は、キリスト教信仰にもとづく教育を基盤として、幅広く深い知識を授けることにより、主体的な学習能力、着実な思考力、問題解決能力および総合的な判断力を培い、愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を進んで果たす、人間性豊かで国際性に富む人材を育成することです。

本学の全学部に通ずる教養教育は、この理念をうけて、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養を備えているという社会的評価を受けることを到達の目標とする。」として、青山スタンダード科目を開講しています。

2. 履修方法

科目の種類別		授業科目	必要単位	
フレッシュヤーズ・セミナー			自由	
コア 科目	教 養 コ ア	キリスト教理解関連科目(領域A)	キリスト教概論 I	2
		人間理解関連科目(領域B)	自己理解(総合科目) 自己理解(個別科目)	2
		社会理解関連科目(領域C)	現代社会の諸問題(総合科目) 現代社会の諸問題(個別科目)	2
		自然理解関連科目(領域D)	科学・技術の視点(総合科目) 科学・技術の視点(個別科目)	2
		歴史理解関連科目(領域E)	歴史と人間(総合科目) 歴史と人間(個別科目)	2
	技 能 コ ア	言葉の技能(領域F)	英語 ※1	2
			第二外国語 ※2 ※3	4
		身体の技能(領域G)	健康・スポーツ演習 ※4	2
		情報の技能(領域H)	情報スキル I	2
	テーマ 別科目	キリスト教理解関連科目(領域A)	キリスト教概論 II	2
(領域A)～(領域H)		※5	6	

- ※1 英米文学科、フランス文学科を除きます。
- ※2 第二外国語科目の中から1外国語を選択します(入学手続き時に申請されています)。
- ※3 第二外国語科目には、履修順序があります。
 - ・2004年度以降入学生は、「(第二外国語) I (A)」「(第二外国語) I (B)」について、それぞれ前期の単位が修得できた者のみが後期の履修を認められます(日本語は除く)。
 - ・「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話 (I)」は、「(第二外国語) I」の必要単位をすべて修得した者のみが履修を認められます。
 - ・「(第二外国語) III」は、「(第二外国語) II」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
 - ・「(第二外国語) 会話 (II)」は、「(第二外国語) II」あるいは「(第二外国語) 会話 (I)」の単位を修得した者のみが履修を認められます。
- ※4 教育・経済・経営のみ必修です。
- ※5 6単位以上修得した場合は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます。
- フレッシュヤーズ・セミナー、健康・スポーツ演習(教育・経済・経営除く)、第二外国語として修得した外国語以外の第二外国語科目を修得した単位は、卒業要件の中の自由選択科目に算入されます(日本文学科・国際政治経済学部除く)。

- 受講者数の著しく多い科目については、教室の収容人数、教育効果等を考慮して、クラスの分割・抽選などの措置をとることがあります。

- 心理学科異コース科目の相互履修について
 - ・昼間主コースの学生は、夜間主コースの時間帯に設置されている青山スタンダード科目を、各年度12単位を上限として履修することができます。その場合、その科目の単位は各年次の最高履修制限単位数に含むものとします。
 - ・下記の青山スタンダード科目については、履修上の制限があるので、夜間主コース時間帯での履修はできません。
教養コア科目、技能コア科目とテーマ別科目のうちの外国語Ⅱ・スポーツ・情報科学及び実習・プログラミング及び実習

青山スタンダード (2003~2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

3. 授業科目配置表

(太字は必修科目)

>

	授業科目	単位	配置年次	備 考		
	フレッシュャーズ・セミナー	2	1	1年生のみ		
教養コア科目	(キリスト教理解関連科目) キリスト教概論 I	2	1			
	(人間理解関連科目) 自己理解 (総合科目) 自己理解 (個別科目)	2 2	1 1	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
	(社会理解関連科目) 現代社会の諸問題 (総合科目) 現代社会の諸問題 (個別科目)	2 2	1 1	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
	(自然理解関連科目) 科学・技術の視点 (総合科目) 科学・技術の視点 (個別科目)	2 2	1 1	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
	(歴史理解関連科目) 歴史と人間 (総合科目) 歴史と人間 (個別科目)	2 2	1 1	(総合科目): 複数の教員による担当 (個別科目): 一人の教員による担当		
	技能コア科目	英語・日本語	Essential English	2	1	英米文・フランス・国際政治経済除く
			Essential English I	1	1	国際政治経済学部のみ
			Essential English II	1	1	国際政治経済学部のみ
			日本語初級 A	2	1	外国人留学生該当者のみ
		第二外国語(2004・2005年度入学生)	(第二外国語) I (A)-1	1	1	(第二外国語) は フランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指す。
(第二外国語) I (A)-2			1	1		
(第二外国語) I (B)-1			1	1		
(第二外国語) I (B)-2			1	1		
英語 I - 1			1	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得してください。	
英語 I - 2			1	1		
英語 (I A) - 1			1	1	外国人留学生のみ	
英語 (I A) - 2			1	1	外国人留学生のみ	
英語 (I B) - 1			1	1	外国人留学生のみ	
英語 (I B) - 2			1	1	外国人留学生のみ	
日本語 I (A)		2	1	外国人留学生のみ		
日本語 I (B)		2	1	外国人留学生のみ		
第二外国語(2003年度入学生)		(第二外国語) I (A)	2	1	(第二外国語) は フランス語(フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指す。	
		(第二外国語) I (B)	2	1		
		英語 I	2	1	フランス文学科のみ選択可。それぞれ週2回履修し、計4単位修得すること。	
		英語 (I A)	2	1	外国人留学生のみ	
	英語 (I B)	2	1	外国人留学生のみ		
	日本語 I (A)	2	1	外国人留学生のみ		
日本語 I (B)	2	1	外国人留学生のみ			
身体 の 技能	健康・スポーツ演習	2	1	教育・経済・経営のみ必修		
情報 の 技能	情報スキル I	2	1			

青山スタンダード (2003～2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	キ リ ス ト 教 理 解 関 連 科 目 (領 域 A)	キ リ ス ト 教 概 論 Ⅱ	2	2・3	理工学部は2年次 他は3年次配置
		旧 約 聖 書 と 人 間	2	2・3・4	
		新 約 聖 書 と 人 間	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 生 命 倫 理	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 政 治 倫 理	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 と 自 然 科 学	2	2・3・4	
		キ リ ス ト 教 環 境 倫 理	2	2・3・4	
		キ リ ス ト 教 音 楽	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 美 術	2	3・4	
		メ ソ ジ ス ト 教 会 史	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 教 育	2	3・4	閉講
		世 界 の 諸 宗 教	2	2・3・4	旧称「比較宗教学」
		現 代 神 学	2	3・4	
		キ リ ス ト 教 と 社 会 福 祉	2	3・4	閉講
		聖 書 の 中 の 女 性 た ち (旧 約)	2	3・4	旧称「聖書とフェミニズム」(2003～2007年 度)、「フェミニズムと聖書」(2008年度)
		聖 書 の 中 の 女 性 た ち (新 約)	2	2・3・4	
		サ ー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ Ⅰ	2	2・3・4	
		サ ー ビ ス ・ ラ ー ニ ン グ Ⅱ	2	2・3・4	
		人 間 理 解 関 連 科 目 (領 域 B)	哲 学 A	2	2・3・4
	哲 学 B		2	2・3・4	
	哲 学 の 諸 問 題 A		2	3・4	
	哲 学 の 諸 問 題 B		2	3・4	
	哲 学 の 諸 問 題 C		2	3・4	
	哲 学 の 諸 問 題 D		2	3・4	
	論 理 学 A		2	2・3・4	
	論 理 学 B		2	2・3・4	
	論 理 学 の 諸 問 題 A		2	3・4	
	論 理 学 の 諸 問 題 B		2	3・4	
	倫 理 学 A	2	2・3・4		
倫 理 学 B	2	2・3・4			
倫 理 学 の 諸 問 題 A	2	3・4			
倫 理 学 の 諸 問 題 B	2	3・4			
西 洋 倫 理 思 想 史 A	2	3・4			
西 洋 倫 理 思 想 史 B	2	3・4			
言 語 学 A	2	2・3・4			
言 語 学 B	2	2・3・4			
日 本 語 学 A	2	2・3・4			
日 本 語 学 B	2	2・3・4			
文 学 A	2	2・3・4			
文 学 B	2	2・3・4			
文 学 史 A	2	3・4			
文 学 史 B	2	3・4			

青山スタンダード (2003～2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ マ 別 科 目	人間理解関連科目 (領域B)	美 術 A	2	2・3・4	
		美 術 B	2	2・3・4	
		美 術 史 A	2	3・4	
		美 術 史 B	2	3・4	
		音 楽 A	2	2・3・4	
		音 楽 B	2	2・3・4	
		音 楽 史 A	2	3・4	
		音 楽 史 B	2	3・4	
		文 化 人 類 学 A	2	2・3・4	
		文 化 人 類 学 B	2	2・3・4	
		比 較 文 化 A	2	2・3・4	
		比 較 文 化 B	2	2・3・4	
		比 較 文 化 の 諸 問 題 A	2	3・4	
		比 較 文 化 の 諸 問 題 B	2	3・4	
		心 理 学 A	2	2・3・4	心理学科・経営学部2003年度入学生除く
		心 理 学 B	2	2・3・4	心理学科・経営学部2003年度入学生除く
		教 育 学 A	2	2・3・4	
		教 育 学 B	2	2・3・4	
		平 和 を 考 え る A	2	3・4	
		平 和 を 考 え る B	2	3・4	
		人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A	2	2・3・4	
		人 間 関 係 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B	2	2・3・4	
		文 化 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン A	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
		文 化 と コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン B	2	2・3・4	国際政治経済学部除く
社 会 理 解 関 連 科 目 (領域C)	法 学 (日本国憲法を含む)	4	2・3・4	法学部・経営学部2003年度入学生除く。教員免許状取得申請者は、1年次から履修できます。	
	日 本 の 法 と 社 会 A	2	3・4		
	日 本 の 法 と 社 会 B	2	3・4		
	国 際 政 治 経 済 学 A	2	2・3・4	旧称「政治学A」 経営学部2003年度入学生除く	
	国 際 政 治 経 済 学 B	2	2・3・4	旧称「政治学B」 経営学部2003年度入学生除く	
	国 際 関 係 概 論 A	2	2・3・4		
	国 際 関 係 概 論 B	2	2・3・4		
	社 会 学 A	2	2・3・4	経営学部2003年度入学生除く	
	社 会 学 B	2	2・3・4	経営学部2003年度入学生除く	
	社会学C (社会学による国際感覚)	2	3・4	閉講	
	社会学D (社会学による国際理解)	2	3・4	閉講	
	現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 A	2	2・3・4		
	現 代 社 会 と 教 育 人 間 学 B	2	2・3・4		
	経 済 学 A	2	2・3・4	経済学部除く	
経 済 学 B	2	2・3・4	経済学部除く		
情 報 社 会 科 学 A	2	2・3・4			
情 報 社 会 科 学 B	2	2・3・4			

青山スタンダード (2003～2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	社会理解関連科目 (領域C)	情報社会論	2	3・4		
		社会情報論	2	3・4		
		人口問題 A	2	2・3・4		
		人口問題 B	2	2・3・4		
		フェミニズム A	2	3・4		
		フェミニズム B	2	3・4		
		民族問題 A	2	3・4		
		民族問題 B	2	3・4		
		マスメディアと社会	2	2・3・4		
		文献と情報の世界	2	2・3・4	閉講	
		データサイエンス	2	2・3・4		
		福祉と人間 A	2	3・4		
		福祉と人間 B	2	3・4		
		国際ビジネス入門 A	2	2・3・4		
		国際ビジネス入門 B	2	2・3・4		
		感性ビジネス A -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4		
		感性ビジネス B -ファッション産業のフロンティア-	2	2・3・4		
		感性ビジネス C -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	財団法人ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座	
		感性ビジネス D -ファッション・ビジネス戦略論-	2	3・4	財団法人ファッション産業人材育成機構 (IFI) 寄附講座	
		パーソナル・マネー・マネジメント入門	2	3・4	三井生命寄附講座	
		企業のモノづくりと人づくりのリテラシー	2	2・3・4		
		国際ビジネスと海外事情 A	2	3・4		
		国際ビジネスと海外事情 B	2	3・4		
		グローバルゼーションと WTO	2	3・4		
		日本農業と WTO	2	3・4		
		環境問題と社会	2	3・4	NPO 環境平和持続の会寄附講座	
		現代金融の諸問題	2	3・4	金融青山会寄附講座	
		経済・金融とファイナンス	2	3・4	閉講	
		ファイナンシャルプランニング入門	2	2・3・4	(株)近代セールス社寄附講座	
		自然理解関連科目 (領域D)	技術史 A	2	2・3・4	
			技術史 B	2	2・3・4	
			日常生活の数理	2	2・3・4	
数理学入門 I	2		2・3・4	理工学部除く		
数理学入門 II	2		2・3・4	理工学部除く		
数理学の視点	2		2・3・4			
自然科学概論 A	2		2・3・4			
自然科学概論 B	2		2・3・4			
文化としての科学・技術 A	2		3・4			
文化としての科学・技術 B	2		3・4			
現代物理	2		2・3・4			
現代社会と化学物質	2		2・3・4	閉講		

青山スタンダード (2003~2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ マ 別 科 目	自然理解関連科目 (領域D)	ライフサイエンス	2	2・3・4	
		ゲノム	2	2・3・4	
		生物と地球環境	2	3・4	
		地球環境保全	2	3・4	
		バイオテクノロジーと生命倫理	2	3・4	
		地球観(自然と人の倫理)	2	2・3・4	
		生命と地球の歴史	2	2・3・4	
		宇宙科学	2	2・3・4	
		野鳥の生態	2	2・3・4	
		鳥類と生物多様性	2	2・3・4	
		植物生態学	2	2・3・4	
		メカワールド	2	2・3・4	理工学部除く
		経営管理の技術	2	2・3・4	旧称「技術と経営」理工学部除く
		先端エレクトロニクス	2	2・3・4	
		環境科学A	2	2・3・4	
		環境科学B	2	2・3・4	
		自然地理学A	2	2・3・4	
		自然地理学B	2	2・3・4	
		科学史	2	2・3・4	
		生命と生態系(環境と生物)	2	2・3・4	
	生命の連続(遺伝)	2	2・3・4		
	かたちの科学	2	2・3・4		
	自然史	2	2・3・4		
	自然観の変遷	2	2・3・4		
	歴史理解関連科目 (領域E)	青山学院大学の歴史	2	2・3・4	
		日本社会史A	2	2・3・4	
		日本社会史B	2	2・3・4	
		日本社会史C	2	3・4	
		中国史A	2	2・3・4	
		中国史B	2	2・3・4	
		中国史C	2	3・4	
		ヨーロッパ史A	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史B	2	2・3・4	
		ヨーロッパ史C	2	3・4	
現代史A		2	2・3・4		
現代史B		2	2・3・4		
現代史C		2	2・3・4		
現代史D		2	2・3・4		
考古学A	2	2・3・4			
考古学B	2	2・3・4			
科学思想史A	2	2・3・4			
科学思想史B	2	2・3・4			
人間形成の歴史A(日本)	2	2・3・4	閉講		
人間形成の歴史B(日本)	2	2・3・4	閉講		

青山スタンダード (2003～2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	人間形成の歴史C (西洋)	2	3・4	閉講
		人間形成の歴史D (西洋)	2	3・4	閉講
		インテンシブ・(第二外国語)(A)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		インテンシブ・(第二外国語)(B)	2	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(C)	2	2・3・4	
		インテンシブ・(第二外国語)(D)	2	2・3・4	
		(第二外国語) II (A)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語を指します。
		(第二外国語) II (B)	2	2・3・4	
		(第二外国語) II (C)	2	2・3・4	
		(第二外国語) II (D)	2	2・3・4	
		(第二外国語) II (E)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、中国語を指します。
		中国語 II (F)	2	2・3・4	
		(第二外国語) II	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		英語 II	2	2・3・4	フランス文学科のみ
		英語 (II A)	2	2・3・4	外国人留学生のみ
		英語 (II B)	2	2・3・4	外国人留学生のみ、旧称「英語II」
		日本語 II	2	2・3・4	外国人留学生のみ
		(第二外国語) III	2	3・4	(第二外国語) はドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語を指します。
		フランス語 III (A)	2	3・4	フランス文学科除く
		フランス語 III (B)	2	3・4	フランス文学科除く
		英語 III	2	3・4	フランス文学科のみ
		英語 (III)	2	3・4	外国人留学生のみ
		日本語 III	2	3・4	外国人留学生のみ
		(第二外国語) 会話 (I)	2	2・3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語 (フランス文学科のみ) を指します。
		(第二外国語) 会話 (II)	2	3・4	(第二外国語) はフランス語 (フランス文学科除く)、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語を指します。
		日本語 (I) A	1	3	交換留学生のみ
		日本語 (I) B	1	3	交換留学生のみ
		日本語 (I) C	1	3	交換留学生のみ
		日本語 (I) D	1	3	交換留学生のみ
		日本語 (II) A	1	3	交換留学生のみ
日本語 (II) B	1	3	交換留学生のみ		
日本語 (II) C	1	3	交換留学生のみ		
日本語 (II) D	1	3	交換留学生のみ		
日本語 (III) A	1	3	交換留学生のみ		
日本語 (III) B	1	3	交換留学生のみ		
日本語 (III) C	1	3	交換留学生のみ		

青山スタンダード (2003~2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能(領域F)	日 本 語 (III) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (IV) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) A	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) B	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) C	1	3	交換留学生のみ
		日 本 語 (V) D	1	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (I)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (II)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (III)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (IV)	2	3	交換留学生のみ
		日 本 事 情 (V)	2	3	交換留学生のみ
		アメリカ合衆国の社会と文化A	2	2・3・4	
		アメリカ合衆国の社会と文化B	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化 A	2	2・3・4	
		英語圏の社会と文化 B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		フランス語圏の社会と文化C	2	3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		ドイツ語圏の社会と文化C	2	3・4	
		スペイン語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		スペイン語圏の社会と文化C	2	3・4	
		中国語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化B	2	2・3・4	
		中国語圏の社会と文化C	2	3・4	
		ロシア語圏の社会と文化A	2	2・3・4	
		ロシア語圏の社会と文化B	2	3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化A	2	2・3・4	
		韓国・朝鮮の社会と文化B	2	3・4	
		イスラム圏の社会と文化A	2	3・4	
		イスラム圏の社会と文化B	2	3・4	
		日 本 学 A	2	3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		日 本 学 B	2	3・4	交換留学生・外国人留学生のみ
		English Studies A	2	2・3・4	
		English Studies B	2	2・3・4	
English Studies C	2	3・4			
English Studies D	2	3・4			
English Studies E	2	3・4			

青山スタンダード (2003～2005年度入学者)
(心理学科夜間主コースを除く)

テ ー マ 別 科 目	言葉の技能 (領域F)	ことばの研究 A	2	2・3・4	
		ことばの研究 B	2	3・4	
		少数民族の社会と文化 A	2	3・4	
		少数民族の社会と文化 B	2	3・4	
		民族文化論 A	2	2・3・4	
		民族文化論 B	2	2・3・4	
	身体の技能 (領域G)	健康医学	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気 A	2	2・3・4	
		身体の仕組みと病気 B	2	2・3・4	
		スポーツ生理学	2	2・3・4	
		スポーツバイオメカニクス	2	2・3・4	
		スポーツ心理学	2	2・3・4	
		動きの人間学	2	2・3・4	
		医療社会学	2	2・3・4	
		スポーツ運動実習	1	2・3・4	4回まで重複履修を認めます。教員免許状 取得申請者は、1年次から履修できます。
		アドバンススポーツ実習	2	2・3・4	
	情報の技能 (領域H)	プログラミング基礎 I	2	2・3・4	
		プログラミング基礎 II	2	2・3・4	
		情報スキル II	2	2・3・4	
		eラーニング入門	2	2・3・4	
		インストラクショナルデザイン入門	2	2・3・4	
		教育システムのためのIT入門	2	2・3・4	
		eラーニングの法的課題入門	2	2・3・4	

【2】 文学部共通科目履修方法および配置表

1. 文学部共通科目 履修方法

文学部各学科の学生が自由に選択履修して、単位を修得することができます。なお、修得単位は卒業に必要な単位として自由選択科目に算入されます。

2. 文学部共通科目 配置表

(△印は隔年開講)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
芸 術 文 化 論	4	3・4	
文 化 財 科 学	4	3・4	
日 本 の 思 想	4	2・3・4	
東 洋 の 思 想	4	2・3・4	
現 代 思 想	4	3・4	
日 本 美 術 史	4	3・4	
東 洋 美 術 史	4	3・4	
西 洋 美 術 史	4	3・4	
日 本 文 化 史	4	3・4	
東 洋 文 化 史	4	3・4	
西 洋 文 化 史	4	3・4	
映 像 文 化 論 A	2	3・4	旧称) 映像文化論
映 像 文 化 論 B	2	3・4	
△ 東 洋 音 楽 史	4	3・4	
△ 西 洋 音 楽 史	4	3・4	
生 命 倫 理 学	4	3・4	
詩 論	4	3・4	
ギリシャ・ローマ文学	4	3・4	
テ ク ス ト 論	4	3・4	
物 語 文 学	4	3・4	
キ リ ス ト 教 文 学	4	3・4	
世 界 各 地 域 の 文 学 A	4	3・4	
世 界 各 地 域 の 文 学 B	4	3・4	
世 界 各 地 域 の 文 学 C	4	3・4	
児 童 文 学	4	3・4	
比 較 文 学	4	3・4	
言 語 学 概 論	4	3・4	
比 較 言 語 学	4	3・4	
記 号 論	4	3・4	
古 典 ギ リ シ ャ 語 I	4	3・4	
古 典 ギ リ シ ャ 語 II	4	3・4	
ラ テ ン 語 入 門	4	2・3・4	
ラ テ ン 語 I	4	3・4	
ラ テ ン 語 II	4	3・4	
出 版 ジャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4	

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
放 送 ジ ャ ー ナ リ ズ ム	4	3・4	2009年度まで開講 旧称) 精神分析学 日本コンベンションサービス(※寄附講座 日本コンベンションサービス(※寄附講座 (有)MTC 寄附講座
大 学 論	4	2・3・4	
認 知 言 語 学	4	3・4	
精 神 分 析 学 入 門	4	3・4	
心 理 言 語 学	4	3・4	
イ タ リ ア の 言 語 と 文 化	4	2・3・4	
通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (1)	2	3・4	
通 訳 ワ ー ク シ ョ ッ プ (2)	2	3・4	
現 代 社 会 と 文 学 部	2	3・4	

※「日本の思想」、「東洋の思想」、「ラテン語入門」、「イタリアの言語と文化」は2012年度のみ相模原キャンパスで開講します。2013年度からはすべての科目が青山キャンパスで開講されます。

※寄附講座は年度によって開講されない場合があります。

【3】 フランス文学科履修について(2005年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部フランス文学科に4年以上(ただし、8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記を与え、学士(文学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類			必選の別	2004・2005年度入学者	
青山スタンダード科目	コア科目	教養コア	キリスト教理解関連科目〔領域A〕	必修	2
			人間理解関連科目〔領域B〕	選択必修	2
			社会理解関連科目〔領域C〕	選択必修	2
			自然理解関連科目〔領域D〕	選択必修	2
			歴史理解関連科目〔領域E〕	選択必修	2
	技能コア	言葉の技能(外国語)〔領域F〕	必修	4	
		情報の技能〔領域H〕	必修	2	
	テーマ別科目	〔領域A〕	必修	2	
〔領域A〕～〔領域H〕		選択必修	6		
学科科目	フランス語科目		必修	20	
	専門科目		必修	28	
			選択必修	32	
自由選択科目			選択	24	
総計				128	

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。また、各年次においては、必ず1科目以上の履修をしなければなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合計
46	46	48	44	184

注) 中学校、高等学校の教育職員免許状の取得を希望する場合は、教職課程科目(P.218)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する場合は教育原理を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

(1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。

(2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。

注) (1)(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない場合は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう、特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画を立て、相模原キャンパスにて確実に修得してください。

6. 編入学、転学部・転学科者について

編入学、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
 (例)2005年度2年次転学部・転学科者の場合——2004年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 2005年度3年次編入学者の場合——2003年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
 注) 編入学、転学部・転学科者は編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

青山スタンダード/技能コア/言葉の技能〔領域F〕/外国語科目(日本語)の履修方法は次のとおりです。

外国語科目の必要単位 (4単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 I (A)	2	1	
日 本 語 I (B)	2	1	
日 本 語 II	2	2	
日 本 語 III	2	3	

- 注1) 必修4単位を超えて修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。
- 注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
- 注3) 日本語以外の外国語科目(母国語以外)のI、II、III、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、2004年度以降入学者については、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が取得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。
 (配置表はP.148・153参照)
- 注4) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をIの修了者に準ずると認定された場合、IIの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 フランス文学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目の履修方法

(1) フランス語科目の必要単位

必修 (20単位)

フランス語文法〔4〕 フランス語文法演習〔4〕 エグゼルシスⅠ〔4〕
フランス語講読Ⅰ〔4〕 フランス語会話Ⅰ〔4〕

(2) 専門科目の必要単位

必修 (28単位)

フランスの文化と社会〔4〕 フランス語精読〔4〕 フランス語速読〔4〕
エグゼルシスⅡ〔4〕 フランス語作文Ⅰ〔4〕 エクスプレシオン・オラル〔4〕
フランス文学史概説Ⅰ〔4〕

選択必修 (32単位) 下記(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)によって32単位を修得してください。

(イ) 下記科目の中から3年次に1科目4単位を選択必修とします。

フランス文学史概説Ⅱ〔4〕 フランス語学概論〔4〕 フランス語史〔4〕

(ロ) 下記科目の中から1科目4単位を選択必修とします。

講読演習(1)～(6)〔各4〕

(ハ) 下記科目の中から2科目8単位を選択必修とします。

エクスプリカシオン(A)〔4〕 エクスプリカシオン(B)〔4〕

コミュニケーションⅠ・Ⅱ〔8〕 コミュニケーションⅢ〔4〕 フランス語作文Ⅱ〔4〕

フランス語作文Ⅲ〔4〕 時事フランス語〔4〕 実務フランス語〔4〕

注) コミュニケーションⅠ・Ⅱは2科目とみなします。

(ニ) 下記科目の中から2科目8単位を選択必修とします。

フランス文学特講(1)～(8)〔各4〕 フランス語学特講(1)～(3)〔各4〕

フランス文化特講(1)・(2)〔各4〕

(ホ) 下記科目の中から、3年次に1科目4単位、4年次に1科目4単位、合計2科目8単位を選択必修とします。

フランス文学演習(1)～(12)〔各4〕 フランス語学演習(1)～(4)〔各4〕

フランス文化演習(1)・(2)〔各4〕

注1) 選択必修(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)の各最低必要単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目の単位に算入されます。

注2) フランス文学演習、フランス語学演習、フランス文化演習は、年度初頭に在籍キャンパスのフランス文学科研究室で予備登録をしなければなりません。詳細については、年度初頭のガイダンス等で指示します。

(3) 特別演習 (卒業論文) について

(イ) 特別演習は年度初頭において、履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込のある者でなければ履修できません。また、フランス文学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

(ハ) 卒業論文「提出方法」について

題目提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出先……フランス文学科研究室(15号館11階)

題目届を期限までに提出しない場合は卒業論文を提出することができません。

論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出場所……学務部教務課

提出部数……2部提出してください(1部はコピーでよい)。

提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。

口述試験……卒業論文提出者はフランス文学科研究室から通知した日時に口述試験を受けなければなりません。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、フランス文学科科目のフランス文学史概説Ⅱ、講読演習、フランス文学特講、フランス語学特講、フランス文化特講、フランス文学演習、フランス語学演習、フランス文化演習に限り、同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は、履修することができます。

(5) 履修順序について

各授業科目間の履修順序はつけません。

(6) 履修取消制度対象外の科目について

フランス文学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
フランス語文法	4	フランス語精読	4
フランス語文法演習	4	フランス語速読	4
エグゼルシスⅠ	4	エグゼルシスⅡ	4
フランス語講読Ⅰ	4	フランス語作文Ⅰ	4
フランス語会話Ⅰ	4	エクスペリション・オラル	4
フランスの文化と社会	4	フランス文学史概説Ⅰ	4

(7) 他学部他学科学生の本学科科目の履修について

フランス文学科科目のうち、下記授業科目は他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
フランス語文法	4	エグゼルシスⅡ	4
フランス語文法演習	4	フランス語作文Ⅰ	4
エグゼルシスⅠ	4	エクスペリション・オラル	4
フランス語講読Ⅰ	4	フランス文学史概説Ⅰ	4
フランス語会話Ⅰ	4	フランス語中級文法	4
フランスの文化と社会	4	フランス語会話Ⅱ	4
フランス語精読	4	特別演習 (卒業論文)	8
フランス語速読	4		

2. 学科科目配置表
(2004・2005年度
入学者)

(1) フランス語科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	フ ラ ン ス 語 文 法	4	1	
	フ ラ ン ス 語 文 法 演 習	4	1	
	エ グ ゼ ル シ ス I	4	1	
	フ ラ ン ス 語 講 読 I	4	1	
	フ ラ ン ス 語 会 話 I	4	1	

(2) 専門科目

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	フ ラ ン ス の 文 化 と 社 会	4	1	
	フ ラ ン ス 語 精 読	4	2	
	フ ラ ン ス 語 速 読	4	2	
	エ グ ゼ ル シ ス II	4	2	
	フ ラ ン ス 語 作 文 I	4	2	
	エクスプレシオン・オラル	4	2	
	フ ラ ン ス 文 学 史 概 説 I	4	2	
選 必 (イ)	フ ラ ン ス 文 学 史 概 説 II	4	3	
	フ ラ ン ス 語 学 概 論	4	3	
	フ ラ ン ス 語 史	4	3	
選 必 (ロ)	講 読 演 習 (1)	4	3・4	
	(2)	4	3・4	
	(3)	4	3・4	
	(4)	4	3・4	
	(5)	4	3・4	
	(6)	4	3・4	
選 必 (ハ)	エクスプリカシオン (A)	4	3・4	
	エクスプリカシオン (B)	4	3・4	
	コミュニケーション I・II	8	3・4	
	コミュニケーション III	4	3・4	
	フ ラ ン ス 語 作 文 II	4	3・4	
	フ ラ ン ス 語 作 文 III	4	4	
	時 事 フ ラ ン ス 語 実 務 フ ラ ン ス 語	4	3・4	
選 必 (ニ)	フ ラ ン ス 文 学 特 講 (1)	4	3・4	
	(2)	4	3・4	
	(3)	4	3・4	
	(4)	4	3・4	
	(5)	4	3・4	
	(6)	4	3・4	
	(7)	4	3・4	

	(8)	4	3・4		
	フランス語学特講 (1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	(3)	4	3・4		
	フランス文化特講 (1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
選 必 (ホ)	フランス文学演習 (1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	(3)	4	3・4		
	(4)	4	3・4		
	(5)	4	3・4		
	(6)	4	3・4		
	(7)	4	3・4		
	(8)	4	3・4		
	(9)	4	3・4		
	(10)	4	3・4		
	(11)	4	3・4		
	(12)	4	3・4		
	フランス語学演習 (1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	(3)	4	3・4		
	(4)	4	3・4		
	フランス文化演習 (1)	4	3・4		
	(2)	4	3・4		
	自 由 選 択	基礎演習 A (1)~(5)	4	1	1年生のみ 2010年度まで開講
		基礎演習 B (1)~(5)	4	2	2年生のみ 2011年度まで開講
フランス語中級文法		4	2	※フランス語会話Ⅱを修得した場合は履修できません。	
フランス語会話Ⅱ		4	2		
※フランス語会話Ⅲ		4	3・4		
フランス語教授法		4	3・4		
特別演習 (卒業論文)		8	4		

【5】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位 (24単位)

- (イ) フランス文学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
- (ロ) 青山スタンダード科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)
- (ハ) 文学部共通科目
- (ニ) 文学部他学科・他学部開講の科目 (注1・注2)

注1) 英語科教育職員免許状取得予定者のみオーラル・イングリッシュ I、II および英作文 I を履修することができ、単位を修得した場合は自由選択科目24単位のうちに算入されます。

注2) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位の算入されるのは24単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

【3】 史学科履修について (2005年度入学者)

1. 卒業要件

(1) 卒業に必要な単位数について

卒業資格を得るためには、下表の各科目種別について定める単位数を修得しなければなりません。ここに示す単位数は各種別ごとの最低の単位数であり、それが1単位でも不足すると卒業は認められません。

(2) 学位について

文学部史学科に4年以上(ただし8年を限度とします)在学し、卒業に必要な要件を満たした者には、学位記をあたえ、学士(歴史学)の学位を授与します。

卒業に必要な最低単位数

科目の種類			必選の別	必要単位	
青 山 ス タ ン ダ ー ド 科 目	コ ア 科 目	教 養 コ ア	キリスト教理解関連科目〔領域A〕	必修	2
			人間理解関連科目〔領域B〕	選択必修	2
			社会理解関連科目〔領域C〕	選択必修	2
			自然理解関連科目〔領域D〕	選択必修	2
			歴史理解関連科目〔領域E〕	選択必修	2
	技 能 コ ア	言葉の技能〔領域F〕	必修	6	
		情報の技能〔領域H〕	必修	2	
	テ ー マ 別 科 目	〔領域A〕	必修	2	
		〔領域A〕～〔領域H〕	選択必修	6	
	目	小 計		必修	12
		選択必修	14		
外 国 語 科 目	外 国 語 I		必修	6	
学 科 科 目	日 本 史 コ ー ス		必修	32	
	考 古 学 コ ー ス		選択必修	24	
	東 洋 史 コ ー ス		必修	28	
	西 洋 史 コ ー ス		選択必修	24	
	芸 術 史 コ ー ス				
自 由 選 択 科 目	日 本 史 コ ー ス		選 択	40	
	考 古 学 コ ー ス				
	東 洋 史 コ ー ス			44	
	西 洋 史 コ ー ス 芸 術 史 コ ー ス				
総 計				128	

文学部史学科では2年次より5コース(日本史・東洋史・西洋史・考古学・芸術史)に分かれます。1年次後期に必ず所定の手続きを取ってください。

2. 最高履修制限単位

最高履修制限単位は次のとおりです。各年次ともこの単位を超えて履修することはできません。

なお、各年次においては、1科目以上の履修をこなしてはなりません。

第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	合 計
44	48	44	48	184

注) 中学校・高等学校の教育職員免許状の取得を希望する学生は、教職課程科目(P.218)を上記制限単位外で履修できます。なお、社会教育主事の資格を取得希望する学生は教育

原理を上記制限単位外で履修できます。

3. 進級条件

- (1) 1年次終了時に8単位以上修得しなければ2年次に進級できません。
 - (2) 2年次終了時に50単位以上修得しなければ3年次に進級できません。
- 注) (1)、(2)の修得単位には教職課程科目は含まれません。

4. 修得単位僅少者について

入学後の2年間(休学期間を除きます)で修得単位が32単位に満たない者は、成業の見込のない者として除籍されることがありますので、該当しないよう特に注意してください。

5. 授業科目履修にあたっての注意

相模原キャンパスにおいて開講されている1・2年次配置科目については、履修計画を立て、相模原キャンパスにて確実に履修してください。

6. 編入学者、転学部・転学科者について

- 編入学者、転学部・転学科者には、入学時の学年の履修条件が適用されます。
- (例)2005年度2年次編入学者、転学部・転学科者の場合——2004年度入学の一般学生と同じ条件を適用します。
- 2005年度3年次編入学者の場合——2003年度入学の一般学生と同じ履修条件を適用します。
- 注1) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学、転学部・転学科した年度より2年間に限り、最高履修制限単位を超えて、さらに8単位を履修することができます。
- 注2) 編入学者、転学部・転学科者は、編入学年度、転学部・転学科年度に限り、編入学年次、転学部・転学科年次以前配置の履修順序のある学科科目を同年次に履修することができます。

7. 外国人留学生の外国語科目の履修について

青山スタンダード科目/技能コア/言葉の技能〔領域F〕は、入学手続時に申請した科目を必ず履修してください。なお、履修方法は次のとおりです。

(1) 青山スタンダード科目/技能コア/言葉の技能(領域F)の必要単位(2単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 A	2	1	

注) 英語を外国語Iとして履修するように指定を受けた者は一般学生と同じ科目を2単位修得してください。

(2) 外国語Iの必要単位(6単位)

(太字は必修科目)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 語 初 級 B	2	1	
日 本 語 初 級 C	2	1	
日 本 語 中 級 A	2	2	どちらか1科目を選択必修
日 本 語 中 級 B	2	2	
日 本 語 上 級	2	3	

- 注1) 必修6単位を超えて修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。
- 注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は一般学生と同じ科目を6単位修得してください。

(3) 言葉の技能(領域F)(外国語Ⅱ)の必要単位(4単位)

母国語以外の下記科目のうちから修得してください。(配置表はP.139参照)

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、ロシア語、韓国語、英語

注1) 入学手続き時に申請した科目のⅡ、Ⅲ、会話およびインテンシブの単位を修得した場合は、テーマ別科目として卒業に必要な単位に算入されます。

注2) 各授業科目間の履修順序はつけません。ただし、1年次配置前期開講科目と後期開講科目の間にそれぞれ履修順序があり、前期開講科目の単位が修得できない時、後期開講科目の履修登録は自動的に削除されます。なお、各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注3) 英語を外国語Ⅰとして履修するように指定を受けた者は、日本語を外国語Ⅱとすることができます。この場合、英語は外国語Ⅱとはなりません。

注4) 入学手続き時に申請した科目以外の単位を修得した場合は、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。この場合、各授業科目間の履修順序はつけません。ただし各授業科目の履修年次に従って履修しなければなりません。

注5) 本学入学以前に、高等学校あるいは海外等ですでに学習したことのある者が、その学力をⅠ修了者に準ずると認定された場合、Ⅱの科目で卒業に必要な単位に充当することができます。詳細は、『学年初頭行事』を参照してください。

【4】 外国語科目履修方法および配置表

1. 外国語 I の履修方法 (1) 外国語 I の必要単位 (6 単位)

	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
必 修	英 語 講 読 I	2	1	
	英 語 講 読 II (週 2 回履修し、合計 4 単位取得のこと。)	2	2	
選 択	オーラル・イングリッシュ I	2	1	
	オーラル・イングリッシュ II	2	2	

注 1) 他学科の外国語 I は原則として履修できません (指定されたクラスで受講してください)。

注 2) オーラル・イングリッシュ I・II を履修し単位を修得した場合には、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されます。

(2) 履修順序

1	2
	1 を合格した場合のみ履修できます
オーラル・イングリッシュ I	オーラル・イングリッシュ II

【5】 史学科学科科目履修方法および配置表

1. 学科科目履修方法

(1) 学科科目の必要単位

必 修

日本史コース (32単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 日本史史料講読Ⅰ〔2〕 日本史史料講読Ⅱ〔2〕 古文書学〔4〕

東洋史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 東洋史原典講読Ⅰ〔2〕 東洋史原典講読Ⅱ〔2〕

西洋史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 西洋史原典講読Ⅰ〔2〕 西洋史原典講読Ⅱ〔2〕

考古学コース (32単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 考古学原典講読Ⅰ〔2〕 考古学原典講読Ⅱ〔2〕 考古学実習Ⅰ〔2〕
 考古学実習Ⅱ〔2〕

芸術史コース (28単位)

日本史概説〔2〕 東洋史概説〔2〕 西洋史概説〔2〕 考古学概説〔2〕
 芸術史概説〔2〕 史学概論〔2〕 基礎演習〔4〕 特別演習(卒業論文)〔8〕
 芸術史原典講読Ⅰ〔2〕注1) 芸術史原典講読Ⅱ〔2〕注2)

注1) 芸術史原典講読Ⅰは、日本史史料講読Ⅰまたは東洋史、西洋史、考古学の各コースの原典講読Ⅰのうちから各自の希望分野に応じて1つを選択とします。

注2) 芸術史原典講読Ⅱは、芸術史原典講読Ⅰで履修した分野と同じ分野のものを履修することとします。

選択必修 (24単位) 各コース共通

(イ) 各自の専攻コースの特講のうちから2科目8単位を選択必修とします。

(ロ) 他コースの特講または史学特講A、史学特講Bのうちから2科目8単位を選択必修とします。

注) 芸術史コース専攻者に限り、文学部共通科目(P.156・157参照)のうちから下記の科目を修得することで充足することもできます。

芸術文化論、日本美術史、東洋美術史、西洋美術史、日本文化史、東洋文化史、西洋文化史、東洋音楽史、西洋音楽史、古典ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ、ラテン語入門、ラテン語Ⅰ・Ⅱ

(ハ) 各自の専攻コースの演習のうちから2科目8単位を選択必修とします。これは3年次に1科目4単位、4年次に1科目4単位を履修することが望めます。3年次に1科目4単位を超えて修得した科目の単位は、自由選択科目に算入されます。

なお、調査研究旅行は3年次の演習に含まれ、必ず参加することを原則とします。

(2) 特別演習(卒業論文)について

(イ) 特別演習(卒業論文)は、年度初頭において履修登録科目を含め、その年度に卒業の見込みのあるものでなければ履修できません。また、史学科以外の教員を指導教員とすることはできません。

(ロ) 題目届を期限までに提出しない場合は、卒業論文を提出することができません。

(ハ) 論文に使用する表紙、その他詳細については、指導教員の指示に従って作成し、所

定の表紙を貼付し必要事項を記入してください。

- (ニ) 提出期限に遅れた場合はいかなる理由があっても一切受けません。
- (ホ) 提出後の論文の訂正はできません。
- (ヘ) 卒業論文には口述試験を課します。日時は別に指示します。
- (ト) 卒業論文「提出方法」について

題目提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出先……史学科研究室(題目の提出方法等については4年ガイダンスで指示)

論文提出日時……年度初頭に学生ポータル等で指示

提出先……学務部教務課

(3) 教職課程関連科目について

- (イ) 教職課程関連科目は教職課程の一分野である「教科に関する専門科目」として置く科目です。
- (ロ) 履修については、213ページ以下の「教職課程(教員免許状・各種資格)について」ならびに『教職課程履修の手引(第一部)』を参照してください。

(4) 同一科目の履修について

既に合格した科目を再度履修することはできません。

ただし、史学科の各コースの特講、演習および史学特講A、史学特講Bに限り同一科目であっても担当者が異なる場合、あるいは講義内容が異なる場合は履修することができます。

(5) 履修順序について

1	2
	1を合格した場合のみ履修できます
博物館実習Ⅰ 博物館概論	博物館実習Ⅱ

(6) 履修取消制度対象外の科目について

史学科学科科目のうち、下記授業科目は履修取消制度の対象外とします。

日本史・東洋史・西洋史・考古学・芸術史の各概説、史学概論、基礎演習、特別演習(卒業論文)、史料講読Ⅰ・Ⅱ、各原典講読Ⅰ・Ⅱ、古文書学、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、各演習、博物館学芸員関係科目

(7) 他学部他学科学生の本学科専門教育科目の履修について

史学科専門教育科目のうち、下記授業科目は、他学部他学科学生の履修を認めません。

授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位	授 業 科 目	単 位
日本史概説	2	東洋史原典講読Ⅰ	2	芸術史原典講読Ⅱ	2
東洋史概説	2	東洋史原典講読Ⅱ	2	※博物館実習Ⅰ	2
西洋史概説	2	西洋史原典講読Ⅰ	2	※博物館実習Ⅱ	2
※考古学概説	2	西洋史原典講読Ⅱ	2	日本史演習	4
芸術史概説	2	考古学原典講読Ⅰ	2	東洋史演習	4
基礎演習	4	考古学原典講読Ⅱ	2	西洋史演習	4
特別演習(卒業論文)	8	考古学実習Ⅰ	2	考古学演習	4
日本史史料講読Ⅰ	2	考古学実習Ⅱ	2	芸術史演習	4
日本史史料講読Ⅱ	2	芸術史原典講読Ⅰ	2	※博物館概論	2
				※博物館学各論	4

※の科目は、学芸員希望者は履修することができます。

(太字は必修科目)

(△印は隔年開講)

2. 史学科学科科目配置表

授 業 科 目		単 位	履 修 年 次	備 考
日 本 史 概 説		2	1	
東 洋 史 概 説		2	1	
西 洋 史 概 説		2	1	
考 古 学 概 説		2	1	
芸 術 史 概 説		2	1	
史 学 概 論		2	1	
基 礎 演 習		4	2	日本史コース 東洋史コース 西洋史コース 考古学コース 芸術史コース ※専攻コースのものを履修すること
特 別 演 習 (卒 業 論 文)		8	4	
日 本 史 ス	日 本 史 史 料 講 読 I	2	2	
	日 本 史 史 料 講 読 II	2	3	
	古 文 書 学	4	2	
東 洋 史 ス	東 洋 史 原 典 講 読 I	2	2	
	東 洋 史 原 典 講 読 II	2	3	
西 洋 史 ス	西 洋 史 原 典 講 読 I	2	2	
	西 洋 史 原 典 講 読 II	2	3	
考 古 学 ス	考 古 学 原 典 講 読 I	2	2	
	考 古 学 原 典 講 読 II	2	3	
	考 古 学 実 習 I	2	2	
	考 古 学 実 習 II	2	3	
芸 術 史 ス	芸 術 史 原 典 講 読 I	2	2	
	芸 術 史 原 典 講 読 II	2	3	
日 本 史 特 講 (1)		4	2	
(2)		4	3・4	
(3)		4	3・4	
(4)		4	3・4	
(5)		4	3・4	
(6)		4	3・4	
(7)		4	3・4	
東 洋 史 特 講 (1)		4	2	
(2)		4	3・4	
(3)		4	3・4	
(4)		4	3・4	
(5)		4	3・4	
西 洋 史 特 講 (1)		4	2	
(2)		4	3・4	

文学部史学科 (2005年度入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	備 考
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
(6)	4	3・4	
考 古 学 特 講 (1)	4	2	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
芸 術 史 特 講 (1)	4	2	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
日 本 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
東 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
西 洋 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
(5)	4	3・4	
考 古 学 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
芸 術 史 演 習 (1)	4	3・4	
(2)	4	3・4	
(3)	4	3・4	
(4)	4	3・4	
史 学 特 講 A (1)	4	1・2	
A (2)	4	1・2	
A (3)	4	3・4	
A (4)	4	3・4	
A (5)	4	3・4	
A (6)	4	3・4	2007年度まで開講
史 学 特 講 B (1)	4	1・2	
B (2)	4	1・2	
B (3)	4	1・2	

授 業 科 目		単 位	履 修 年 次	備 考	
B (4)		4	3・4	2007年度まで開講	
B (5)		4	3・4		
B (6)		4	3・4		
B (7)		4	3・4		
B (8)		4	3・4		
B (9)		4	3・4		
人 文 地 理 学 概 論		4	3・4		
博 物 館 概 論		2	3のみ		
博 物 館 学 各 論		4	3・4		
※ 博 物 館 実 習 I		2	3のみ		
※ 博 物 館 実 習 II		2	4	(隔週通年)	
教 職 課 程 関 連 科 目	経 済 地 理 学	4	2	2005年度まで開講	
	自 然 地 理 学	4	3・4		
	△水 文 学	4	3・4		
	△地 理 情 報 分 析 法	4	3・4		
	△気 象 学	4	3・4		
	△地 誌 学 概 論 (アメリカ地誌を含む)	4	3・4		
	△地 誌 学 概 論 (アジア地誌を含む)	4	3・4		
	△地 誌 学 概 論 (ヨーロッパ地誌を含む)	4	3・4		
	△地 誌 学 概 論 (日本地誌を含む)	4	3・4		
	法 律 学 概 説	4	3・4		
	憲 法	4	2		
	民 法 I	4	3・4		
	政 治 学 概 説	4	3・4		
	政 治 学 原 論	4	1・2		
	国 際 関 係 論	4	3・4		
	経 済 学 総 論	4	3・4		
	国 際 経 済 学	4	2		
	哲 学 史	4	3・4		
	△倫 理 学 概 説	4	3・4		
	宗 教 学	4	3・4		

注) 教職課程関連科目は、教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。なお、修得単位はP.174自由選択科目(ホ)文学部他学科・他学部の開講科目の扱いになります。

【6】 自由選択科目履修方法

1. 自由選択科目の必要 単位

日本史コース・考古学コース (40単位)

東洋史コース・西洋史コース・芸術史コース (44単位)

(イ) 史学科学科科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)

(ロ) 青山スタンダード科目 (必修および選択必修として修得した単位は除きます)

(ハ) 文学部共通科目

(ニ) 外国語 I 選択科目 (P.168参照)

(ホ) 文学部他学科・他学部開講の科目・教職課程関連科目 (注1)

(注1) 各年次の最高履修制限単位内で履修できますが、自由選択科目として卒業に必要な単位に算入されるのは12単位までです。履修する場合には、文学部他学科・他学部の履修制限に従ってください。

C. 他学部科目一覧表

他学部科目の履修について

他学部科目のうち本学部学生が履修可能な科目の一覧表を以下に掲載します。

履修については下記の点に注意してください。

1. 一覧表は他学部が本学部に対して履修可能としている科目を掲載しています。なお、「担当者氏名」及び「本年度休講」の掲載はしていませんので、講義内容および授業時間割表にて確認してください。履修希望科目が講義内容および授業時間割表に掲載されていない場合は本年度休講となっています。
また、年度により一覧表の科目のうち履修を認めないなどの措置をとることがあります。
2. 入学年度の記載がある場合は、履修可能な科目は同じ入学年度の科目のみ履修できます。掲載してある一覧表以前の入学生で他学部科目の履修を希望する学生は教務課で希望学部の授業要覧を閲覧し履修できるかどうかを確認してください。
3. 本学部では入学年度によって他学部科目の卒業要件単位に含まれる条件が異なる場合がありますので、授業要覧で確認のうえ履修してください。
4. 一覧表に掲載されている科目のうち、履修に制限がある場合は、開講学部の履修制限に従って履修してください。

教育人間科学部（2009年度以降入学者）

教育学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
人 間 形 成 学 総 論	2	1・2	日 本 教 育 史 I	2	1・2	日 本 教 育 史 II	2	1・2
西 洋 教 育 史 I	2	3・4	西 洋 教 育 史 II	2	3・4	教 育 史 特 殊 講 義	2	3・4
宗 教 教 育 学	2	2	発 達 と 文 化 A	2	3・4	発 達 と 文 化 B	2	3・4
教 育 哲 学 A	2	3・4	教 育 哲 学 B	2	3・4	教 育 学 特 論 A	2	3・4
教 育 学 特 論 B	2	3・4	教 育 社 会 学 総 論	2	1・2	比 較 発 達 社 会 学	2	1・2
生 涯 発 達 心 理 学 I	2	1・2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	1・2	キ ャ リ ア 教 育 A	2	2
キ ャ リ ア 教 育 B	2	3・4	家 庭 教 育 A	2	2	家 庭 教 育 B	2	2
比 較 教 育 学	2	3・4	異 文 化 理 解 教 育	2	3・4	老 年 学	2	3・4
教 育 学 特 論 C	2	3・4	教 育 学 特 論 D	2	3・4	社 会 福 祉 概 論	2	2
臨 床 心 理 学 概 論 I	2	2	臨 床 心 理 学 概 論 II	2	2	小 児 精 神 神 経 学	2	3・4
相 談 心 理 学 I	2	3・4	相 談 心 理 学 II	2	3・4	特 別 支 援 教 育	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	教 育 学 特 論 E	2	3・4
教 育 学 特 論 F	2	3・4	生 涯 学 習 概 論 I	2	2	生 涯 学 習 概 論 II	2	2
高 等 教 育 論 A	2	2	高 等 教 育 論 B	2	3・4	社 会 教 育 計 画 I	2	3・4
社 会 教 育 計 画 II	2	3・4	社 会 教 育 課 題 研 究	4	3・4	高 齢 化 社 会 と 教 育	2	3・4
青 年 期 と 教 育	2	3・4	ジ ェ ン ダ ー と 教 育	2	3・4	青 年 文 化 論	2	3・4
ボ ラ ン テ ィ ア 教 育 論	2	3・4	地 域 ネットワーキング論	2	3・4	ス ポ ー ツ ・ レ ク リ ー シ ョ ン 論	2	3・4
教 育 学 特 論 G	2	3・4	教 育 学 特 論 H	2	3・4	教 育 情 報 学 総 論	2	1・2
メ デ ィ ア ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 総 論	2	1・2	認 知 科 学 概 論	2	2	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2
視 聴 覚 教 育 メ デ ィ ア 論	2	3・4	イ ン タ ー フ ェ ー ス 論	2	3・4	知 的 表 現 論	2	3・4

他学部科目一覧表

教材開発論	2	3・4	学習指導と学校図書館	2	3・4	学校図書館メディア	2	3・4
情報メディア利用論	2	3・4	読書教育論	2	3・4	学習心理学Ⅰ	2	3・4
学習心理学Ⅱ	2	3・4	社会心理学Ⅰ	2	3・4	社会心理学Ⅱ	2	3・4
教育学特論Ⅰ	2	3・4	教育学特論Ⅱ	2	3・4	図書館情報学概論	2	2
図書館システムサービス論	2	2	図書館情報文化論	2	2	図書館システム経営論	2	3・4
情報メディア論A	2	2	情報メディア論B	2	3・4	情報メディア論C	2	3・4
児童サービス論	2	3・4	メディア組織法Ⅰ	2	3・4	メディア組織法Ⅱ	2	3・4
メディア組織法Ⅲ	2	3・4	情報サービス論Ⅰ	2	3・4	情報サービス論Ⅱ	2	3・4
情報サービス論Ⅲ (2012年度以降入学者)	2	3・4	情報検索法Ⅰ (2011年度以前入学者)	2	3・4	情報検索法Ⅱ (2011年度以前入学者)	2	3・4
情報技術論 (2012年度以降入学者)	2	2・3・4	図書館情報学実習	2	4	教育学特論K	2	3・4
教育学特論L	2	3・4	幼児教育原理A	2	1・2	幼児教育原理B	2	1・2
児童福祉論	2	1・2	臨床保育学A	2	2	臨床保育学B	2	2
小児保健論	2	3・4	教育学特論M	2	3・4	教育学特論N	2	3・4
小児栄養学	2	3・4	教育学特論O	2	3・4	教育学特論P	2	3・4
学校教育学総論	2	1・2	初等教育原理A	2	1・2	初等教育原理B	2	1・2
学校心理学	2	3・4	教育学特論Q	2	3・4	教育学特論R	2	3・4
初等英語概説A	2	3・4	初等英語概説B	2	3・4	教育学特論S	2	3・4
教育学特論T	2	3・4	インストラクショナルデザイン総論	2	3・4	教育システムのためのITファンダメンタル	2	3・4
コンピュータ利用教育と学習理論	2	3・4	コンテンツ開発演習	2	3・4	eラーニングシステムマネジメント演習	2	3・4
コース実施と学習支援演習	2	3・4	オンライン調査解析演習	2	3・4	協調学習デザイン演習	2	3・4
キリスト教学校論	2	3・4	聖書の世界(旧約)	2	3・4	聖書の世界(新約)	2	3・4
キリスト教の教理	2	3・4	キリスト教と法思想	2	3・4	宗教と社会	2	3・4
礼拝学	2	3・4	キリスト教メンタルヘルス	2	3・4			

心理学科

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
心 理 統 計 実 習	2	3・4	哲 学 的 認 識 論	4	3・4	心 の 哲 学	4	3・4
心 理 学 史	2	3・4	学 習 心 理 学	4	3・4	発 達 心 理 学	4	1・2
生 涯 発 達 心 理 学 I	2	2	生 涯 発 達 心 理 学 II	2	2	生 涯 発 達 論	2	3・4
知 覚 心 理 学	2	2	認 知 心 理 学	4	3・4	音 楽 心 理 学	2	3・4
感 情 心 理 学	2	3・4	神 経 心 理 学	2	3・4	人 格 心 理 学	4	3・4
犯 罪 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学	4	3・4	社 会 心 理 学 I	2	3・4
社 会 心 理 学 II	2	3・4	産 業 心 理 学	2	3・4	広 告 心 理 学	2	3・4
ノンバーバル・コミュニケーションI	2	3・4	ノンバーバル・コミュニケーションII	2	3・4	応用社会心理学特講I	2	3・4
応用社会心理学特講II	2	3・4	応用社会心理学特講III	2	3・4	応用社会心理学特講IV	2	3・4
応用社会心理学特講V	2	3・4	応用社会心理学特講VI	2	3・4	心 理 学 特 講 A	2	3・4
学 校 心 理 学	2	3・4	臨 床 心 理 学	4	2	臨 床 心 理 学 I	2	3・4
臨 床 心 理 学 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 I	2	2	臨 床 心 理 学 特 講	4	3・4
精 神 分 析 学	2	3・4	精 神 医 学	4	3・4	音 楽 療 法	2	3・4
相 談 心 理 学	4	3・4	家 族 心 理 学	2	3・4	健 康 心 理 学	2	3・4
コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	心 理 面 接 法	4	3・4
応 用 行 動 分 析	2	3・4	身 体 医 学	2	3・4	心 身 医 学	2	3・4
薬 理 学	2	3・4	脳 生 理 学	2	3・4	精 神 衛 生	2	3・4
母 子 保 健	2	3・4	成 人 ・ 高 齢 者 保 健	2	3・4	精 神 保 健 福 祉	2	3・4
保 健 ・ 医 療 ・ 福 祉 ・ 制 度 論	2	3・4	社 会 保 障 制 度 と 関 連 法 規	2	3・4	心 理 学 原 書 講 読 A	2	3・4
心 理 学 原 書 講 読 B	2	3・4						

他学部科目一覧表

経済学部

経済学科 (2011・2012年度入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
統 計 学 概 論 I	2	1・2	統 計 学 概 論 II	2	1・2	経 済 数 学 入 門 I	2	1・2
経 済 数 学 入 門 II	2	1・2	金 融 論 I	2	2	金 融 論 II	2	2
国 際 経 済 学 I	2	2	国 際 経 済 学 II	2	2	経 済 学 史 I	2	2
経 済 学 史 II	2	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 I	2	3・4	応 用 ミ ク ロ 経 済 学 II	2	3・4
応 用 マ ク ロ 経 済 学 I	2	3・4	応 用 マ ク ロ 経 済 学 II	2	3・4	経 済 動 学 I	2	3・4
経 済 動 学 II	2	3・4	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 I	2	3・4	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学 II	2	3・4
計 量 経 済 学 I	2	3・4	計 量 経 済 学 II	2	3・4	経 済 統 計 I	2	3・4
経 済 統 計 II	2	3・4	数 理 統 計 I	2	3・4	数 理 統 計 II	2	3・4
経 済 数 学 I	2	3・4	経 済 数 学 II	2	3・4	社 会 政 策 論 I	2	3・4
社 会 政 策 論 II	2	3・4	公 共 経 済 学 I	2	3・4	公 共 経 済 学 II	2	3・4
社 会 保 障 論 I	2	3・4	社 会 保 障 論 II	2	3・4	産 業 論 (航 空 事 業 I)	2	3・4
産 業 論 (航 空 事 業 II)	2	3・4	産 業 論 (損 害 保 険 業)	2	3・4	産 業 論 (税 法)	2	3・4
産 業 論 (証 券 ビ ジ ネ ス)	2	3・4	産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト I)	2	3・4	産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト II)	2	3・4
労 働 経 済 論 I	2	3・4	労 働 経 済 論 II	2	3・4	産 業 組 織 論 I	2	3・4
産 業 組 織 論 II	2	3・4	フ ァ イ ナ ン ス 論 基 礎	2	2	フ ァ イ ナ ン ス 論	2	3・4
国 際 金 融 論 I	2	3・4	国 際 金 融 論 II	2	3・4	日 本 経 済 史 I	2	3・4
日 本 経 済 史 II	2	3・4	欧 米 経 済 史 I	2	3・4	欧 米 経 済 史 II	2	3・4
東 洋 経 済 史 I	2	3・4	東 洋 経 済 史 II	2	3・4	経 済 思 想 史 I	2	3・4
経 済 思 想 史 II	2	3・4	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 I	2	3・4	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史 II	2	3・4
日 本 経 済 論 I	2	3・4	日 本 経 済 論 II	2	3・4	世 界 経 済 論 I	2	3・4
世 界 経 済 論 II	2	3・4	各 国 経 済 論 A I	2	3・4	各 国 経 済 論 A II	2	3・4
各 国 経 済 論 B I	2	3・4	各 国 経 済 論 B II	2	3・4	交 通 経 済 学 I	2	3・4
交 通 経 済 学 II	2	3・4	農 業 経 済 論 I	2	3・4	農 業 経 済 論 II	2	3・4
環 境 経 済 学 I	2	3・4	環 境 経 済 学 II	2	3・4	憲 法	4	2
民 法 I	4	3・4	民 法 II	4	3・4	商 法 I	4	3・4
商 法 II	4	3・4	経 済 法	4	3・4	労 働 法	4	3・4
簿 記 論	4	1・2	経 営 史 I	2	3・4	経 営 史 II	2	3・4

経済学科（2010年度以前入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
統 計 学 概 論	4	1・2	経 済 数 学 入 門	4	1・2	金 融 論	4	2
国 際 経 済 学	4	2	経 済 学 史	4	2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学	4	3・4
応 用 マ ク ロ 経 済 学	4	3・4	経 済 動 学	4	3・4	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学	4	3・4
計 量 経 済 学	4	3・4	経 済 統 計	4	3・4	数 理 統 計	4	3・4
経 済 数 学 I	2	3・4	経 済 数 学 II	2	3・4	社 会 政 策 論	4	3・4
公 共 経 済 学	4	3・4	社 会 保 障 論	4	3・4	産 業 論 (航 空 事 業 I)	2	3・4
産 業 論 (航 空 事 業 II)	2	3・4	産 業 論 (損 害 保 険 業)	2	3・4	産 業 論 (税 法)	2	3・4
産 業 論 (証 券 ビ ジ ネ ス)	2	3・4	産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 I)	2	3・4	産 業 論 (知 的 エ ン タ テ イ メ ン ト 産 業 II)	2	3・4
労 働 経 済 論	4	3・4	産 業 組 織 論	4	3・4	フ ァ イ ナ ン ス 論	4	3・4
国 際 金 融 論	4	3・4	日 本 経 済 史	4	3・4	欧 米 経 済 史	4	3・4
東 洋 経 済 史	4	3・4	経 済 思 想 史	4	3・4	キ リ ス ト 教 社 会 思 想 史	4	3・4
日 本 経 済 論	4	3・4	世 界 経 済 論	4	3・4	各 国 経 済 論 A	4	3・4
各 国 経 済 論 B	4	3・4	交 通 経 済 学	4	3・4	農 業 経 済 論	4	3・4
環 境 経 済 学	4	3・4	憲 法	4	2	民 法 I	4	3・4
民 法 II	4	3・4	商 法 I	4	3・4	商 法 II	4	3・4
経 済 法	4	3・4	労 働 法	4	3・4	簿 記 論	4	1・2
経 営 史 (2008年度以前入学者)	4	3・4	経 営 史 I (2009年度以降入学者)	2	3・4	経 営 史 II (2009年度以降入学者)	2	3・4

現代経済デザイン学科（2008年度以降入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
公 的 規 制 の 経 済 学	2	3・4	N P O 論 A	2	3・4	契 約 の 経 済 学	2	3・4
公 共 政 策 の 経 済 学	2	3・4	公 共 選 択 論	2	3・4	N P O 論 B	2	3・4
政 策 と 評 価 A	2	3・4	法 と 経 済 学	2	3・4	都 市 再 生 論	2	3・4
ま ち づ くり と 都 市 計 画	2	3・4	住 宅 と 不 動 産 の 経 済 学	2	3・4	郊 外 地 域 論	2	3・4
地 域 人 口 論	2	3・4	経 済 地 理	2	2	経 済 地 誌	2	2
地 方 財 政 の 経 済 学 I	2	3・4	地 方 財 政 の 経 済 学 II	2	3・4	開 発 経 済 学	2	3・4
政 策 と 評 価 B	2	3・4	地 域 経 済 学 II	2	3・4	都 市 経 済 学	2	3・4

他学部科目一覧表

法学部

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
裁 判 と 法	2	1・2	行 政 と 法	2	1・2	現 代 弁 護 士 論	2	1・2
企 業 と 法	2	1・2	ア メ リ カ の 社 会 と 法	2	1・2	中 国 の 社 会 と 法	2	1・2
労 働 と 法	2	1・2	市 民 生 活 と 税 法	2	1・2	イ ン タ ー ネ ッ ト と 法	2	1・2
憲 法 I	4	1	憲 法 II	4	2	比 較 憲 法	4	3・4
立 法 学 入 門	2	3・4	憲 法 特 殊 講 義	2	1・2	言 論 法	4	3・4
行 政 法 I	4	3・4	行 政 法 II	4	3・4	行 政 法 III	2	3・4
地 方 自 治 法	4	3・4	教 育 法	4	3・4	税 法	4	3・4
経 済 法	4	3・4	民 法 I	4	1	民 法 II	4	2
民 法 III	4	2	民 法 IV	4	3・4	民 法 V	4	3・4
借 地 借 家 法	2	3・4	※3 知 的 財 産 法 I	2	3・4	※3 知 的 財 産 法 II	2	3・4
※4 知 的 財 産 法 III	2	3・4	※4 知 的 財 産 法 IV	2	3・4	※1 登 記 法	2	3・4
※1 不 動 産 法	2	3・4	民 事 訴 訟 法 I	4	3・4	民 事 訴 訟 法 II	4	3・4
破 産 法	4	3・4	刑 法 I	4	2	刑 法 II	4	3・4
刑 事 訴 訟 法	4	3・4	刑 事 政 策	4	3・4	商 法 (手 形 法 ・ 小 切 手 法)	4	3・4
商 法 (保 険 法)	4	3・4	商 法 (海 商 法 ・ 航 空 法)	4	3・4	※2 企 業 法 務	2	3・4
※5 金 融 商 品 取 引 法	2	3・4	西 洋 法 史 学	4	3・4	国 際 社 会 と 法	2	1・2
法 思 想 史	4	1・2	法 哲 学	4	3・4	法 社 会 学	4	3・4
ロ ー マ 法	4	3・4	日 本 法 史 学	4	1・2	外 国 法 入 門	4	3・4
イ ギ リ ス 法	4	3・4	ア メ リ カ 法 (刑 法 ・ 刑 事 訴 訟 法)	2	3・4	ド イ ツ 法	4	3・4
フ ラ ン ス 法	4	3・4	※6 ア メ リ カ 法 (憲 法 ・ 司 法 制 度 論 I)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (憲 法 ・ 司 法 制 度 論 II)	2	3・4
ア メ リ カ 法 (契 約 法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (財 産 法 ・ 担 保 付 取 引 論)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (知 的 財 産 法 論)	2	3・4
ア メ リ カ 法 (不 法 行 為 法 ・ PL 法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (家 族 法)	2	3・4	ア メ リ カ 法 (会 社 法 ・ 商 法)	2	3・4
ア メ リ カ 法 入 門	2	3・4	E U 法	4	3・4	ラ テ ン ア メ リ カ の 法	2	3・4
※7 中 国 法 I	2	3・4	※7 中 国 法 II	2	3・4	中 国 法 III	2	3・4
中 国 法 IV	2	3・4	※8 国 際 私 法 I	2	3・4	※8 国 際 私 法 II	2	3・4
国 際 取 引 法 I	2	3・4	国 際 取 引 法 II	2	3・4	国 際 取 引 法 III	2	3・4
国 際 法 I	4	3・4	国 際 法 II	4	3・4	雇 用 関 係 法	4	3・4
労 使 関 係 法	2	3・4	社 会 保 障 法	4	3・4	雇 用 政 策 法	2	3・4
国 際 労 働 法	2	3・4	公 務 員 労 働 法	2	3・4	金 融 ・ 商 品 先 物 取 引 法	4	3・4
銀 行 取 引 法	2	3・4	※9 消 費 者 法	2	3・4	環 境 法	4	3・4
政 治 学 原 論	4	1・2	日 本 政 治 史	4	1・2	政 治 過 程 論	4	3・4
比 較 政 治 学	4	3・4	政 治 思 想 史	4	3・4	西 洋 政 治 史	4	3・4
外 交 史	4	3・4	国 際 関 係 論	4	3・4	行 政 学	4	3・4
※10 NPO と 国 際 公 共 政 策	2	3・4	英 語 文 献 講 読	4	3・4	ド イ ツ 語 文 献 講 読	4	3・4

フランス語文献講読	4	3・4	中国法文献講読	4	3・4	経済と法	2	3・4
国際金融法	2	3・4	ファイナンスとデリバティブ	2	3・4			

※1：2002年度以前入学者履修不可

※2：2002年度以前入学者・「企業法務（経営学部科目・4単位）」を修得済の者は履修不可

※3：「知的所有権法Ⅰ」・「知的財産法Ⅰ（4単位）」を修得済の者は履修不可

※4：「知的所有権法Ⅱ」・「知的財産法Ⅱ（4単位）」を修得済の者は履修不可

※5：「証券取引法」を修得済の者は履修不可

※6：「アメリカ法（憲法・司法制度論）」を修得済の者は履修不可

※7：「アジア法」を修得済の者は履修不可

※8：「国際私法」を修得済の者は履修不可

※9：「消費者保護法」を修得済の者は履修不可

※10：「NPOと公共政策」を修得済の者は履修不可

上記科目は、法学部成績評価基準（法学部要覧又は法学部 HP 参照）にのっとり成績評価をいたします。

他学部科目一覧表

経営学部 (2011・2012年度入学者)

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
事 業 戦 略 論 I	2	2	事 業 戦 略 論 II	2	2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論 I	2	2
マ ー ケ テ ィ ン グ 論 II	2	2	財 務 会 計 論 I	2	2	財 務 会 計 論 II	2	2
経営データ分析のための 基礎解析入門 I	2	1・2	経営データ分析のための 基礎解析入門 II	2	1・2	経営データ分析のための 線形代数入門 I	2	1・2
経営データ分析のための 線形代数入門 II	2	1・2	フ ァ イ ナ ン ス I	2	2	フ ァ イ ナ ン ス II	2	2
キ ャ リ ア 開 発 V	2	3・4	経 営 史 I	2	2	経 営 史 II	2	2
企 業 法 務 I	2	3・4	企 業 法 務 II	2	3・4	経 営 戦 略 論 I	2	3・4
経 営 戦 略 論 II	2	3・4	経 営 組 織 論 I	2	2	経 営 組 織 論 II	2	2
組 織 心 理 学 I	2	3・4	組 織 心 理 学 II	2	3・4	人 材 育 成 論 I	2	3・4
人 材 育 成 論 II	2	3・4	人 的 資 源 管 理 論 I	2	3・4	人 的 資 源 管 理 論 II	2	3・4
サプライチェーン・マネジメントI	2	3・4	サプライチェーン・マネジメントII	2	3・4	事 業 創 造 戦 略 I	2	3・4
事 業 創 造 戦 略 II	2	3・4	経営データ分析基礎I	2	1・2	経営データ分析基礎II	2	1・2
経営データ分析応用I	2	3・4	経営データ分析応用II	2	3・4	経営情報システム論I	2	3・4
経営情報システム論II	2	3・4	マネジメントサイエンスI	2	3・4	マネジメントサイエンスII	2	3・4
産 業 労 働 衛 生 論	2	3・4	医 療 経 営 論	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 I	2	3・4
戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 II	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 III	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 IV	2	3・4
競 争 戦 略 論 I	2	3・4	競 争 戦 略 論 II	2	3・4	組 織 行 動 論 I	2	3・4
組 織 行 動 論 II	2	3・4	中 級 簿 記 I	2	2	中 級 簿 記 II	2	2
企 業 評 価 論 I	2	3・4	企 業 評 価 論 II	2	3・4	実 証 会 計 論 I	2	3・4
実 証 会 計 論 II	2	3・4	会 計 情 報 論 I	2	3・4	会 計 情 報 論 II	2	3・4
財 務 分 析 論 I	2	3・4	財 務 分 析 論 II	2	3・4	制 度 会 計 論 I	2	2
制 度 会 計 論 II	2	2	国 際 会 計 論 I	2	2	国 際 会 計 論 II	2	2
税 務 会 計 論 I	2	3・4	税 務 会 計 論 II	2	3・4	監 査 論 I	2	3・4
監 査 論 II	2	3・4	原 価 計 算 論	2	2	コ ス ト マ ネ ジ メ ン ト	2	3・4
意 思 決 定 会 計 論	2	2	予 算 管 理 論	2	2	戦 略 管 理 会 計 I	2	2
戦 略 管 理 会 計 II	2	2	財 務 管 理 論 I	2	2	財 務 管 理 論 II	2	2
証 券 投 資 論 I	2	2	証 券 投 資 論 II	2	2	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 I	2	3・4
会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 II	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 III	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 IV	2	3・4
統合マーケティングコミュニケーション	2	3・4	広 告 論 I	2	2	広 告 論 II	2	2
文 化 創 造 マ ー ケ テ ィ ン グ I	2	2	文 化 創 造 マ ー ケ テ ィ ン グ II	2	2	消 費 者 行 動 論	2	3・4
ブ ラ ン ド 戦 略 論	2	3・4	サ ー ビ ス マ ー ケ テ ィ ン グ	2	3・4	国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ	2	3・4
商 業 英 語	4	3・4	商 業 英 語 論	4	3・4	貿 易 商 務 論	4	3・4
損 害 保 険 論	4	3・4	国 際 貿 易 論 I	2	2	国 際 貿 易 論 II	2	2
交 通 論 I	2	3・4	交 通 論 II	2	3・4	金 融 市 場 論 I	2	3・4
金 融 市 場 論 II	2	3・4	市 場 シ ス テ ム 論 I	2	2	市 場 シ ス テ ム 論 II	2	2

リスク・マネジメント論Ⅰ	2	3・4	リスク・マネジメント論Ⅱ	2	3・4	現代日本産業史	4	3・4
社会情報ネットワーク論Ⅰ	2	3・4	社会情報ネットワーク論Ⅱ	2	3・4	流通情報システム論Ⅰ	2	2
流通情報システム論Ⅱ	2	2	流通政策Ⅰ	2	3・4	流通政策Ⅱ	2	3・4
国際経営論Ⅰ	2	3・4	国際経営論Ⅱ	2	3・4	市場システム特論Ⅰ	2	3・4
市場システム特論Ⅱ	2	3・4	市場システム特論Ⅲ	2	3・4	市場システム特論Ⅳ	2	3・4
イギリス文化論Ⅰ	2	3・4	イギリス文化論Ⅱ	2	3・4	英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3・4
英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3・4	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3・4	ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3・4
韓国の経営文化Ⅰ	2	3・4	韓国の経営文化Ⅱ	2	3・4	アメリカ文化論Ⅰ	2	3・4
アメリカ文化論Ⅱ	2	3・4	世界の言語文化Ⅰ	2	3・4	世界の言語文化Ⅱ	2	3・4
Globalization and Emerging CountriesⅠ	2	3・4	Globalization and Emerging CountriesⅡ	2	3・4	経済原論	4	2
金融組織論	4	3・4	民法Ⅰ	4	3・4	民法Ⅱ	4	3・4
商法Ⅰ	4	3・4	商法Ⅱ	4	3・4	経済法	4	3・4
労働法	4	3・4	国際法	4	3・4			

他学部科目一覧表

経営学部（2009・2010年度入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
事 業 戦 略 論 I	2	2	事 業 戦 略 論 II	2	2	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	4	2
財 務 会 計 論	4	2	経営データ分析のための 基礎解析入門 I	2	1・2	経営データ分析のための 基礎解析入門 II	2	1・2
経営データ分析のための 線形代数入門 I	2	1・2	経営データ分析のための 線形代数入門 II	2	1・2	フ ァ イ ナ ン ス I	2	2
フ ァ イ ナ ン ス II	2	2	キ ャ リ ア 開 発 V	2	3・4	経 営 史 I	2	3・4
経 営 史 II	2	3・4	企 業 法 務 I	2	3・4	企 業 法 務 II	2	3・4
経 営 戦 略 論 I	2	3・4	経 営 戦 略 論 II	2	3・4	経 営 組 織 論 I	2	3・4
経 営 組 織 論 II	2	3・4	組 織 心 理 学 I	2	3・4	組 織 心 理 学 II	2	3・4
人 材 育 成 論 I	2	3・4	人 材 育 成 論 II	2	3・4	人 的 資 源 管 理 論 I	2	3・4
人 的 資 源 管 理 論 II	2	3・4	サ プ ラ イ チ ェ ー ン ・ マ ネ ジ メ ン ト I	2	3・4	サ プ ラ イ チ ェ ー ン ・ マ ネ ジ メ ン ト II	2	3・4
事 業 創 造 戦 略 I	2	3・4	事 業 創 造 戦 略 II	2	3・4	経 営 デ ー タ 分 析 基 礎 I	2	1・2
経 営 デ ー タ 分 析 基 礎 II	2	1・2	経 営 デ ー タ 分 析 応 用 I	2	3・4	経 営 デ ー タ 分 析 応 用 II	2	3・4
経 営 情 報 シ ス テ ム 論 I	2	3・4	経 営 情 報 シ ス テ ム 論 II	2	3・4	マ ネ ジ メ ン ト サ イ エ ン ス I	2	3・4
マ ネ ジ メ ン ト サ イ エ ン ス II	2	3・4	産 業 労 働 衛 生 論	2	3・4	医 療 経 営 論	2	3・4
戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 I	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 II	2	3・4	戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 III	2	3・4
戦 略 ・ マ ネ ジ メ ン ト 特 論 IV	2	3・4	競 争 戦 略 論 I	2	3・4	競 争 戦 略 論 II	2	3・4
組 織 行 動 論 I	2	3・4	組 織 行 動 論 II	2	3・4	簿 記 論 II	4	3・4
企 業 評 価 論 I	2	3・4	企 業 評 価 論 II	2	3・4	実 証 会 計 論 I	2	3・4
実 証 会 計 論 II	2	3・4	会 計 情 報 論 I	2	3・4	会 計 情 報 論 II	2	3・4
財 務 分 析 論 I	2	3・4	財 務 分 析 論 II	2	3・4	制 度 会 計 論 I	2	3・4
制 度 会 計 論 II	2	3・4	国 際 会 計 論 I	2	3・4	国 際 会 計 論 II	2	3・4
税 務 会 計 論 I	2	3・4	税 務 会 計 論 II	2	3・4	監 査 論 I	2	3・4
監 査 論 II	2	3・4	原 価 計 算 論	2	3・4	コ ス ト マ ネ ジ メ ン ト	2	3・4
意 思 決 定 会 計 論	2	3・4	予 算 管 理 論	2	3・4	戦 略 管 理 会 計 I	2	3・4
戦 略 管 理 会 計 II	2	3・4	財 務 管 理 論 I	2	3・4	財 務 管 理 論 II	2	3・4
証 券 投 資 論 I	2	3・4	証 券 投 資 論 II	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 I	2	3・4
会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 II	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 III	2	3・4	会 計 ・ フ ァ イ ナ ン ス 特 論 IV	2	3・4
統 合 マ ー ケ テ ィ ン グ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	2	3・4	広 告 論	4	3・4	文 化 創 造 マ ー ケ テ ィ ン グ I	2	3・4
文 化 創 造 マ ー ケ テ ィ ン グ II	2	3・4	消 費 者 行 動 論	2	3・4	ブ ラ ン ド 戦 略 論	2	3・4
サ ー ビ ス マ ー ケ テ ィ ン グ	2	3・4	国 際 マ ー ケ テ ィ ン グ	2	3・4	商 業 英 語	4	3・4
商 業 英 語 論	4	3・4	貿 易 商 務 論	4	3・4	損 害 保 険 論	4	3・4
国 際 貿 易 論 I	2	3・4	国 際 貿 易 論 II	2	3・4	交 通 論	4	3・4
金 融 市 場 論 I	2	3・4	金 融 市 場 論 II	2	3・4	市 場 シ ス テ ム 論 I	2	3・4
市 場 シ ス テ ム 論 II	2	3・4	リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 論 I	2	3・4	リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 論 II	2	3・4
現 代 日 本 産 業 史	4	3・4	社 会 情 報 ネットワーク論 I	2	3・4	社 会 情 報 ネットワーク論 II	2	3・4

流通情報システム論Ⅰ	2	3・4	流通情報システム論Ⅱ	2	3・4	流通政策Ⅰ	2	3・4
流通政策Ⅱ	2	3・4	国際経営論Ⅰ	2	3・4	国際経営論Ⅱ	2	3・4
市場システム特論Ⅰ	2	3・4	市場システム特論Ⅱ	2	3・4	市場システム特論Ⅲ	2	3・4
市場システム特論Ⅳ	2	3・4	イギリス文化論Ⅰ	2	3・4	イギリス文化論Ⅱ	2	3・4
英語圏社会・文化研究Ⅰ	2	3・4	英語圏社会・文化研究Ⅱ	2	3・4	ユダヤ文化とビジネスⅠ	2	3・4
ユダヤ文化とビジネスⅡ	2	3・4	韓国の経営文化Ⅰ	2	3・4	韓国の経営文化Ⅱ	2	3・4
アメリカ文化論Ⅰ	2	3・4	アメリカ文化論Ⅱ	2	3・4	世界の言語文化Ⅰ	2	3・4
世界の言語文化Ⅱ	2	3・4	Globalization and Emerging CountriesⅠ	2	3・4	Globalization and Emerging CountriesⅡ	2	3・4
経済原論	4	2	経済政策論	4	3・4	財政学	4	3・4
経済史概論	4	2	日本経済論	4	3・4	国際経済学	4	2
産業組織論	4	3・4	金融論	4	2	金融組織論	4	3・4
民法Ⅰ	4	3・4	民法Ⅱ	4	3・4	商法Ⅰ	4	3・4
商法Ⅱ	4	3・4	経済法	4	3・4	労働法	4	3・4
国際法	4	3・4						

他学部科目一覧表

経営学部（2008年度以前入学者）

授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次	授 業 科 目	単位	配置年次
経営データ分析入門Ⅰ	4	1・2	経営データ分析入門Ⅱ	4	1・2	経営データ分析Ⅰ	4	1・2
現代企業論	4	2	マーケティング論	4	2	財務会計論	4	2
企業法務	4	3・4	経営戦略論	4	3・4	事業創造戦略	4	3・4
経営組織論	4	3・4	組織心理学	4	3・4	人的資源管理論	4	3・4
事業戦略評価	4	3・4	サプライチェーン・マネジメント	4	3・4	財務管理論	4	3・4
投資行動論	4	3・4	経営データ分析Ⅱ	4	3・4	経営情報システム論	4	3・4
インフォメーションマネジメントⅠ	4	3・4	インフォメーションマネジメントⅡ	4	3・4	マネジメントサイエンスⅠ	2	3・4
マネジメントサイエンスⅡ	2	3・4	文化産業マーケティング論Ⅰ	2	3・4	文化産業マーケティング論Ⅱ	2	3・4
消費者行動論	2	3・4	製品戦略論	2	3・4	統合マーケティング コミュニケーション論	2	3・4
サービスマーケティング論	2	3・4	国際マーケティング論	2	3・4	市場システム論	4	3・4
金融市場論	4	3・4	リスク・マネジメント論	4	3・4	広告論	4	3・4
交通論	4	3・4	国際貿易論	4	3・4	貿易商務論	4	3・4
商業英語論	4	3・4	流通政策	4	3・4	簿記論Ⅱ	4	3・4
原価計算論	2	3・4	連結会計論	2	3・4	制度会計論	2	3・4
会計監査論	4	3・4	税務会計論	4	3・4	国際会計論	4	3・4
意思決定会計論	2	3・4	予算管理論	2	3・4	原価管理論	2	3・4
会計情報論	4	3・4	財務分析論	4	3・4	経営学特殊講義Ⅰ (人材育成論Ⅰ)	2	3・4
経営学特殊講義Ⅱ (人材育成論Ⅱ)	2	3・4	商学特殊講義Ⅰ (マーケティング・プロフェッショナル実践Ⅰ)	2	3・4	商学特殊講義Ⅱ (マーケティング・プロフェッショナル実践Ⅱ)	2	3・4
会計学特殊講義Ⅰ (企業評価論Ⅰ)	2	3・4	会計学特殊講義Ⅱ (企業評価論Ⅱ)	2	3・4	会計学特殊講義Ⅲ (国際会計論)	2	3・4
会計学特殊講義Ⅳ (会計学文献研究)	2	3・4	企業と社会	2	3・4	技術と経営	2	3・4
経営組織と個人	2	3・4	経営と文化	2	3・4	経営と法	2	3・4
経済原論	4	2	経済政策論	4	3・4	財政学	4	3・4
経済史概論	4	2	日本経済論	4	3・4	国際経済学	4	2
産業組織論	4	3・4	金融論	4	2	金融組織論	4	3・4
民法Ⅰ	4	3・4	民法Ⅱ	4	3・4	商法Ⅰ	4	3・4
商法Ⅱ	4	3・4	経済法	4	3・4	労働法	4	3・4
国際法	4	3・4						

国際政治経済学部（2005年度以前入学者）

国際政治経済学部は、学科科目 B 群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	プリゼミ
演習Ⅰ・Ⅱ	文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	通訳の理論と方法Ⅰ・Ⅱ
翻訳の理論と方法Ⅰ・Ⅱ	英語レポート・論文作成Ⅰ・Ⅱ	Thesis WritingⅠ・Ⅱ
国際ビジネス・コミュニケーションⅠ・Ⅱ	アンケート・社会調査の方法	言語科学特殊講義Ⅰ・Ⅱ
民法概論Ⅰ・Ⅱ	国際私法Ⅰ・Ⅱ	国連研究Ⅱ
日本経済と証券ビジネス	コミュニケーション研究法の全体像	
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目		

国際政治経済学部（2006年度以降入学者）

国際政治経済学部は、学科科目 B 群科目の履修を他学部の学生に認めています。ただし、以下の一覧に掲載する科目については、履修を認めていません。

【国際政治経済学部生以外の学部生に履修を許可しない科目の一覧】

授 業 科 目	授 業 科 目	授 業 科 目
国際政治学特殊講義Ⅲ	国際経済学特殊講義Ⅲ	外国書（フランス語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ドイツ語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（スペイン語）講読Ⅰ・Ⅱ	外国書（中国語）講読Ⅰ・Ⅱ
外国書（ロシア語）講読Ⅰ・Ⅱ	インターンシップ	演習ⅠA・ⅠB・Ⅱ
通訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	翻訳の理論と実践Ⅰ・Ⅱ	国際ビジネス・コミュニケーション（Ⅰ）・（Ⅱ）
アンケート・社会調査の方法	言語の普遍性	情報と組織の経済学Ⅰ
日本経済と証券ビジネス	民法概論Ⅰ・Ⅱ	国際私法Ⅰ・Ⅱ
財政学	簿記論Ⅰ・Ⅱ	広告コミュニケーション論
国際取引法	インターネットと法*	紛争解決と法
インターカルチュラル・コミュニケーション	国際コミュニケーション特殊講義（海外研修）	国連研究Ⅱ
コミュニケーション研究法の全体像	イギリス文化論	文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ
経営情報Ⅰ・Ⅱ	パブリック・リレーションズ	
その他、所属学部・学科に同一名称・異名称同一科目がある国際政治経済学部の科目 2011年度以降入学者は、簿記論ⅡA・ⅡBについても履修を認めていません。		

他学部科目一覧表

総合文化政策学部（2008年度以降入学者）

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経済分析（1 ミクロ）	2	3・4	経済分析（2 マクロ）	2	3・4	社会調査法 I	2	3・4
公共社会論	2	3・4	金融概論	2	3・4	行政学概論	2	3・4
国際関係	2	3・4	公共政策論	2	3・4	憲法概論	2	3・4
民法概論	2	3・4	行政法概論	2	3・4	著作権法	2	3・4
国際政治学概論	2	3・4	経済発展論	2	3・4	国際平和論	2	3・4
経済政策概論	2	3・4	公共経済学概論	2	3・4	文化経済学	2	3・4
文化行政法	2	3・4	文化産業概論	2	3・4	観光産業論	2	3・4
消費経済論	2	3・4	日本経済概論	2	3・4	社会福祉論	2	3・4
キリスト教福祉論	2	3・4	マーケティング概論	2	3・4	会計学	2	3・4
サービスマーケティング概論	2	3・4	地域のマーケティング	2	3・4	消費文化論	2	3・4
経営戦略概論	2	3・4	組織論入門	2	3・4	人的資源管理概論	2	3・4
経営情報論	2	3・4	管理会計概論	2	3・4	経営分析論	2	3・4
非営利会計論	2	3・4	プロジェクトマネジメント論	2	3・4	ビジネスプロセスマネジメント論	2	3・4
プロジェクトファイナンス	2	3・4	マーケティング戦略論	2	3・4	ブランド戦略論	2	3・4
公共経営論	2	3・4	文化財保護法	2	3・4	プロジェクトプロデュース論	2	3・4
世界経済概論	2	3・4	社会調査論 I	2	3・4	社会調査論 II	2	3・4
統計学	2	3・4	文化人類学概論	2	3・4	日本文化の歴史	2	3・4
異文化間コミュニケーション論	2	3・4	表象文化概論	2	3・4	社会分析学	2	3・4
宗教史	2	3・4	経済史（1）	2	3・4	経済史（2）	2	3・4
社会思想史	2	3・4	経済と文明	2	3・4	比較文明論	2	3・4
地域文化論（1）	2	3・4	地域文化論（2）	2	3・4	地域文化論（3）	2	3・4
地域文化論（4）	2	3・4	宗教文化概論	2	3・4	宗教社会学	2	3・4
比較宗教論	2	3・4	ネットワーク社会と文化	2	3・4	文化遺産論	2	3・4
※都市文化論	2	3・4	経営文化論	2	3・4	文化と精神分析	2	3・4
現代経済史	2	3・4	現代日本文化論	2	3・4	近代哲学史	2	3・4
論理学	2	3・4	公共哲学概論	2	3・4	認識論	2	3・4
存在論	2	3・4	倫理学入門	2	3・4	象徴記号論	2	3・4
情報環境論（1）	2	3・4	情報環境論（2）	2	3・4	メディアリテラシー	2	3・4
宗教哲学	2	3・4	社会倫理	2	3・4	日本思想史概論	2	3・4
現代哲学	2	3・4	現代思潮	2	3・4	現代の神学	2	3・4
認知哲学	2	3・4	環境美学	2	3・4	芸術哲学	2	3・4
情報工学	2	3・4	社会調査法 II	2	3・4	社会統計学	2	3・4
社会調査実習	4	3・4						

※都市文化論…2012年度以降入学者は履修不可

理工学部

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
現 代 物 理 学 概 論	2	2・3・4	現 代 化 学 概 論	2	2・3・4	一 般 電 気 工 学	2	2・3・4
社会と経営システム工学	2	2・3・4	計 算 機 概 論	2	2・3・4			

社会情報学部 (2008年度以降入学者)

授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次	授 業 科 目	単 位	配 置 年 次
知 的 財 産 法	2	3・4	経 済 政 策 II	2	3・4	社 会 調 査 II	2	3・4
証 券 市 場 II	2	3・4	デ リ バ テ ィ ブ ズ	2	3・4	経 済 解 析 I	2	3・4
経 済 解 析 II	2	3・4	現 代 の 経 済	2	3・4	グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス	2	3・4
社会情報特別講義 C	2	3・4	社会情報特別講義 D	2	3・4	組 織 論	2	3・4
情 報 倫 理	2	3・4	文 化 心 理 学	2	3・4	組 織 意 思 決 定 論	2	3・4
プロジェクトマネジメント	2	3・4	広 報 論	2	3・4	情 報 化 社 会 と 文 化	2	3・4
情 報 ア ク セ ス 法	2	3・4	コ ン ピ ュ ー タ グ ラ フ ィ ッ ク ス	2	3・4	情 報 シ ス テ ム 開 発	2	3・4
ソフトウェア開発・保守	2	3・4	社会情報特別講義 E	2	3・4	社会情報特別講義 F	2	3・4
情 報 科 学 応 用 III	2	3・4						

社会情報学部 (2012年度以降入学者)

授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次	授 業 科 目	単 位	履 修 年 次
情 報 化 社 会 と 法	2	2・3・4	ミ ク ロ 経 済 政 策	2	2・3・4	証 券 市 場 II	2	2・3・4
デ リ バ テ ィ ブ ズ	2	2・3・4	経 済 解 析	2	2・3・4	現 代 の 世 界 と 日 本	2	2・3・4
グ ロー バ ル ビ ジ ネ ス	2	2・3・4	情 報 倫 理	2	2・3・4	文 化 心 理 学	2	2・3・4
合理的思考と社会行動	2	2・3・4	広 報 論	2	2・3・4	情 報 政 策	2	2・3・4
情 報 シ ス テ ム 演 習	2	3・4	社 会 資 格 講 義	2	3・4			

他学部科目一覧表

文学部第二部 教育学科（心理学科夜間主コースのみ履修可）

心理学科に同一名称科目が開講されている場合は、自学科の科目を履修してください。

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
日 本 教 育 史	4	1	西 洋 教 育 史	4	2	教 育 社 会 学	4	1
社 会 福 祉	2	1	宗 教 教 育 学	4	2	教 育 行 政 ・ 制 度	4	2
国 際 理 解 教 育	2	2	社 会 教 育 計 画	4	3・4	家 庭 教 育	2	3・4
教 師 論 (2004年度以前生)	2	3・4	現 代 教 師 論 (2005年度以降生)	2	2~4	原 書 講 読	2	3・4
※ 社 会 教 育 演 習	4	3・4	教 育 方 法	4	2	国 語 教 材 研 究	2	2
社 会 教 材 研 究	2	2	算 数 教 材 研 究	2	2	理 科 教 材 研 究	2	2
生 活 科 教 材 研 究	2	2	音 楽 教 材 研 究	2	2	体 育 教 材 研 究	2	2
家 庭 教 材 研 究	2	2	生 徒 指 導 (進 路 指 導 を 含 む)	2	2	教 育 相 談	2	2
学 校 経 営	2	2	学 校 経 営 と 学 校 図 書 館	2	2	学 習 指 導 と 学 校 図 書 館	2	2
学 校 図 書 館 メ デ ィ ア	2	2	情 報 メ デ ィ ア 利 用 論	2	2	読 書 教 育 論	2	2
教 育 メ デ ィ ア 論	4	4・3	幼 児 教 育 原 理	4	1	保 育 内 容 総 論	4	1
保 育 内 容 研 究 [健 康]	2	2	保 育 内 容 研 究 [人 間 関 係]	2	2	保 育 内 容 研 究 [環 境]	2	2
保 育 内 容 研 究 [こ と ば]	2	2	保 育 内 容 研 究 [表 現 A]	2	2	保 育 内 容 研 究 [表 現 B]	2	2
保 育 方 法 の 研 究	4	2	小 児 保 健 学	4	2	小 児 精 神 神 経 学	2	3・4
臨 床 保 育 学	4	2	学 習 心 理 学	4	1~4	臨 床 心 理 学	4	2
障 害 児 ・ 者 の 心 理 II	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 教 育	2	3・4	障 害 児 ・ 者 の 福 祉	2	3・4
障 害 児 ・ 者 の 医 学	2	3・4	数 学 概 説	4	1~4	理 科 概 説	4	1~4
生 活 科 研 究	2	1~4	音 楽 理 論	2	1~4	体 育 原 理	2	1~4
体 育 実 習	2	1~4	国 語 概 説 I	2	1	国 語 概 説 II	2	1
国 文 学	2	1~4	日 本 文 法	4	1~4	日 本 文 学	4	2~4
日 本 文 学 特 講	4	2~4	漢 文 学 特 講	4	2~4	作 品 講 読	2	2~4
書 理 論	4	3・4	日 本 史	4	1~4	日 本 史 特 講	4	2~4
外 国 史 (東 洋 史 及 び 西 洋 史)	4	1~4	外 国 史 特 講	4	2~4	人 文 地 理 学	4	1~4
自 然 地 理 学	4	1~4	地 理 情 報 分 析 法	4	2~4	気 象 学	4	2~4
地 誌 学 概 論 (ア メ リ カ 地 誌 を 含 む)	4	1~4	地 誌 学 概 論 (ア ジ ア 地 誌 を 含 む)	4	1~4	地 誌 学 概 論 (ヨ ー ロ ッ パ 地 誌 を 含 む)	4	1~4
地 誌 学 概 論 (日 本 地 誌 を 含 む)	4	1~4	法 律 学 概 説	4	1~4	社 会 科 概 説	2	2~4
哲 学 史	4	3・4	宗 教 学	4	3・4	職 業 指 導	4	3・4

※社会教育主事の免許希望者のみ履修可。

文学部第二部 英米文学科（心理学科夜間主コースのみ履修可）

心理学科に同一名称科目が開講されている場合は、自学科の科目を履修してください。

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
英 国 文 学 史 I	4	1	英 国 文 学 史 II	4	1	米 国 文 学 史	4	1
英 米 事 情 研 究	4	1	英 詩 概 論	4	1	英 米 文 学 概 論	4	1
英 語 文 化 総 合 研 究 (総 合 講 義)	4	1	英 語 学 概 論	4	1	英 語 史	4	1
英 文 学 特 講	4	3・4	米 文 学 特 講	4	3・4	英 語 学 特 講	4	3・4
コミュニケーション特講	4	3・4	ビジネス・イングリッシュA	4	3	ビジネス・イングリッシュB	4	3
メディア・イングリッシュA	4	3	メディア・イングリッシュB	4	3	通 訳 A	4	3
通 訳 B	4	3	イギリスの歴史と文化	4	1	英 語 聖 書	4	2
アメリカの歴史と文化	4	2	比 較 文 学	4	3	キ リ ス ト 教 文 学	4	3

他学部科目一覧表

経済学部第二部 経済学科（心理学科夜間主コースのみ履修可）

心理学科に同一名称科目が開講されている場合は、自学科の科目を履修してください。

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
ミ ク ロ 経 済 学	4	1・2	マ ク ロ 経 済 学	4	1・2	応 用 ミ ク ロ 経 済 学	4	3・4
応 用 マ ク ロ 経 済 学	4	3・4	経 済 動 学	4	3・4	オ ー プ ン マ ク ロ 経 済 学	4	3・4
経 済 学 史	4	2	統 計 学 概 論	4	1・2	計 量 経 済 学	4	3・4
経 済 統 計	4	3・4	数 理 統 計	4	3・4	情 報 処 理 I	4	2
情 報 処 理 II	4	3・4	経 済 政 策 論	4	2	財 政 学	4	2
社 会 政 策 論	4	3・4	地 方 財 政 論	4	3・4	租 税 論	4	3・4
社 会 保 障 論	4	3・4	労 働 経 済 論	4	3・4	産 業 組 織 論	4	3・4
事 業 創 造 戦 略	4	3・4	金 融 論	4	2	金 融 組 織 論	4	3・4
国 際 金 融 論	4	3・4	経 済 史 概 論	4	2	日 本 経 済 史	4	3・4
欧 米 経 済 史	4	3・4	東 洋 経 済 史	4	3・4	経 済 思 想 史	4	3・4
国 際 経 済 学	4	2	日 本 経 済 論	4	3・4	世 界 経 済 論	4	3・4
経 済 開 発 論	4	3・4	各 国 経 済 論 A	4	3・4	各 国 経 済 論 B	4	3・4
経 済 地 理 学	4	2	地 域 経 済 学	4	3・4	交 通 経 済 学	4	3・4
農 業 経 済 論	4	3・4	外 国 書 講 読	4	3・4	商 学 総 論	4	1・2
経 営 学 総 論	4	2	簿 記 論	4	1・2	財 務 会 計 論	4	2
マ ネ ジ メ ン ト 論	4	3・4	憲 法	4	2	民 法 I	4	3・4
民 法 II	4	3・4	商 法 I	4	3・4	商 法 II	4	3・4
経 済 法	4	3・4	労 働 法	4	3・4			

経営学部第二部 経営学科（心理学科夜間主コースのみ履修可）

心理学科に同一名称科目が開講されている場合は、自学科の科目を履修してください。

授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次	授 業 科 目	単位	履修年次
経 営 学 総 論	4	2	マ ネ ジ メ ン ト 論	4	3・4	財 務 管 理 論	4	3・4
人 的 資 源 管 理 論	4	3・4	事 業 戦 略 評 価	4	3・4	経 営 史	4	2
事 業 創 造 戦 略	4	3・4	経 営 組 織 論	4	3・4	経 営 戦 略 論	4	3・4
組 織 心 理 学	4	3・4	統 計 学	4	2	経 営 数 学	4	3・4
経営学特殊講義Ⅰ～Ⅶ	2	2	商 学 総 論	4	1	マ ー ケ テ ィ ン グ 論	4	2
流 通 論	4	2	消 費 者 行 動 論	2	3・4	製 品 戦 略 論	2	3・4
マーケティングチャンネル論	2	3・4	統合マーケティング・コミュニケーション論	2	3・4	国際マーケティング論	4	3・4
市 場 シ ス テ ム 論	4	3・4	金 融 市 場 論	4	3・4	リ ス ク ・ マ ネ ジ メ ン ト 論	4	3・4
広 告 論	4	3・4	交 通 論	4	3・4	海 運 ・ 港 湾 論	4	3・4
観 光 論	4	3・4	国 際 貿 易 論	4	3・4	貿 易 商 務 論	4	3・4
外 国 為 替	4	3・4	商 業 英 語 Ⅰ	4	3	商 業 英 語 Ⅱ	4	4
流 通 政 策	4	2	商 学 特 殊 講 義 Ⅰ	2	3・4	簿 記 論 Ⅰ	4	1
簿 記 論 Ⅱ	4	2	財 務 会 計 論	4	2	管 理 会 計 論	4	2
原 価 計 算 論	4	3・4	会 計 監 査 論	4	3・4	税 務 会 計 論	4	3・4
コ ン ピ ュ ー タ 会 計 論	4	3・4	予 算 管 理 論	4	3・4	財 務 分 析 論	4	2

V. 授業について

1. 授業

授業時間

各キャンパスの授業時間は、次のとおりです。

	青山キャンパス (文学部心理学科夜間主コース・第二部を含む)	相模原キャンパス
第1時限	9:00~10:30	9:00~10:30
礼拝	10:30~11:00	10:30~11:00
第2時限	11:00~12:30	11:00~12:30
昼休み	12:30~13:10	12:30~13:10
第3時限	13:10~14:40	13:10~14:40
第4時限	14:45~16:15	14:55~16:25
第5時限	16:20~17:50	16:40~18:10
第6時限	(月・水・木・土) 18:00~19:30 (火・金) 18:00~19:25	/
礼拝・課外活動	(火) 礼拝 (金) 課外活動 19:30~20:00	
第7時限	(月・水・木・土) 19:40~21:10 (火・金) 20:05~21:30	

相模原キャンパス

相模原キャンパス授業時間割は原則5時限で実施します。しかし、学科目配置上5時限で実施できないことが起きた場合のみ6時限目に配置いたします。

なお、6時限目は現在の5時限終了後15分休憩後より開始いたします。

青山キャンパス

青山キャンパス第一部の授業時間割は原則1~5時限で配置しておりますが、学科目配置の都合により6時限にも配置することがあります。なお、6時限は第二部の授業時間と同様に18:00より開始いたします。

また、特別な行事のときに授業時間が変更となることがあります。その場合は「学生ポータル」で伝達します。

授業教室

授業教室については、別冊子『授業時間割表』に掲載されています。授業教室が変更になる場合は、随時「学生ポータル」で伝達しますので、毎日必ず確認してください。建物の配置については『授業時間割表』巻末に掲載されている「大学建物配置図」を参照してください。

休講

授業が休講になる場合は、主に「学生ポータル」で伝達します。

休講情報がなく、授業開始から30分以上経過しても担当教員が来ず、連絡もない場合は、学務担当窓口(巻末参照)に問い合わせ、指示を受けてください(学生共通細則第7条参照)。

補講

休講となった授業に対し、補講を行う場合があります。補講日は、前期・後期とも、定期試験開始前にそれぞれ数日間設けられています。日程については、学事暦を参照してください。詳細は「学生ポータル」などで伝達しますので、必ず確認してください。また、補講期間以外にも補講を行う場合もあります。担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」などで発表しますので、随時確認してください。

授業の欠席について

本学では、特定の理由による欠席を認める「公欠制度」は設けておりません。ケガ・病気・忌引きなどで授業を欠席した場合は、次回の授業時に直接担当教員に申し出て、指示を受けてください。なお、長期にわたる欠席の場合は、学務担当窓口（巻末参照）に相談してください。

2. 大学からの伝達

本学では、大学から学生のみなさんへの通知や連絡は、主に「学生ポータル」と「掲示」によって行います。

「学生ポータル」を学内で利用する場合は学生証が必要ですので、必ず携帯してください。また、利用方法については、冊子『学生ポータル利用案内』を参照してください。

「掲示板」の設置場所については次のとおりです。

青山キャンパス	8号館と9号館の間（1階）
相模原キャンパス	E棟とF棟の間（外階段下通路内）

「学生ポータル」「掲示板」では、授業・試験など学生生活に直接関係のある事項が随時伝達されています。情報を確認しなかったことにより、後になって不利益を被ることのないよう、十分注意してください。また、電話による問い合わせには一切応じられませんので、質問などがある場合は直接窓口に来室してください。

3. 緊急時の「授業の取り扱い」および「伝達手段」について

事故、災害などにより通常利用している交通機関の運行が停止した場合の授業の取扱いは次のとおりとします。

下記いずれの場合も大学からの情報伝達手段で確認してください。

1. 通常利用している交通機関運休時における対応

- (1) 代替交通機関を利用して登校が可能と判断できた場合には、危険な状況でない限り、極力、登校するよう努めてください。
- (2) 代替交通機関の利用ができず登校できなかった場合には、学務担当窓口（巻末参照）に用意されている「交通機関不通による授業欠席届」に、交通機関などが発行した遅延証明書、事故証明書などを添えて授業担当者に提出して欠席分の学習補填の指示を受けてください。

上記1.で休講などの情報

携帯電話 <http://mobile.jm.aoyama.ac.jp>

2. 台風の接近時などの対応

台風の接近などによる被害が予想される場合には、休講などの特別措置がとられることがあります。

3. 大規模地震の発生が予想されるときへの対応

- (1) 大規模地震対策特別措置法による「地震防災対策強化地域判定会」の招集が報道された時点で休校措置がとられます。
- (2) 警戒宣言が解除され、または「判定会」が解散されたときは、休校を解き、平常授業に戻ります。

上記 2.3.

テレドーム 0180-993171 (青山学院大学用番号)

Web <http://www.aoyama.ac.jp>

(緊急の情報がない場合、テレドームは呼び出し音のみになります)

ただしこのサービスについては、利用可能な電話と、利用できない電話があります。

利用可能な電話

- ① 一般電話
- ② 携帯電話…NTT docomo、au、SoftBank

利用できない電話

携帯電話…NTT docomo を除くプリペイド式携帯、PHS、
列車公衆電話、「050」から始まる IP 電話、NTT の「ひかり電話」、
一部のケーブルテレビ電話、海外からの国際電話

緊急時には、原則として「学生ポータル」では情報提供されません。

4. 新型インフルエンザに対する本学の対応について

2009年に全国的に流行した新型インフルエンザは弱毒性の「H1N1」型でしたが、いまだ強毒性インフルエンザ「H5N1」型の流行が危惧されております。

本学では新型インフルエンザの流行が確認された場合は学院危機管理委員会のもとに「新型インフルエンザ対策本部」および「新型インフルエンザ対策会議」において検討を行い、休校等の処置を行う場合（休校の解除を含む）は学生・生徒・児童・園児、教職員および保護者等に対して学院ホームページや学内一斉配信メール(学生ポータル等)、緊急連絡網、文書等でお知らせいたします。

なお、新型インフルエンザ（「H5N1」型）に対する本学の対応は「国内で1人でも発生が認められた場合は幼稚園から大学までを完全休校」とします。

日本国内で罹患者が認められ、厚生労働大臣よりフェーズ4B（ヒト-ヒト感染発生）の宣言が行われた時点で登校を控えてください。

新型インフルエンザの休校情報は発生次第、テレドームで確認できます。

◇テレドーム 0180-993171

Ⅵ. 試験・レポートについて

授業科目の履修状況を評価し単位を認定するため、試験が行われます。試験は、筆記のほかに、科目によっては、論文、レポート、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法で行われることもあります。

試験は、受験資格のある学生のみ受験できます。

受験資格は、以下のとおりです。

- ① 受験する授業科目を履修登録していること
- ② 学費を納入済みであること

なお、学期を通じ欠席の多い学生は、その科目の受験資格を失うことがあります（学生共通細則第7条参照）。

1. 試験の種別

定期試験

前期末、後期末に期間を定めて実施する試験を定期試験といいます。

試験時間割は、試験開始日の約2週間前に「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。試験実施教室や時間割は通常授業時と異なります。

平常試験

定期試験期間以外の、平常の授業時間に行う試験を平常試験といいます。この場合、担当者によって実施日その他の詳細が決定され、担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

レポート

レポートは、提出先によって2種類あります。

【学務担当窓口提出レポート】

おおむね定期試験の前後に受付が行われます。詳細は「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。

テーマ、枚数、提出期限などを確認し、必ず指定された期間（時間）内に提出してください。指定された期間内であれば、当該授業科目開講キャンパスに限らず、どちらのキャンパスでも受け付けますが、締切時間はキャンパスで異なりますのでよく確認してください。

提出後の内容変更および指定された期間以外の提出は認めません。

このレポートを提出するときは、以下の点に注意してください。

- ① 用紙は指定されたものを使用してください。
- ② 必ず大学所定のレポート提出票を貼付してください。
- ③ レポート提出票には、整理番号その他、記入事項のすべてを「学生ポータル」で確認の上、ボールペンで記入してください。鉛筆書きは受け付けません。
- ④ 窓口に持参する際は、提出票記入・ホチキス留めなどをすべて完了し、作成が完了した状態にしておいてください。窓口での提出票記入・ホチキス留めはできません。
- ⑤ 提出した際に受領印の押印された「レポート提出票（学生控）」を受け取り、成績が発表されるまで各自保管しておいてください。後日、提示を求められる場合があります。

【担当者提出レポート】

情報は担当者が直接教室で発表するか、または「学生ポータル」で発表します（情報は変更される場合もあるので、随時確認してください）。テーマ、用紙、枚数、提出期限、提出方法など、すべて担当者の指示に従ってください。

提出先として学務グループ設置あるいは学務部教務課の提出ボックスを指定される場合が

ありますが、このレポートは担当者提出レポートとして扱います。

追試験

定期試験に限り、病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生に対して行われる試験を追試験といいます。受験資格は厳密に定められており、自己の不注意によって受験できなかった場合、および、公的な証明書のない場合は、追試験を受けることはできません。

資格および申請方法などについては後述の「**3. 追試験**」を参照してください。なお、出席日数不足など、担当者の判断によって追試験の受験が認められない場合があります。

定期試験期間中は、試験の有無にかかわらず、定期試験期間最終日まで予定（旅行など）を入れないでください。

また、やむを得ず追試験の申請をすることも想定し、追試験実施日（学生ポータルで発表）にも留意してください。

2. 定期試験の受験 定期試験時間

定期試験時間帯は以下のとおりです。授業時間帯とは異なるので注意してください。

相模原キャンパスでは定期試験科目配置上、5時限で実施できないことが起きた場合のみ6時限目に配置します。なお、6時限目は18時10分より開始します。

試験時間は原則として60分です（理工学部・社会情報学部専門科目のみ最長85分の場合があります）。

	青山キャンパス (文学部心理学科夜間主コース・第二部を含む)	相模原キャンパス
第1時限	9:40 ~ 10:40	9:30 ~ 10:30
第2時限	11:00 ~ 12:00	11:10 ~ 12:10
第3時限	13:00 ~ 14:00	13:10 ~ 14:10
第4時限	14:30 ~ 15:30	14:50 ~ 15:50
第5時限	16:00 ~ 17:00	16:30 ~ 17:30
第6時限	18:20 ~ 19:20	
第7時限	19:40 ~ 20:40	

受験上の注意

受験上の注意は以下の通りです。あらかじめよく読んでおいてください。

試験教室で配布される受験票は、試験を受けた証拠になりますので学年・クラス番号等、正確に記入してください。答案用紙の学年・クラス番号を正しく記入しない場合、担当教員の成績報告に支障をきたすことがあります。また指定されたクラス・試験教室で必ず受験してください。

受験上の注意

1. 監督者の指示に従うこと。
2. 机の空いている限り、一机一名で着席すること。
3. 机上等に書き込みがある場合は、開始前に申し出ること。
4. 学生証はケースから出し、通路側の机の上に置くこと。※注
5. 以下の行為は、不正行為に該当するので充分留意すること。
 - ① 受験資格のない者の受験（代人も含む）。
 - ② 答案の交換及び他人の答案を盗み見ること。
 - ③ カンニングペーパー（縮小コピー）等の準備および使用。
 - ④ 答案用紙を提出せずに試験場から退室すること。

- ⑤ 机の中にノート、コピー、文献等を開いたまま置くこと。
- ⑥ 所持品やかばん、透明ファイルケース等の中身が見える形のまま、身の回りに置くこと。
- 6. 机上には、許可された文献類および筆記用具以外は置かないこと。
なお、筆箱・ペンケース等も置いてはならない。
- 7. 携帯電話等の電子機器類の電源を切り、かばん等に入れておくこと。
(携帯電話は時計として使用できない)
- 8. 試験終了前に退室する場合は、他の受験者の妨げにならないよう留意すること。
- 9. 不正行為は恥ずべき行為であり大学として厳重に対処する。

※注 学生証を提示しない学生は受験できません。

- ・試験開始後20分以上の遅刻者は受験できません。また試験開始後30分を経過するまで退室できません。
- ・試験当日学生証を忘れた場合、相模原キャンパスでは学務グループ、青山キャンパスでは学務部教務課で学生カードを受け取り受験してください。学生カードの使用については以下の点に注意してください。
 - a. 学生カードは、試験受験以外には一切利用できません。
 - b. 学生カードは発行日に限り記載者本人のみ有効です。使用後は自己の責任において適切に処分してください。

不正行為

不正行為を行った学生は、以下に示す『試験における不正行為者処分規則』が適用され、単位を修得することができません。科目によっては4年間で卒業することが不可能になります。

青山学院規則集『試験における不正行為者処分規則』より抜粋

第3条 不正行為者の処分内容は、学則に基づく懲戒処分（訓告、停学、退学）とするほか不正行為を行った授業科目、当該授業科目を含む数科目または全授業科目の履修届を無効とする。

第4条 不正行為者の氏名および処分は学内に掲示し、本人および保証人へ通知する。

不正行為とは、『試験における不正行為者処分規則施行細則』第2条に定められた、以下の行為をいいます。

- ① 代人として受験することまたは代人に受験させること。
- ② 答案を交換すること。
- ③ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）の用意またはそれらを使用すること。
- ④ カンニング・ペーパーおよびそれに準ずるもの（メモ類）を廻し見すること。
- ⑤ 使用が許可されていない文献等を使用すること。
- ⑥ 使用が許可されている文献等を貸借すること。
- ⑦ 所持品、身体、机、壁等に解答およびそれに類するものを書き込むこと。
- ⑧ 答案を写させること、または写しとること。
- ⑨ 他人の答案を盗み見ること。
- ⑩ 声、動作等で解答を伝達すること、または伝達を受けること。
- ⑪ 受験資格のない者が受験すること。
- ⑫ 他人の学生証を使用して受験すること。
- ⑬ 偽名または故意により無記名答案を提出すること。
- ⑭ 答案を提出しないこと。
- ⑮ 監督者の指示や注意に従わないこと。
- ⑯ その他上記各号に類すると認められる行為。

3. 追試験

申請資格

定期試験を病気、その他やむを得ない理由によって受験できなかった学生のみ申請することができます。

以下の場合には追試験の対象とはなりません。

- ① 自己の不注意（時間割の見間違い・変更情報の見落としなど）によって受験できなかった場合
- ② 公共交通機関以外を利用した場合、天候や交通事故などによる道路の渋滞、車両の故障を理由とする遅刻・欠席の場合
- ③ 平常試験（定期試験以外の試験を指す）の場合
- ④ 定期試験を受験した場合

申請方法

申請の日程、追試験日程については、定期試験前に「学生ポータル」で発表します。

追試験の受験を希望する学生は、**直接、授業科目の開講キャンパスの学務担当窓口**（巻末参照）で、**定められた期間に申請してください**。当該授業科目開講キャンパス以外の学務担当窓口では申請できません。

申請時には、当該試験の受験が不可能であったことを証明する公的な書類を持参してください。公的な書類は、**学生氏名、定期試験を受験できなかった日時、理由、証明者名の記載および証明者印のあるもの**に限ります。**コピーは不可です**。申請後「追試験願」用紙を交付しますので、その場で記入し、持参した書類とともに提出してください。なお、受験料は無料です。

欠席理由と、それを示す証明書は次のとおりです。

理 由	証 明 書
病気	医師の診断書（通院・入院・安静期間などの記載のあるもの）
忌引（両親、兄弟姉妹、祖父母、配偶者、子供） ※法事は忌引に含めない	死亡に関する公的証明書および保証人などによる続柄の証明（要押印） または、 葬儀に参列したことを示す会葬礼状（日付が明記されているもの） および保証人などによる続柄・参列の証明（要押印）
就職試験	就職試験の受験を証明するもの（受験票では不可）
災害（台風、地震、水害、火災など）	官公庁による被災証明書
交通関係（遅延）	交通機関などの証明書（通学路線に限る。遅延当日必ず学務担当窓口で指示を受けること）
教育実習	教育実習参加証明書（教職課程課・学務グループにて発行）
科目の時限重複	定期試験実施前に学務担当窓口で指示を受けること

上記以外の理由または、公的な証明書が無い場合については、事前に「**追試験受験資格審査**」を受けてください。審査で認められた場合のみ申請することができます。

追試験時間・採点

原則として60分で実施し、答案は100点満点で採点されます。

Ⅶ. 成績評価について

成績評価

学業成績は、授業科目ごとに行う試験（筆記試験、レポート、論文、口述試験、実技テスト、その他担当者の指定する方法）によって評価されます。

本学の成績は100点法によって評価されます。60点以上が合格とされ、所定の単位が与えられます。

成績証明書および成績通知書には AA、A、B、C の表記が用いられます。ただし、「情報スキル I」および指定の海外研修については、所定の単位が与えられた場合、成績証明書には「RR」、成績通知書には「合格」と表示されます。

実点数範囲	学生への成績通知	成績証明書の記載
100～90	AA	AA
89～80	A	A
79～70	B	B
69～60	C	C
59以下または不合格	XX	表示せず
欠席	X	表示せず
「情報スキル I」、海外研修等による単位修得	合格	RR

G.P.A.

2009年度以降のカリキュラム適用学生については、成績通知書に「G.P.A.」の数値を表示しています。G.P.A. (Grade Point Average) とは、学生の履修登録科目の 1 単位あたりの評点平均値を指します。これは、欧米で広く用いられている世界標準的な成績評価方法で、本学では給付奨学金や学業奨励賞の候補者選出、学位授与式の総代選出、本学大学院進学などの際に活用されています。

履修した科目には、A、B、C、XX などの成績が与えられます。これらの評価を数値化して 1 単位ごとの平均を算出したものが G.P.A. です。

本学では、各評価に与えられる評点は次のとおりです。

本学評価	評点
AA	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
XX(不合格)	0.0
X (欠席)	0.0

上記の評点を次の計算式に当てはめて G.P.A. を算出します。

$$G.P.A. = \frac{(AA \text{ の単位数} \times 4 + A \text{ の単位数} \times 3 + B \text{ の単位数} \times 2 + C \text{ の単位数} \times 1)}{(AA \text{ の単位数} + A \text{ の単位数} + B \text{ の単位数} + C \text{ の単位数} + XX \text{ の単位数} + X \text{ の単位数})}$$

※理工・社会情報学部は、教職課程科目を G.P.A. 算出の対象外とします。

※「情報スキル I」は、G.P.A. 算出の対象外とします。

成績通知

学生の成績評価は、3月上旬および9月中旬に学生ポータルメニュー「成績通知書」にてお知らせします。学外 PC から閲覧する場合は、あらかじめ学内で Secure Matrix パスワードの登録を済ませておく必要があります。(詳細は、学生ポータルメニュー「学外から成績通知書を閲覧する手順」を参照してください。) 成績通知書は各自で印刷し、修得した科目とその評価を確認してください。

成績調査

成績評価に疑問がある場合は、「成績調査」を申請することができます。これは、科目担当者に対して、安易に再考・変更を求めるものではありません。成績に疑問を持つ**明確な根拠がある場合にのみ**申請してください。

大学が指定する調査期間中に、成績通知書持参のうえ所属キャンパスの学務担当窓口（巻末参照）へ申し出てください。調査期間は、「学生ポータル」でお知らせします。

電話での問い合わせ、期間外の申し出には一切応じません。

Ⅳ. 進級および卒業について

進 級	<p>進級については、所属する学部で条件が異なるので、「Ⅳ. 学部履修要項」の各学部、学科の進級条件の項を参照してください。進級するには、1年間をとおして在学することが必要です。</p> <p>休学をして復学した場合は、休学前と同一学年になります。</p>
卒 業	<p>(1) 本学に4年以上在学し(休学期間を除く)、各学部で定められた、卒業に必要な単位を修得した者は、卒業が認められ学士の学位が授与されます。</p> <p>(2) 卒業発表は3月上旬に行います。卒業の可否は必ず本人が確認してください。電話による問い合わせには一切応じておりません。</p>
9月卒業	<p>4年生で留年した場合、不足する科目や単位数により、次年度の前期で単位を修得し、卒業要件単位を満たすことができれば、願い出によって9月に卒業できる制度があります。</p> <p>(1) 希望者は、学務担当窓口(巻末参照)で相談し、「9月卒業希望届」を定められた期間に提出してください。</p> <p>(2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。</p> <p>(3) 学費については、本学の財務部資金グループにお問い合わせください。</p>
卒業延期制度	<p>4年次に在学する学生が卒業要件を満たし、具体的な勉学継続計画、国家試験受験等明確な理由、目的を有したうえで、在学期間を延長して学修継続を希望する場合、卒業の延期を認めて学修継続の機会を与える制度です。</p> <p>(1) 希望者は、学務担当窓口(巻末参照)で相談し、「卒業延期許可願」、「学修計画書」、「誓約書・保証書」を定められた期間に提出してください。</p> <p>(2) 期限を過ぎてからの提出は、一切認められません。</p> <p>(3) 学費については、本学の財務部資金グループにお問い合わせください。</p>

Ⅸ. 学籍について

		内 容	取扱・問い合わせ窓口											
修業年限		本学の教育課程を修了するために必要な最低修業年限は、4年です。	学則第35条参照											
在学年限		① 本学に在学できる期間は、休学期間を除き8年です。 ② 2年次編入学生、2年次転部または転学部・転学科生の在学年限は6年です。 ③ 3年次編入学生、3年次転部または転学部・転学科生の在学年限は4年です。 ④ 再入学者の在学年限は、退学以前を加えて8年です。 ⑤ 編入学、転部または転学部・転学科をした再入学者の在学年限は、退学以前を加え、編入学、転部または転学部・転学科生の在学年限を越えることはできません。	学則第36条参照											
休 学	休学期間	① 休学期間は、通年(1年間)、前期、後期の3種類があり、1年または1学期ごとに更新しなければなりません。 ② 休学期間は連続2年までとしますが、特にやむを得ない場合は、審議をしたうえで、連続して3年まで認めることがあります。 ③ 休学期間は通算して3年を超えることはできません。 ④ 休学期間は在学期間に算入しません。	学則第29・36条参照											
	休学をするには	病気その他やむを得ない理由で休学しようとする学生は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「休学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提示 ③ 休学費の納入 ④ 「理由書(書式は任意)」休学期間が通算であっても連続であっても、2年を超えてさらに休学を願い出の場合のみ提出 ※休学は原級(元の学年)にとどめるので、通年または半期休学をした場合、進級することができません。進級するには、4月から翌年3月まで1年間とおして在学することが必要ですのでご注意ください。	(手続き) ⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第28条参照 (休学費) ⇒財務部資金グループ (青山キャンパス) 学則 別記学費納付に関する 取扱い 8 参照											
	休学願の提出期限	「休学願」の提出期限は次のとおりです。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>休学期間</th> <th>提出期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通年休学</td> <td>4月1日～翌年3月31日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>前期休学</td> <td>4月1日～9月30日</td> <td>6月末日</td> </tr> <tr> <td>後期休学</td> <td>10月1日～翌年3月31日</td> <td>12月末日</td> </tr> </tbody> </table>		休学期間	提出期限	通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日	前期休学	4月1日～9月30日	6月末日	後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日
	休学期間	提出期限												
通年休学	4月1日～翌年3月31日	6月末日												
前期休学	4月1日～9月30日	6月末日												
後期休学	10月1日～翌年3月31日	12月末日												
復 学	復学をするには	休学者が復学を希望する場合、大学所定の「復学願」を提出し、教授会の承認を経て復学することができます。休学期間満了の約2ヶ月前に、学務部教務課(相模原キャンパスは学務グループ)から次期の復学・休学の継続などについての問い合わせをします。なお、復学が承認された場合の年次は、休学の種類にかかわらず、休学前と同一年次となります。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第30条参照											

		内 容	取扱・問い合わせ窓口
退 学	退学の期日	退学の期日は、学費の納付期間によって異なります。前期分まで納付している場合は9月30日付、後期分まで納付している場合は3月31日付となります。	学則 別記学費納付に関する取扱い10参照
	退学をするには	病気その他やむを得ない事情で退学を希望する場合は、以下の手続きを行い、教授会の承認を得なければなりません。 ① 「退学願」(大学所定用紙)(保証人連署)の提出 ② 学生証の提出 ③ 退学期日を含む学期までの学費の納入	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第32条参照
再 入 学		退学した後に再入学を願い出た場合、事情を審査のうえ相当年次に再入学を許可することがあります。願い出をするためには以下のような条件があります。 ① 再入学の願い出ができる期間は、原則として退学した日から2年以内とし、「再入学願」は1月中旬～1月末日(要問い合わせ)の間に学務担当窓口へ提出してください。 ② 再入学できる時期は、学年の初めとします。	⇒学務担当窓口 (巻末参照) 学則第27条参照
二重学籍	二重禁学止籍	本学学生は、他大学および本学他学部または他学科と併せて在学することはできません。	学則第27条の2参照
除 籍		学費を期限内に納入しない、履修登録をしない、などの場合は修学の意思がないものとして除籍され、本学学生としての身分を失うこととなります。なお、除籍者に対しては、以後、在学中の修得単位・成績の証明などは一切行ないません。また、再入学の資格も失うこととなります。	学則第34条参照
転部・転学部・転学科	転部とは	同一学部(学科)内で昼間部または第二部に移ることです。転部を願い出た場合には、選考の上、当該学部学科への転部を許可することがあります。許可された場合、転部届の提出が必要となります。	⇒学務担当窓口 (巻末参照)
	転学部とは	文学部、教育人間科学部、法学部、国際政治経済学部へ学部を移ることです。転学部を願い出た場合には、選考の上、当該学部への転学部を許可することがあります。許可された場合、転学部届の提出が必要となります。	学則第26条参照
	転学科とは	同一学部内で学科を移ることです。文学部の学生で転学科を願い出た場合には、選考の上、文学部の他学科への転学科を許可することがあります。また、教育人間科学部の学生が転学科を願い出た場合には、選考の上、教育人間科学部の他学科への転学科を許可することがあります。許可された場合、転学科届の提出が必要となります。	(詳細については、広報入試センター(青山キャンパス)から、10月初旬発行予定の「試験要項」を確認してください。)

X. 教職課程（教員免許状・各種資格）について

1. 本学で取得可能な 教育職員免許状

〔取得可能な免許状の種類・
教科（学部・学科別）〕

本学で取得可能な免許状の種類・教科は次のとおりです。

（2012年度入学者）

学 部	学 科	免許状の種類・教科
文学部	英米文学科	中学校教諭1種免許状（英語） 高等学校教諭1種免許状（英語）
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状（フランス語） 高等学校教諭1種免許状（フランス語）
	日本文学科	中学校教諭1種免許状（国語） 高等学校教諭1種免許状（国語）
	史学科	中学校教諭1種免許状（社会） 高等学校教諭1種免許状（地理歴史）
教育人間科学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状（国語・社会・英語） 高等学校教諭1種免許状 （国語・地理歴史・公民・英語）
理工学部	物理・数理学科	中学校教諭1種免許状（理科・数学） 高等学校教諭1種免許状（理科・数学）
	化学・生命科学科	中学校教諭1種免許状（理科） 高等学校教諭1種免許状（理科）
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状（工業）
	経営システム工学科 情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状（情報） 高等学校教諭1種免許状（情報）
社会情報学部	社会情報学科	中学校教諭1種免許状（数学） 高等学校教諭1種免許状（数学・情報）

(2009～2011年度入学者)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	英米文学科	中 学 校教諭 1種免許状 (英語) 高等学校教諭 1種免許状 (英語)
	フランス文学科	中 学 校教諭 1種免許状 (フランス語) 高等学校教諭 1種免許状 (フランス語)
	日本文学科	中 学 校教諭 1種免許状 (国語) 高等学校教諭 1種免許状 (国語)
	史学科	中 学 校教諭 1種免許状 (社会) 高等学校教諭 1種免許状 (地理歴史)
教育人間科学部	教育学科	幼 稚 園教諭 1種免許状 小 学 校教諭 1種免許状 中 学 校教諭 1種免許状 (国語・社会・英語) 高等学校教諭 1種免許状 (国語・地理歴史・公民・英語)
経済学部	経済学科	中 学 校教諭 1種免許状 (社会) 高等学校教諭 1種免許状 (地理歴史※1・公民)
法学部	法学科	中 学 校教諭 1種免許状 (社会) 高等学校教諭 1種免許状 (公民)
経営学部	経営学科	高等学校教諭 1種免許状 (商業)※2
理工学部	物理・数理学科	中 学 校教諭 1種免許状 (理科・数学) 高等学校教諭 1種免許状 (理科・数学)
	化学・生命科学科	中 学 校教諭 1種免許状 (理科) 高等学校教諭 1種免許状 (理科)
	電気電子工学科	高等学校教諭 1種免許状 (工業)
	機械創造工学科	高等学校教諭 1種免許状 (工業)
	経営システム工学科	高等学校教諭 1種免許状 (情報)
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭 1種免許状 (情報)
社会情報学部	社会情報学科	中 学 校教諭 1種免許状 (数学) 高等学校教諭 1種免許状 (数学・情報)
文学部第二部	英米文学科	中 学 校教諭 1種免許状 (英語)※1 高等学校教諭 1種免許状 (英語)※1

※1 2009年度・2010年度入学者のみ

※2 2009年度入学者のみ

(2005～2008年度入学者)

学 部	学 科	免 許 状 の 種 類 ・ 教 科
文学部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (国語・社会・英語) 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民・英語)
	英米文学科	中学校教諭1種免許状 (英語) 高等学校教諭1種免許状 (英語)
	フランス文学科	中学校教諭1種免許状 (フランス語) 高等学校教諭1種免許状 (フランス語)
	日本文学科	中学校教諭1種免許状 (国語) 高等学校教諭1種免許状 (国語)
	史学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史)
経済学部	経済学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史・公民)
法学部	法学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (公民)
経営学部	経営学科	高等学校教諭1種免許状 (商業)
理工学部	物理・数理学科	中学校教諭1種免許状 (理科・数学) 高等学校教諭1種免許状 (理科・数学)
	化学・生命科学科	中学校教諭1種免許状 (理科) 高等学校教諭1種免許状 (理科)
	電気電子工学科	高等学校教諭1種免許状 (工業)
	機械創造工学科	高等学校教諭1種免許状 (工業)
	経営システム工学科	高等学校教諭1種免許状 (情報)
	情報テクノロジー学科	高等学校教諭1種免許状 (情報)
文学部第二部	教育学科	幼稚園教諭1種免許状 小学校教諭1種免許状 中学校教諭1種免許状 (国語・社会) 高等学校教諭1種免許状 (国語・地理歴史・公民)
	英米文学科	中学校教諭1種免許状 (英語) 高等学校教諭1種免許状 (英語)
経済学部第二部	経済学科	中学校教諭1種免許状 (社会) 高等学校教諭1種免許状 (地理歴史・公民)
経営学部第二部	経営学科	高等学校教諭1種免許状 (商業)

(2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)

2. 教員免許状の 取得希望申請に ついて

2006年度以降入学者 の申請方法

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、教職履修申請継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

2005年度以前入学者 の申請方法

教員免許状の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、Web の履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

なお、この申請は、変更・取消がない限り在学期間中に一度行えばよく、毎年再申請する必要はありません。

3. 教職課程料の 納入について

2006年度以降入学者の 教職課程料の納入方法

教員免許状の申請登録 (Web) をすると、申請した年度ごとに後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請登録 (Web) の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、教職課程料の納付時期は9月となります。

2005年度以前入学者の 教職課程料の納入方法

教員免許状の申請登録をすると、後期学費納入時に教職課程料を納入することになります。たとえ教職課程科目の履修登録をしなくても、教員免許状の申請登録によって教職課程料が後期学費に加算されますので、各自の責任において免許教科を確認し、熟考の上申請をしてください。また、申請を取り消す場合には、最初に申請を行った年度に限り、前期履修登録期間内に Web で修正 (取消) を行えば、教職課程料は徴収されません。教職課程料は在学中に一度納入すればよく、毎年徴収されることはありません。また、一旦納入された教職課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

4. 教職課程履修について

履修上の注意

教職課程の履修は、1年次の年度初頭に開催される**教職課程オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください。また、履修方法・科目名称の変更などについては、年度初頭に開催される2年次生対象**教職課程オリエンテーション**と3年次生および4年次生対象**教育実習説明会**で資料を配付しますので、必ず確認してください。

教職課程関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**などの詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**介護等体験登録・教育実習予備登録・教員免許状大学一括申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時までには教員免許状を取得できない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください。

履修順序のある科目

教員免許状取得のための科目には、次ページ以下のとおり「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の該当する学部・学科別の免許教科の項を併せて参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な教員免許状の校種・教科は、「1. **本学で取得可能な教育職員免許状**」の表のとおりです。

〔教員免許状取得に必要な科目の履修順序〕

(2010年度以降入学者に適用)

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II 教職実践演習(幼)

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II 教職実践演習(小)

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者(第一部・第二部)

第1段階		第2段階		第3段階
				第1段階に合格した場合のみ履修できる
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B 教職実践演習(中・高)

- ・「教育原理 A」「教育心理」「教育原理 B」は2年次までしか履修できません。
- ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、第1段階の授業科目に合格している事に加えて「教職課程 英語能力認定制度」に合格していることを条件としています。

・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請手続の詳細については、11月上旬より教職課程掲示板（9号館1階）で周知します。

（2009年度入学者に適用）

幼稚園教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	保育内容教育法を 3教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者

第1段階		第2段階		第3段階
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育思想概説 教育心理学概説 教育制度概説	教職論	初等教科教育法を 4教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者（第一部・第二部）

第1段階		第2段階		第3段階
				第2段階に合格した場合のみ履修できる
		第1段階に合格した場合のみ履修できる		第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)		(4年次配置科目)
教育原理 A (教育思想概説) 教育心理 (教育心理学概説) 教育原理 B (教育制度概説)	教職論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法（英語教授法） 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法 I) 又は フランス語科教育法特論 商業科教育法 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論		中等教育実習 II A 中等教育実習 II B

- ・「教育原理 A」「教育心理」「教育原理 B」は 2 年次までしか履修できません。
- ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」、「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、第 1 段階の授業科目に合格している事に加えて「教職課程 英語能力認定制度」に合格していることを条件としています。
- ・「教職課程 英語能力認定制度」認定申請手続の詳細については、11月上旬より教職課程掲示板（9号館 1階）で周知します。

（2005～2008年度入学者に適用）

幼稚園教諭免許状取得希望者（第一部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	保育内容研究を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

幼稚園教諭免許状取得希望者（第二部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)	(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	保育内容研究を 3 教科以上	幼児教育実習 I	幼児教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者（第一部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)		(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	教材研究を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

小学校教諭免許状取得希望者（第二部）

第 1 段階		第 2 段階		第 3 段階
				第 1 段階に合格した場合のみ履修できる
				第 2 段階に合格した場合のみ履修できる
(1 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(2 年次配置科目)	(3 年次配置科目)	(4 年次配置科目)
教育学概論 教育心理学概論	現代教師論	教材研究を 4 教科以上	初等教育実習 I	初等教育実習 II

中学校・高等学校教諭免許状取得希望者（第一部・第二部）

第1段階		第2段階	第3段階
		第1段階に合格した場合のみ履修できる	第2段階に合格した場合のみ履修できる
(1年次配置科目)	(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)
教育原理 (教育学概論) 教育心理 (教育心理学概論)	現代教師論	中等教育実習 I 国語科教育法 又は 国語科教材論 社会科教育法 又は 社会科教材論 地理歴史科教育法 又は 地理歴史科教材論 公民科教育法 又は 公民科教材論 英語科教育法 (英語教授法) 又は 英語科教育法特論 フランス語科教育法 (フランス語教授法) 商業科教育法 理科教育法 I 及び理科教育法 II 又は 理科教材論 数学科教育法 又は 数学科教育法特論 工業科教育法 情報科教育法 又は 情報科教育法特論	中等教育実習 II A 中等教育実習 II B

- ・「教育原理」「教育心理」は2年次までしか履修できません。
 - ・2005年度入学者の2年次配置科目「教師論」は名称変更により「現代教師論」になりました。2005年度入学者は「現代教師論」を履修してください。
 - ・第二部英米文学科生が「中等教育実習 I」「英語科教育法」および「英語科教育法特論」を履修するには、第1段階の授業科目に合格している事に加えて「**教職課程 英語能力認定制度**」(旧称 T.E.T.)に合格していることを条件としています。
 - ・「**教職課程 英語能力認定制度**」(旧称 T.E.T.)についての詳細は、**教職課程掲示板(9号館1階)**を参照してください。
 - ・「**教職課程 英語能力認定制度**」認定申請手続の詳細については、11月上旬より**教職課程掲示板(9号館1階)**で周知します。
- (2004年度以前入学者は、入学年度の「教育課程履修の手引」を参照してください。)

5. 教職課程科目 配置表

文学部

教育人間科学部

理工学部

社会情報学部

(2012年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		
教職実践演習 (幼)	2	4		
教職実践演習 (小)	2	4		
教職実践演習 (中・高)	2	4		

文学部
教育人間科学部
経済学部
法学部
理工学部
社会情報学部

(2010～2011年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	幼児教育実習 I	1	3	
	幼児教育実習 II	4	4	
	初等教育実習 I	1	3	
	初等教育実習 II	4	4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
中等教育実習 II B	2	4		
教職実践演習 (幼)	2	4		
教職実践演習 (小)	2	4		
教職実践演習 (中・高)	2	4		

文学部
 教育人間科学部
 経済学部
 法学部
 経営学部
 理工学部
 社会情報学部

(2009年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	フランス語科教育法特論	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒・進路指導論	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	総合演習	2	3・4	
幼児教育実習 I	1	3		
幼児教育実習 II	4	4		
初等教育実習 I	1	3		
初等教育実習 II	4	4		
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

文学部
 経済学部
 法学部
 経営学部
 理工学部

(2005～2008年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。 (2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	現代教師論	2	2	} 1・2年次のみ履修可
	教育原理	4	1・2	
	教育心理	4	1・2	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	フランス語科教育法	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	理科教育法 I	2	3	
	理科教育法 II	2	3	
	理科教材論	4	3	
	数学科教育法	4	3	
	数学科教育法特論	4	3	
	工業科教育法	4	3	
	情報科教育法	2	3	
	情報科教育法特論	2	3	
	道徳教育の研究	2	3・4	
	特別活動	2	3・4	
	教育方法の研究	2	3・4	
	生徒指導 (進路指導を含む)	2	3・4	
	教育相談	2	3・4	
	総合演習	2	3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

文学部第二部 (2010年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒・進路指導論	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
	中等教育実習 II B	2	4	
	教職実践演習 (中・高)	2	4	

文学部第二部 (2009年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	教職論	2	2	
	教育原理 A	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育心理	4	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育原理 B	2	1・2	1・2年次のみ履修可
	教育課程編成法	2	3・4	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	道德教育指導法	2	3・4	
	特別活動論	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒・進路指導論	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	総合演習	2	3・4	
	中等教育実習 I	1	3	
	中等教育実習 II A	2	4	
	中等教育実習 II B	2	4	

文学部第二部
 経済学部第二部
 経営学部第二部

(2005～2008年度入学者)

教職課程科目は教育職員免許状の取得を希望し、申請した学生以外は履修できません。 (2004年度以前入学者は、入学年度の「教職課程履修の手引」を参照してください。)				
	科目名	単位数	履修年次	
教 職 課 程 科 目	現代教師論	2	2	} 1・2年次のみ履修可
	教育原理	4	1・2	
	教育心理	4	1・2	
	国語科教育法	4	3	
	国語科教材論	4	3	
	社会科教育法	4	3	
	社会科教材論	4	3	
	地理歴史科教育法	2	3	
	地理歴史科教材論	2	3	
	公民科教育法	2	3	
	公民科教材論	2	3	
	英語科教育法	4	3	
	英語科教育法特論	4	3	
	商業科教育法	4	3	
	道德教育の研究	2	3・4	
	特別活動	2	2・3・4	
	教育方法の研究	2	2・3・4	
	生徒指導（進路指導を含む）	2	2・3・4	
	教育相談	2	2・3・4	
	総合演習	2	3・4	
中等教育実習 I	1	3		
中等教育実習 II A	2	4		
中等教育実習 II B	2	4		

6. 本学で取得可能な資格

[取得可能な資格の種類
(学部・学科別)]

本学で取得可能な資格の種類は次のとおりです。

(2005年度以降入学者)

学 部	学 科	資 格 の 種 類
文学部	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	英米文学科	
	フランス文学科	
	日本文学科	
	史学科	
	心理学科	
教育人間科学部	比較芸術学科	司書・社会教育主事・学芸員
	教育学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
経済学部	心理学科	司書・社会教育主事・学芸員
	経済学科	司書教諭※1・司書・社会教育主事・学芸員
法学部	現代経済デザイン学科	司書・社会教育主事・学芸員
	法学科	司書教諭※1・司書・社会教育主事・学芸員
経営学部	経営学科	司書教諭※2・司書・社会教育主事・学芸員
	マーケティング学科	司書・社会教育主事・学芸員
国際政治経済学部	国際政治学科	司書・社会教育主事・学芸員
	国際経済学科	
	国際コミュニケーション学科	
総合文化政策学部	総合文化政策学科	司書・社会教育主事・学芸員
理工学部	物理・数学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
	化学・生命科学科	
	電気電子工学科	
	機械創造工学科	
	経営システム工学科	
	情報テクノロジー学科	
社会情報学部	社会情報学科	司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員
文学部第二部	教育学科	司書教諭・社会教育主事
	英米文学科	
経済学部第二部	経済学科	
経営学部第二部	経営学科	

※1 2012年度以降の入学生を除く

※2 2010年度以降の入学生を除く

7. 各種資格の取得 希望申請について

2006年度以降入学者の 申請方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、前期履修登録期間に、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

この申請は、毎年度前期履修登録期間に必ず行うものであり、在学中における申請内容の変更・取消、またはその有無にかかわらず、継続の意思を持っている場合には、毎年度申請を更新してください。申請内容は毎年度末にクリアされます。

2005年度以前入学者の 申請方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の取得を希望する者は、入学年度適用の『教職課程履修の手引』を熟読の上、Webの履修登録画面から「教職・各種資格申請」の画面を開き、登録を行ってください。

なお、この申請は、変更・取消がない限り在学期間中に一度行えばよく、毎年申請する必要はありません。

8. 資格課程料の 納入方法

2006年度以降入学者の 納入方法

各種資格（司書教諭・司書・社会教育主事・学芸員）の申請登録（Web）をすると、それぞれの資格について申請した年度ごとに後期学費納入時に資格課程料を納入することになります。たとえ必要科目の履修登録をしなくても、各種資格の申請登録によって資格課程料が後期学費に加算されますので、熟考の上申請をしてください。また、申請登録（Web）の取消しは、前期履修登録期間内しか行えません。なお、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

※学費を前期納付時に一括納付した者については、資格課程料の納付時期は9月となります。

2005年度以前入学者の 納入方法

- ① 司書教諭：「教職・各種資格申請」で司書教諭資格の申請登録をし、「学校経営と学校図書館」を履修登録すると、司書教諭の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ② 司書：「教職・各種資格申請」で司書資格の申請登録をし、「図書館情報学概論」を履修登録すると、司書の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ③ 社会教育主事：「教職・各種資格申請」で社会教育主事資格の申請登録をし、「生涯学習概論」を履修登録すると、社会教育主事の資格課程料が後期学費で徴収されます。
- ④ 学芸員：「教職・各種資格申請」で学芸員資格の申請登録をし、「博物館実習Ⅰ」を履修登録すると、学芸員の資格課程料が後期学費で徴収されます。

①～④の各種資格課程料は在学中に一度納入すればよく、毎年徴収されることはありません。また、一旦納入された資格課程料は、いかなる理由があっても返還しません。

9. 各種資格取得に必要な科目の履修について

履修上の注意

各種資格取得に必要な科目の履修は、1年次の年度初頭に開催される**各種資格オリエンテーション**で配付される入学年度適用の『**教職課程履修の手引**』に従ってください（第二部は、オリエンテーションはありませんので、教職課程課窓口で各種資格申請希望者に『**教職課程履修の手引**』を配付します）。

また、履修方法・科目名称などの変更があった場合には、年度初頭に開催される2年次生対象の**司書・司書教諭・社会教育主事オリエンテーション**、**学芸員オリエンテーション**、2年次生対象「**博物館実習Ⅰ**」**予備登録説明会**（学芸員資格取得希望者対象）などで資料を配付しますので、必ず確認してください。

各種資格関係の**オリエンテーション・説明会**および**手続**等の詳細については、『**学年初頭行事**』（学生ポータルに掲載）、教職課程掲示板で確認してください。

オリエンテーション・説明会に欠席したり、指定期間内に**博物館実習予備登録・各種資格申請**などの手続を行わなかった場合、卒業時まで資格の取得ができない事態に陥ることがありますので、遺漏のないよう自己管理してください（但し、司書教諭資格の取得時期については、『**教職課程履修の手引**』を参照してください）。

履修順序のある科目

司書および学芸員資格取得のための科目には、「**履修順序**」が定められたものがあります。詳細については、『**教職課程履修の手引**』の**司書**および**学芸員**の項を参照してください。

また、学部・学科別の取得可能な資格の種類は、「**6. 本学で取得可能な資格**」の表のとおりです。

〔司書資格取得に必要な科目の履修順序〕

（2012年度入学者）

①	②
2年次以降履修できる (2年次配置科目)	第1段階の科目に合格した翌年度以降にのみ履修できる (3・4年次配置科目)
図書館情報学概論	情報サービス論Ⅱ 情報サービス論Ⅲ メディア組織法Ⅱ メディア組織法Ⅲ

〔学芸員資格取得に必要な科目の履修順序〕

（2011年度以前入学者）

①	②
(3年次配置科目)	①を履修し合格した場合のみ履修できる (4年次配置科目)
博物館実習Ⅰ 博物館概論 博物館学各論	博物館実習Ⅱ

- ・「**博物館実習Ⅰ**」および「**博物館概論**」は、**3年次生しか履修できません**。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」は、実習設備等の諸事情により、受講者は30名までとします。また、2年次10月に博物館実習予備登録を受付け、3年次年度初頭に選抜試験を実施します。
- ・「**博物館実習Ⅰ**」**説明会・予備登録**の日程については、教職課程掲示板で確認して下さい。

(2012年度入学者)

①		②
2・3年次のみ履修できる	3年次のみ履修できる	①を履修し合格した者のみ履修できる
(2年次配置科目)	(3年次配置科目)	(4年次配置科目)
博物館概論 博物館経営論 博物館資料論	博物館実習 I	博物館実習 II

- ・「博物館実習 I」は3年次生しか履修できません。
- ・「博物館実習 I」は、実習設備等の諸事情により、受講者は30名までとします。また、2年次10月に博物館実習予備登録を受付け、3年次年度初頭に選抜試験を実施します。
- ・「博物館実習 I」説明会・予備登録の日程については、教職課程掲示板で確認してください。

履修順序のある科目の
登録方法

- ① 「博物館実習 I」(3年次配置科目)は、**事前登録科目**です。2年次10月に**博物館実習予備登録**をし、3年次の年度初頭に実施される**選抜試験**に合格することにより**事前登録**されるので、履修登録期間中に個人が登録する必要はありません。履修登録期間中に、Webの履修登録画面で登録内容を確認してください。
- ② 「博物館実習 II」(4年次配置科目)は、Webの履修登録画面から各自が登録をしてください。履修順序の条件を満たしていない場合は、登録することができません。

XI . 大学院について

本学には、より高度な専門知識と技術によって確かな実績と高い評価をうける「大学院」各研究科・専攻に加え、時代と社会の要請に応える高度専門職業人養成の「専門職大学院」があります。

学部から本学「大学院」「専門職大学院」へ進学を希望する学生は、詳細を下記に問い合わせてください。

《問い合わせ先》

大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
文学研究科 教育人間科学研究科 経済学研究科 法学研究科 経営学研究科 国際政治経済学研究科 総合文化政策学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻ヒューマンイノベーションコース	大学院事務室 所在：青山キャンパス 総研ビル2階
理工学研究科 社会情報学研究科社会情報学専攻社会情報学コース	スチューデントセンター・学務グループ 所在：相模原キャンパス B棟1階
国際マネジメント研究科	専門職大学院事務室 所在：青山キャンパス 5号館1階

専門職大学院

進学希望研究科	問い合わせ先（担当部署）
国際マネジメント研究科（ビジネススクール） 法務研究科（ロースクール） 会計プロフェッション研究科（アカウンティングスクール）	専門職大学院事務室 所在：青山キャンパス 5号館1階

* 青山学院大学ホームページ（<http://www.aoyama.ac.jp>）にも、情報が載っていますので、参照してください。

* 上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

大学院 入試情報一覧 (2012年度実績)

		学内進学者 選抜※1	内部推薦	外部推薦	一般(秋)	一般(春)	大学院科目 特別履修資 格試験※2
文学研究科	英米文学専攻*1				○	○	○
	フランス文学・語学専攻*1				○	○	○
	日本文学・日本語専攻*1				○	○	
	史学専攻*1				○	○	○
教育人間科学 研究科	教育学専攻*1				○	○	
	心理学専攻*1 心理学コース 臨床心理学コース	○				○	
経済学研究科	経済学専攻*1	○			○	○	○
	公共・地域マネジメント専攻*1	○			○	○	○
法学研究科	私法専攻*1		○	○	○	○	○
	公法専攻*1						
	ビジネス法務専攻*2				○(実施時期は要問い合わせ)		○
経営学研究科	経営学専攻*1	○			○	○	○
国際政治経済 学研究科	国際政治学専攻*2						
	国際経済学専攻*2	○			○	○	○
	国際コミュニケーション専攻*2						
総合文化政策 学研究科	文化創造マネジメント専攻*2	○			○	○	○
	総合文化政策学専攻*3	○			○	○	
理工学研究科	理工学専攻*1 基礎科学コース 化学コース 機能物質創成コース 生命科学コース 電気電子工学コース 機械創造コース 知能情報コース マネジメントテクノロジーコース	○			○(実施時期は要問い合わせ)		
社会情報学研 究科	社会情報学専攻*1 社会情報学コース ヒューマンインベーションコース	○			○(実施時期は要問い合わせ)		

専門職大学院 入試情報一覧 (2012年度実績)

		指定学部推薦			自己推薦			一般入試			
		7月	1月	2月	7月	1月	2月	10月	11月	1月	2月
国際マネジメント研究科	国際マネジメントサイエンス専攻*3							○			○
	国際マネジメント専攻*4							○		○	○
法務研究科	法務専攻*4							○			
会計プロフェッション研究科	会計プロフェッション専攻*4	○	○	○	○	○	○	○			

*1 博士前期課程

*2 修士課程

*3 博士課程(5年一貫制)

*4 専門職学位課程

※1 経営学研究科・国際政治経済学研究科は「学内飛び級」制度も導入しています。

※2 「大学院科目特別履修資格試験」に合格した者は、学部4年次で大学院科目を履修できます。

経済学研究科・経営学研究科では「先取り科目履修方式」もあります。

学務担当窓口について

キャンパス	学務担当窓口	事務取扱時間	
相模原キャンパス	学務グループ (B棟1階 スチューデントセンター)	(月～金)	(土)
		9:00～11:30	9:00～11:30
		12:30～15:05 16:05～17:00	
青山キャンパス	学務部 教務課 (8号館1階)	(月～金)	(土)
		9:00～11:30	9:00～11:30
	12:30～20:00	14:00～20:00	
	学務部 教職課程課 (8号館1階)	(月・水・木)	(土)
		9:00～11:30	9:00～11:30
		12:30～16:00	
(火・金)			
9:00～11:30			
12:30～16:00 17:00～20:00			

*上記の内容に変更が生じた場合は、「学生ポータル」で伝達いたします。

*長期休業など、授業期間以外の事務取り扱いについては「学生ポータル」で伝達いたします。

窓口で取り扱う業務：

- 履修・成績に関すること
- 授業に関すること
- 休学・退学などの学籍に関する願出
- 教職課程(教員免許状)および各種資格(司書教諭・司書・学芸員・社会教育主事)取得に関すること
- 証明書の交付

種類	取扱窓口	手数料(1通につき)
在学証明書	証明書自動発行機 注1) 所属キャンパスの学務担当窓口	和文 200円 英文 400円
成績証明書		
卒業見込証明書		
本学が定めた様式以外の証明書 注2)	所属キャンパスの学務担当窓口	
学力に関する証明書	青山キャンパス教職課程課 相模原キャンパス教職課程担当窓口	和文 400円
免許状取得見込証明書		和文 200円
各種資格取得見込証明書		
健康診断証明書	証明書自動発行機 注1)	和文 200円
	英文・指定用紙は保健管理センター	英文 400円

注1) 在学生の証明書発行は、原則として自動発行機をお使いください。

注2) 即日発行できない証明書があるので事前に取扱窓口で確認してください。

*電話など、窓口以外での受付には原則として応じません。

*提出物は期限を厳守してください。締切後の取り扱いは一切行いません。

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
青山学院スクール・モットー

学生番号

氏名